

鳥取県医師会報

MONTHLY JOURNAL OF TOTTORI MEDICAL ASSOCIATION



平成23年8月15日発行 (毎月1回15日発行)
昭和60年11月28日 第三種郵便物認可
ISSN 0915-3489



第183回・第184回・第185回 鳥取県医師会 代議員会議事録



第183回鳥取県医師会（臨時）代議員会 議事録

1. 開催の期日

平成22年10月21日(木)

午後4時～午後4時20分

2. 開催の場所

鳥取県医師会館 鳥取市戎町

3. 代議員の総数

46名

4. 出席代議員数

29名

5. 出席の役員等

岡本会長、富長副会長

渡辺・吉中・明穂・笠木・魚谷各常任理事

武田・吉田・井庭・米川・清水・村脇・

岡田各理事、新田・石井両監事

長田顧問

6. 会議の状況

〈板倉副議長〉

失礼致します。私、副議長の板倉でございます。

去る9月30日付けをもって、池田議長から議長並びに代議員の辞任届けが提出され、受理されましたので、本日の代議員会は私が議長を務めさせていただきます。

また、池田代議員の後任につきましては、中部医師会より森尾泰夫先生が就任されました。

それでは、ただいまから第183回鳥取県医師会臨時代議員会を開会致します。

まず、事務局より資格確認をお願い致します。

〈谷口事務局長〉

資格確認のご報告を致します。代議員総数は46名でございます。これに對しまして、本日、受付されました代議員の先生は29名で、過半数の出席でございます。以上、ご報告致します。

〈板倉副議長〉

過半数の出席ですので、本会議は成立致します。

次に議事録署名人の選出でございますが、慣例により、議長にご一任願えますか。

〔異議なし〕

それでは、24番・西田法孝代議員、29番・飛田義信代議員のお二方をお願い致します。

それでは、日程に従いまして、「会長挨拶」をお願い致します。

〈岡本会長〉

会長の岡本でございます。本日は第183回鳥取県医師会臨時代議員会を開催致しましたところ、大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠に有難うございます。

本日の代議員会の議事は、次第のとおり議長並びに副会長の補欠選挙であります。

ここで、経過についてご報告致します。

実は、副会長でありました天野道磨先生から去る7月27日、書面をもって、一身上の都合により副会長を辞任したい旨の辞表の提出がございました。私としては、天野先生は本年4月に副会長にご就任されたばかりですし、しばらく時間を置いて、じっくりお考え下さいとして、辞表は「会長預かり」ということに致しました。そして、8月19日の理事会において、皆さんに相談したところ、ほとんど全員の役員から慰留すべきだとのご意見をいただきました。

そこで、私が8月31日、医師会館から天野先生へ電話を差し上げて、心情等についてお伺いしました。その間、池田中部医師会長が対応して下さっており、役員の慰留の気持ちを十二分にご説明しましたが、天野先生は辞意の気持ちが大変固いことから、あきらめざるを得ないということで電話を一旦切りました。そして池田会長とご相談して、8月31日付けをもって辞表を受理することにした次第であります。

私と致しましては、3期目がスタートしたばかりですので、副会長さんにはお世話にならないといけない職責ですので、このまま1年半、副会長欠員のままでは会務執行は困難と判断致しまして、今回、副会長の補欠選挙を行うべく、代議員会を開催した次第であります。何卒、ご理解をお願い致します。

それから、代議員会の開催通知を出しましてから、中部の池田先生から議長並びに代議員の辞任届けの提出がございました。追加の補欠選挙として議長選挙も併せてお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

以上、経過をご報告申し上げまして開会の

ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

〈板倉副議長〉

どうもありがとうございました。ただいまの岡本会長の挨拶につきまして、ご質問、ご意見はございませんか。

それでは、「補欠選挙」に移ります。

ただいま、岡本会長のご挨拶にありまして、まず、はじめに、議長の補欠選挙を行いたいと思います。

ただいままでに文書等をもって立候補を表明された方はございません。どなたか、ここで立候補される方はございませんか。

〈20番：安梅代議員〉

20番、中部の安梅です。私が立候補する訳ではございませんが、ご提案申し上げたいと思います。

社会一般的に議長が欠けた場合は、副議長がその職務を全うするということが普通であると思います。そこで、議長には板倉副議長を、そして、後任の副議長には西部医師会長の野坂先生が適任だと思いますので、ご提案致します。よろしくお願い致します。

〈板倉副議長〉

ただいま、安梅代議員からご提案がありましたが、その他、ご意見はございませんか。

ないようでございますので、お諮り致します。

ただいまご提案のとおり、不肖、私、板倉和資を議長当選人として、そして私の後任の副議長には野坂美仁先生を副議長当選人と決定することにご異議はございませんか。

〔異議なし〕

〈板倉議長〉

ありがとうございました。そのように決定致します。

それでは、改めて議長としてご挨拶を申し上げます。

この度は突然池田議長の退任がありまして、図らずも私が議長を引き受けることになりました。もとより微力ではございますが、一生懸命頑張って会の発展のために尽くしていきたいと思います。どうか皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。以上です。

それでは、野坂副議長、ご挨拶をお願い致します。

〈野坂副議長〉

野坂です。板倉議長を補佐して任務を全うしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

〈板倉議長〉

ありがとうございました。

それでは、議事を進めます。

引き続きまして、副会長の補欠選挙を行います。

選挙します副会長の定員は1名でございます。これに対しまして届出の候補者は1名でございますので、定款施行細則第23条の規定によりまして、投票を行わず、池田宣之君を副会長当選人と決定してよろしいでしょうか。

〔異議なし〕〔拍手〕

それでは、「異議なし」と認め、池田宣之君を副会長当選人と決定致します。

なお、任期は、前任者の残任期間となりますので、当選の本日から平成24年3月31日までとなります。

それでは、当選されました池田副会長からご挨拶をいただきます。

〈池田副会長〉

中部の池田です。この度、ただいまの代議員会で県医師会の副会長に当選させていただきました。ありがとうございます。いいのか、非常に責任の重さを感じております。地区医師会、それから県医師会、今後棲み分けしなければならない部分が多々あるかとは思いますが、岡本会長はじめ先輩役員の方の協力を得て出来る限り、鳥取県の医療・福祉に少しでも役に立てばと考えております。加えて代議員の方の協力、助言をよろしくお願い致します。簡単ですけども挨拶とさせていただきます。よろしくお願い致します。

〈板倉議長〉

ありがとうございました。

以上をもちまして、本日の議事は終了しましたが、その他、ご発言はございませんか。

ないようですので、閉会にあたり、岡本会長よりご挨拶をお願い致します。

〈岡本会長〉

本日は、副会長並びに正副議長の人事を決めていただきまして、誠にありがとうございました。議事としては少ない代議員会ではご

ございましたが、人事というものは非常に重要な議事でありますので、ご理解をお願い致します。

池田副会長におかれましては、中部医師会長との兼任となりますが、今後は鳥取県医師会発展のためにご尽力いただきたいと思っております。また、板倉議長並びに野坂副議長におかれましては、代議員会の活性化、あるいは県医師会の発展に、これまで以上のご理解を賜りたいと思っております。

いろいろ申し上げることがございますが、本日は時間も決まっておりますので、次の機会にまた、お話ししたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

[拍手]

〈板倉議長〉

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第183回鳥取県医師会臨時代議員会を閉会致します。今日は、皆さんありがとうございました。

[拍手]

[午後 4 時25分閉会]

第183回鳥取県医師会臨時代議員会

[理事 (会長)] 岡 本 公 男 印

[議 長] 板 倉 和 資 印

[署名人] 西 田 法 孝 印

[署名人] 飛 田 義 信 印

第183回鳥取県医師会（臨時）代議員会名簿

平成22年10月21日

番号	地区	氏名	番号	地区	氏名	番号	地区	氏名
1	東部	板倉和資	17	東部	吉田泰之	33	西部	左野喜實
2	〃	福島明	18	中部	森尾泰夫	34	〃	角賢一
3	〃	松浦喜房	19	〃	石田浩司	35	〃	中曾庸博
4	〃	安陪隆明	20	〃	安梅正則	36	〃	長谷川真弓
5	〃	石谷暢男	21	〃	青木哲哉	37	〃	木村秀一朗
6	〃	尾崎真人	22	〃	湯川喜美	38	〃	永井小夜
7	〃	加藤大司	23	〃	山本敏雄	39	〃	藤瀬雅史
8	〃	小林恭一郎	24	〃	西田法孝	40	〃	稲賀潔
9	〃	杉山長毅	25	〃	石津吉彦	41	〃	小酒浩
10	〃	下田光太郎	26	西部	野坂美仁	42	〃	松野充孝
11	〃	竹内勤	27	〃	神鳥高世	43	大学	井上貴央
12	〃	田中紀章	28	〃	作野嘉信	44	〃	長谷川純一
13	〃	福永康作	29	〃	飛田義信	45	〃	小川敏英
14	〃	麻木宏栄	30	〃	安達敏明	46	〃	岸本拓治
15	〃	三宅茂樹	31	〃	辻田哲朗			
16	〃	西土井英昭	32	〃	小林哲			

第183回鳥取県医師会（臨時）代議員会次第

とき 平成22年10月21日（木）午後4時

ところ 鳥取県医師会館 鳥取市戎町

1. 開 会
2. 資 格 確 認
3. 議事録署名人選出
4. 会 長 挨 拶
5. 補 欠 選 挙

(1) 議 長 (2) 副 会 長 1 名

6. 閉 会

※この次第は9月30日、議長の補欠選挙を追加したものです。

鳥取県医師会役員補欠選挙 候補者一覧

(任期：平成22年10月21日～平成24年3月31日)

◇副会長候補者 1人 (定数1人以内)

【順序は受付順による】

1. 池田宣之 (中部：倉吉市)

【副会長候補者】

順位	氏名	所属医師会	住所	主な診療科
1	池田宣之	中部医師会	倉吉市宮川町176-11 池田整形外科医院	整形外科

第184回鳥取県医師会（定例）代議員会 議事録

1. 開催の期日

平成23年3月19日（土）
午後5時10分～午後6時20分

2. 開催の場所

鳥取県医師会館 鳥取市戎町

3. 代議員総数

46名

4. 出席代議員数

40名

5. 出席の役員等

岡本会長、池田副会長
渡辺・吉中・明穂・笠木・魚谷各常任理事
武田・吉田・井庭・米川・清水・岡田各理事
新田・石井各監事
入江・長田両顧問

6. 議決事項

次の7議案について原案通り可決、承認した。

- 第1号議案 平成22年度鳥取県医師会共済会収支決算承認ならびに清算について
- 第2号議案 平成23年度鳥取県医師会事業計画（案）について
- 第3号議案 平成23年度鳥取県医師会会費減免申請承認について
- 第4号議案 平成23年度鳥取県医師会一般会計収支予算（案）について
- 第5号議案 平成23年度鳥取県医師会会館修繕積立金会計収支予算（案）について
- 第6号議案 平成23年度鳥取県医師会生命保険取扱特別会計収支予算（案）について
- 第7号議案 平成23年度鳥取県地域産業保健センター収支予算（案）について

7. 会議の状況

〈板倉議長〉

それでは、午後5時10分になりましたので、ただいまから第184回鳥取県医師会定例代議員会を開催致します。まず、事務局より資格確認をお願いします。

〈谷口事務局長〉

資格確認のご報告を致します。代議員総数

は46名でございます。これに対しまして、本日、受付されました代議員の先生は40名で、過半数の出席でございます。以上、ご報告致します。

〈板倉議長〉

過半数の出席ですので、会議は成立致します。

最初に議事録署名人の選出でございますが、これまでの慣例にならって議長に一任願えますか。

〔「異議なし」と言う声あり〕

有難うございます。それでは、9番・杉山長毅代議員、22番・湯川喜美代議員のお二方をお願い致します。

では、日程に従いまして、岡本会長の挨拶をお願い致します。

〈岡本会長〉

会長の岡本でございます。本日は、第184回鳥取県医師会定例代議員会を開催致しましたところ、大変お忙しいなか、ご出席を賜りまして誠に有難うございます。

まずは、去る3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震で犠牲となった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様そのご家族の方々に対しまして心よりお見舞い申し上げたいと思います。そこで、震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げたいと思います。板倉議長、よろしくお願い致します。

〈板倉議長〉

それでは、黙祷を捧げたいと思います。全員、起立をお願いします。

黙祷始め。

黙祷終わります。有難うございました。岡本会長、続けて下さい。

〈岡本会長〉

どうも有難うございました。挨拶を続けさせていただきます。

本日の主な議案は、平成22年度共済会収支決算承認ならびに清算についてと、平成23年度事業計画案及びそれに伴います収支予算案等4議案、会費賦課減免申請の承認でございます。詳細につきましては、後程、担当役員が説明致しますので、慎重審議の上、何卒ご

承認を賜りますようよろしくお願い致します。

さて、折角の機会ですので、最近の動向等について少しお話し申し上げます。

この度の震災に関してですが、日本医師会からJMATの募集がありました。これは医師1人とあとは看護師2人、事務1人で1チームを形成して被災地に行き、救護活動をしてもらえないかということで、東部、中部、西部の医師会にお諮りしたところ、西部の方から、まずお一人の先生が名乗りをあげて下さいました。それを日本医師会の方に聞いたところ、少し待ってくれないかということで、その段階では行政の方もそのうちに医師会にお願いしないといけないことがあるという話をいただいておりました。日医も行政と相談して下さいということだったのですが、その後、医師2人と看護師1人という形でチームを組めないかと西部医師会からのお話がございます。日本医師会に連絡致しましたところ、日程が限定されているので、マッチングがうまくいけばお願いしたいとの返事で、今交渉しているところです。今後、先生方がボランティアしていただくことを大変うれしく思っておりますので、また皆さんに誘いかけただけであれば有難いと思います。

さて、今我々のところで一番問題になっているのが、産業保健の関係でして、まず地域産業保健センターの件です。これまで東部・中部・西部で運営されていた地産保センターにつきましても、平成22年度に県医師会が一括受託させていただきました。東部・中部・西部の先生方の御協力をいただきまして、何とか1年間業務が遂行出来たと思います。ところが、平成23年度は全国で約15%予算を減額するというので、鳥取県の場合は7%減で済みましたが、だんだん国の状況も苦しくなっているということと、減額出来るところは減額しようということで、文句を言わないところはもう切ろうという姿勢で来ているように感じてなりません。とは申しまして、50人未満の小規模事業所のための産業医活動をしっかり支えていく必要があるのではないかとということで、来年度も受託して頑張っていこうと思っております。

もう1点は、産業保健推進センターですが、鳥取県は47都道府県のなかで47番目に設置さ

れて、初代の所長は長田前会長でしたが、これも事業仕分けにあって全国で3分の1くらいにしようではないかという話になりました。まず、平成23年度から7つ減らすということになり、鳥取県はこのなかに入りましたが、同ブロックの中国・四国ではなくて兵庫県と合併ということになりました。その話が来た時には兵庫県の産業保健推進センターの鳥取出張所という名前で、所長も置かずに連絡員を1人置いて、あとはいろいろ学問的なことはやっていただきたいということでした。それからメンタルヘルスは今までどおりにやるということで、言ってみれば勝手な話でございまして、受ける必要はないのではないかなということ、それであれば県医師会は協力出来ないというお話をしました。他の県もかなりあったようですが、鳥取県はとにかくそういうものは要りませんと主張しました。

私に意見を述べてくれということで、逆に産業保健推進センターを地産保センターへ併合して事業を行ってはどうかという話をしておったところ、つい先日、これまでと同じような形で残しますと説明がありました。ただ、今までの推進センター事務所は広くて大変優雅なところがありましたが、規模は小さくさせてくれということと、兵庫県産業保健推進センター鳥取出張所ではなく、鳥取産業保健推進連絡事務所ということで、所長も職員も置くということになりました。少し発展したと思っております。なお、この事業は産業医の勉強会に多大な貢献をしております。前から産業医研修会をしていただいており、今後とも続けていきたいと思っております。

ただ、今までは日医認定産業医を取得するまでの研修も出来たのですが、これからは認定産業医が更新するために必要な単位を取得するための研修しか出来ないことになりましたので、仕事量は減ってくるのではないかと思っております。メンタルヘルスに関しましては、これまで以上に力を入れていきたいということで、連絡事務所にメンタルヘルス支援センターを併設していくということです。

それから地域医療再生計画ですが、これは東部・中部・西部の会長さんも出席されている会議がありまして、50億円とその後追加された15億円をどういう区分で使っていくか

ということで、何にいくら必要かということです。将来の医師が顧みられた時、地域医療のために本当にその当時の鳥取県医師会の役員はきちんとした仕事をしたのかと問われることとなるわけです。医師の養成や、看護職員等の医療関係者の養成もございます。それからいわゆる腫瘍専門看護師であるとか、いろいろたくさん看護師さんの養成も必要になってくるということで、養成するために金がたくさん必要になります。御存知のように、鳥大医学部に地域枠で結構な金額も入っており、人数も増やさないといけないなということで、それはやむを得ないかと思えます。

もう一方では、救急が手狭になっています。産婦人科や小児科を通しての救急もうまくいっていないので、少し予算をつけようということになりました。そして、それぞれの拠点病院とは申しませんが、個々の病院で医療の設備をきちんとし、希望に応じて少しずつ配分していこうということで割り振りしまして、予算をつけております。まだ決まったわけではありません。50億円の分はもう済んでいます。15億円の分は初め3月15日ぐらいに締めて、厚労省に提出することになっておりましたが、2カ月遅らせるような格好で、5月15日までに決めていこうということになっております。

まだまだ、予算が決まっていますが、もう1点、その50億円の部分も不透明と言えは不透明なのですが、たくさんお金が要る事業もございますので、その事業もぜひこの度見直しした方がいいのではないかなということ鋭意努力しているところです。県は行政としてこうだということではなくて、あくまでも委員会あるいは医療審議会できちんと決めて欲しいということで進んでいるところです。

もう1点申し上げておかなければならないこととして、公益法人があります。公益法人は確かに今は宙ぶらりんな状態にして、公益法人をとるのか一般法人をとるのかということですが、どちらをとるに致しましても、きちんとした整理をして仕事をするのに、大体同じくらいの費用が要るわけです。ですから公益法人をとるべきではないかなと私は思っておりますし、その方向で進んでいって、それが無理であり、何らかの支障があると皆さ

んに言われるようなことがございましたら、理事会で諮ったり、もう一回代議員会でお諮りしてどちらをとるかということは決めようと思っております。公益法人を進めていくうえでの手続きを医師会や委員会、個人的にやっても、なかなか専門的な用語がありますので、うまく進んでいきません。そこでコンサルタント会社に一応お願いしました。その段階では、東部・中部・西部の医師会にも、一緒にしませんかと投げかけましたが、県医師会だけで進めてくれということになっているようで、鋭意努力しながら進めているところです。

以上で少々長話になりましたが、開会にあたっての挨拶と致します。

〈板倉議長〉

有難うございました。ただいまの会長挨拶につきまして、発言がありましたら挙手をお願い致します。7番、加藤代議員。

〈7番：加藤代議員〉

7番、加藤です。先程会長は、三陸の被災者の方々に黙祷を捧げられました。皆さん御存知のように今日は懇親会を中止されました。被災地の方々に思いをはせての御決断だと思えますが、その英断に対して敬意を表します。

日医の義援金を募集されておりますが、皆さん御存知かと思えますけれども、医療業界もそれなりに対応しております。ちょっと調べてみましたが、これはただ余談でございすけれども、武田は日赤を通じて3億拠出されております。あと、1億出したのが三共とか塩野義、杏林、田辺、三菱、アステラス、アストラゼネカ、中外、科研といったところはみんな1億でございます。大鵬とか持田とか明治とかエーザイとか大塚、大正とかは今のところ出しておりません。

そういうところでけちるようなところは、もう薬を使わない方がいいと思えますけれども、ちょっと面白かったのは三共と塩野義ですが、その1億以外にマッチングギフト制という制度を併用されておまして、それは社員に寄附金、義援金を募集して、集まった額に会社が同額を上乗せして拠出するという制度だそうでございます。ちなみに、塩野義はプラス2千万円を拠出されています。

日医も義援金を集められるのはいいですけ

れども、会員の懐だけを当てにするのではなくて、このマッチングギフト制を利用されたいかががかと思います。一つの考えでございます。それだけです。

〈岡本会長〉

どうも有難うございました。大変良いことだと思いますので勉強になりました。考えておきますし、それから日医にも伝えたいと思います。有難うございました。

〈板倉議長〉

その他、ございませんでしょうか。それでは、ないようですので、5番の議事に移ります。

第1号議案「平成22年度鳥取県医師会共済会収支決算承認ならびに精算について」を上程致します。執行部の説明をお願いします。魚谷常任理事、よろしくをお願いします。

〈魚谷常任理事〉

それでは説明させていただきます。お手元の議案書4頁をご覧ください。

[以下、議案書により説明]

〈板倉議長〉

有難うございました。ただいまの説明につきまして、何かご質問はございませんでしょうか。

ないようですので、採決に移ります。

第1号議案を原案通り可決することに賛成の方の挙手を求めます。

[挙手多数]

有難うございます。「挙手多数」と認めます。よって、第1号議案は原案通り可決されました。

続いて、第2号議案「平成23年度鳥取県医師会事業計画案について」を上程致します。執行部の説明をお願いします。池田副会長、よろしくをお願いします。

〈池田副会長〉

副会長の池田でございます。それではご説明致します。議案書7頁をご覧ください。

[以下、議案書により説明]

〈板倉議長〉

有難うございました。ただいまの説明につきまして、何かご質問はございませんでしょうか。

〈26番・野坂代議員〉

26番、西部の野坂です。基本方針のところ

に、国の平成21年度補正予算で創設された地域医療再生基金に積極的に関与していくという部分がありましたけれども、その後にありました事業計画のなかの具体的な事項には、テレビ会議システムが入るところに一言あるだけで、あと何もないように感じました。昨年度の50億、それから今回の15億に関しても県医師会として、例えば県の方への積極的な関与というところが見えなくて残念に思っている部分もあるのですが、ここの部分、具体的に今度こういうものをする、あるいは、例えば鳥取県医師会総研みたいなものでもあって、この鳥取県の医療の政策を県医師会の方で指導して県の医療政策課と定期的に、何かもっとわかる形で目標を作って計画が出来るような形がとれないかということをお聞きしたいのですが。

〈岡本会長〉

有難うございます。確かに県医師会が使っているお金は少なく、先生がおっしゃいましたように、テレビ会議システムが主たるところでして、これもある方面から文句を言われながら何とかとれたという格好でございます。

ただ、御存知のように日医総研でもそんなにうまくいっているわけではございません。鳥取県医師会が総研を持ったとして、我々が発信するほどの力を持つためには相当なお金も要るし、人も要るということになりますと、会員の皆さんにかえって無理強いすることになるのではないかと思います。ボランティアはどうしても必要になってまいります、ボランティアばかりではなかなかうまくいきません。ですから、それに、お金はつくではないかとおっしゃいますが、お金がつかないかまでも医療再生基金でございますので、期間限定のものであり、救急であったり、それから人がいないところに人を配備するとか、学生さんを増やすとかです。私が考えたところでは、我々がお金を配分してもらって使うという考え方より、まずは医師を多くしましょう、皆さんを育てるのは、我々もそれはもちろん先生がおっしゃりたいのもわかりますし、地域医療を我々も頑張っていきたいと思えます。講座とかいろいろなことは協力してまいります、それに対してお金が要るとは思いません。限られた財源を取り合って喧

嘩するものどんなものでしょう。

〈26番・野坂代議員〉

先程の総研という言い方は悪かったのかなと思いますが、特に県医師会と県の医療政策課とのすり合わせという部分を考えてもらえればと思うのですけれども、会長以下、県の福祉保健部と綿密にお話しされていることは十分承知しています。承知の上ですが、例えばこの地域医療再生基金の50億の部分、事業のアウトラインが決まってこれだけのことをしますよという、僕らもワーキンググループである程度聞いたなかで、時間が短かったというところではありますが、各項目については予算額、県から示された計画、地域医療協議会の方にぼんと出てきた時に、何でここにこれだけのお金なのという部分の説明が僕らにはなかったです。実際にやってみようと思った時には、本当にこれだけ要るのというように高いお金がついていたり、削られた部分の事業も結構あって、そこのところにもうちょっと県として、県医師会として関与していただきたいと思います。

この15億のことにしても同じような状況が起きていまして、一昨日、西部の保健局でも話をしたのですけれども、この計画案策定まではいいのです。その後の各項目に予算を割振っていく段階で、何でここにこれだけ、ここに足りない、少ないという部分を、もうちょっと現場の意見を聞いていただきたいというのが県への要望です。そこに県医師会として関与が出来ないのかなというところなのです。

〈岡本会長〉

よくわかります。ただ、我々と致しましては、医療懇話会や、いろいろな会で県とは話し合いを持っておりますし、先生がおっしゃりたいのが、いわゆる情報の電子カルテシステムだと思うのですが、莫大なお金が必要で、それからその運営に多額のお金がかかります。私もばからしいということで大分文句を言いました。ただ、それはもう予算がついてしまっているからしょうがないということだったので、ただ今、中身を見直そうということになっていますので、決して決まっているわけではございません。ただ、そういう形で、時間がなかったものですから、お金をい

ただくためには何かをするということで、大きなお金を出すわけです。ですから、確か5億3,000万がそっちに充てられて、それからその運営のために18億というものがあります。しかし、これはあくまでも会員の皆さんが電子カルテを作る時に半分補助することに18億は充てられておるわけです。ですから、それが必要でなかった場合には、違う分野に当然お金を有効利用することは当然のことです。

先程、非常に歯切れが悪かったのはその辺でございまして、先生がおっしゃるように何で5億3,000万、それから18億というものに文句を言わないかと。十分文句を言っておりますし、これはとてもめないということも言っていますが、ただそういうふうにしてとってこないとしようがなかったのです。ところが我々が、ではこういうもので10億要りますと言っても、それはなかなか言い過ぎになってしまうのではないかなという面がございましたので、あの時は確か3カ月ぐらいの間に決まったわけですから、なかなか難しかったというのが現実です。先生は恐らく御理解いただいていると思いますが、そういうところでございますのでよろしくお願い致します。

〈板倉議長〉

よろしいですね。他にございますか。
ないようですので、採決に移ります。

第2号議案を原案通り可決することに賛成の方の挙手を求めます。

[挙手多数]

有難うございます。「挙手多数」と認めます。よって、第2号議案は原案通り可決されました。

続きまして、第3号議案「平成23年度鳥取県医師会会費減免申請承認について」を上程致します。執行部の説明をお願いします。魚谷常任理事、よろしくお願いします。

〈魚谷常任理事〉

それでは、22頁をご覧ください。

[以下、議案書について説明]

〈板倉議長〉

有難うございました。ただいまの説明について、何か質問はございませんでしょうか。
ないようですので、採決に移ります。

第3号議案を原案通り可決することに賛成の方の挙手を求めます。

[挙手多数]

有難うございます。「挙手多数」と認めます。よって、第3号議案は原案通り可決されました。

次に、第4号議案「平成23年度鳥取県医師会一般会計収支予算案について」を上程致します。執行部の説明をお願いします。魚谷常任理事、よろしくお願いします。

〈魚谷常任理事〉

それでは、28頁をご覧ください。

[以下、議案書について説明]

〈板倉議長〉

有難うございました。ここで、予算案に対する質問の他に、会務全般にわたっての質疑を行います。昨日までに質問は届いてございませんが、この場で何か質問、発言のある方は、挙手をお願い致します。

ないようですので、採決に移ります。

第4号議案を原案通り可決することに賛成の方の挙手を求めます。

[挙手多数]

有難うございます。「挙手多数」と認めます。よって、第4号議案は原案通り可決されました。

次に、第5号議案「平成23年度鳥取県医師会会館修繕積立金会計収支予算（案）について」、第6号議案「平成23年度鳥取県医師会生命保険取扱特別会計収支予算（案）について」、第7号議案「平成23年度鳥取県地域産業保健センター収支予算（案）について」の3議案を一括上程致します。執行部の説明をお願いします。魚谷常任理事、よろしくお願いします。

〈魚谷常任理事〉

それでは、42頁をご覧ください。

[以下、議案書について説明]

〈板倉議長〉

有難うございました。ただいまの説明について、何か質問はございませんでしょうか。ないようですので、採決に移ります。

第5号議案から第7号議案までの3議案について、いずれも原案通り可決することに賛成の方の挙手を求めます。

[挙手多数]

有難うございます。「挙手多数」と認めます。よって、第5号議案から第7号議案までの3議案はいずれも原案通り可決されました。

これで、本日の議案はすべて終了しました。ここで閉会にあたりまして、岡本会長から一言ご挨拶をお願いします。

〈岡本会長〉

本日は、平成23年度事業計画及び予算案等7議案につきまして、慎重ご審議をいただき、いずれも原案通りご承認を賜りまして誠に有難うございました。

先程、加藤代議員からもお話がございましたように、震災の関係で、本日の懇親会は控えさせていただきます。どうかお気をつけてお帰り下さい。どうも有難うございました。

[拍手]

〈板倉議長〉

それでは、以上をもちまして、第184回鳥取県医師会定例代議員会を閉会致します。有難うございました。

[拍手]

[午後6時20分閉会]

第184回鳥取県医師会定例代議員会

[議長] 板倉和資印

[署名人] 杉山長毅印

[署名人] 湯川喜美印

第184回鳥取県医師会（定例）代議員会名簿

平成23年 3月19日

番号	地区	氏 名	番号	地区	氏 名	番号	地区	氏 名
1	東部	板 倉 和 資	17	東部	吉 田 泰 之	33	西部	左 野 喜 實
2	〃	福 島 明	18	中部	森 尾 泰 夫	34	〃	角 賢 一
3	〃	松 浦 喜 房	19	〃	松 田 隆	35	〃	中 曾 庸 博
4	〃	安 陪 隆 明	20	〃	安 梅 正 則	36	〃	長谷川 真 弓
5	〃	石 谷 暢 男	21	〃	青 木 哲 哉	37	〃	木 村 秀 一 朗
6	〃	尾 崎 眞 人	22	〃	湯 川 喜 美	38	〃	永 井 小 夜
7	〃	加 藤 大 司	23	〃	山 本 敏 雄	39	〃	藤 瀬 雅 史
8	〃	小 林 恭 一 郎	24	〃	西 田 法 孝	40	〃	稲 賀 潔
9	〃	杉 山 長 毅	25	〃	石 津 吉 彦	41	〃	小 酒 浩
10	〃	下 田 光 太 郎	26	西部	野 坂 美 仁	42	〃	松 野 充 孝
11	〃	竹 内 勤	27	〃	神 鳥 高 世	43	大学	井 上 貴 央
12	〃	田 中 紀 章	28	〃	作 野 嘉 信	44	〃	長谷川 純 一
13	〃	福 永 康 作	29	〃	飛 田 義 信	45	〃	小 川 敏 英
14	〃	松 田 裕 之	30	〃	安 達 敏 明	46	〃	岸 本 拓 治
15	〃	石 河 利 一 郎	31	〃	辻 田 哲 朗			
16	〃	森 英 俊	32	〃	小 林 哲			

第184回鳥取県医師会（定例）代議員会次第

と き 平成23年 3月19日（土） 午後 5時
と ころ 鳥取県医師会館 鳥取市戎町

- | | | |
|-------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 開 会 | 第 4 号議案 | 平成23年度鳥取県医師会一般会計収支予算（案）について |
| 2. 資 格 確 認 | 第 5 号議案 | 平成23年度鳥取県医師会会館修繕積立金会計収支予算（案）について |
| 3. 議事録署名人選出 | 第 6 号議案 | 平成23年度鳥取県医師会生命保険取扱特別会計収支予算（案）について |
| 4. 会 長 挨 拶 | 第 7 号議案 | 平成23年度鳥取県地域産業保健センター収支予算（案）について |
| 5. 議 事 | | |
| 第 1 号議案 | 平成22年度鳥取県医師会共済会収支決算承認ならびに清算について | |
| 第 2 号議案 | 平成23年度鳥取県医師会事業計画（案）について | |
| 第 3 号議案 | 平成23年度鳥取県医師会会費減免申請承認について | |
| | 6. 閉 会 | |

第1号議案 平成22年度鳥取県医師会共済会収支決算承認ならびに清算について

平成22年度鳥取県医師会共済会収支決算書

(単位：円)

科 目	当初予算額	決 算 額	差 異	摘 要
(1) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 会 費 収 入	0	0	0	
1. 会 費				
2. 基本財産運用収入	5,000	21,225	16,225	積立金利息
1. 財 産 収 入				
3. 雑 収 入	127,071,000	126,250,297	-820,703	普通預金利息 297円 積立金取崩金 126,250,000円
1. 雑 収 入				
事業活動収入計	127,076,000	126,271,522	-804,478	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出	127,536,000	125,953,950	-1,582,050	
1. 病気療養見舞金	7,650,000	2,775,000	-4,875,000	入院8件 居宅3件
2. 弔 慰 金	0	0	0	
3. 配偶者弔慰金	0	0	0	
4. 退会慰労金	0	0	0	
5. 災害見舞金	0	0	0	
6. 還 付 金	119,886,000	123,162,300	3,276,300	(掛金-給付額) × 41.6% (486名)
7. 繰 出 金	0	16,650	16,650	一般会計へ
2. 管理費支出	1,040,000	325,444	-714,556	
1. 一 般 事 務 費	640,000	256,784	-383,216	口座振込手数料、送料他

科 目 目	当初予算額	決 算 額	差 異	摘 要
2. 委員会費	400,000	68,660	-331,340	
事業活動支出計	128,576,000	126,279,394	-2,296,606	
事業活動収支差額	-1,500,000	-7,872	1,492,128	
(II) 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	0	0	0	
1. 積立金				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
(III) 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
(IV) 予備費支出				
1. 予備費	500,000	0	-500,000	
1. 予備費				
当期収支差額	-2,000,000	-7,872	1,992,128	
前期繰越収支差額	2,000,000	7,872	-1,992,128	
次期繰越収支差額	0	0	0	

鳥取県医師会共済会の解散から清算までについて

平成23年 3月

年 月	内 容	
昭和48年10月	共済会発足	
平成12年10月 6日	鳥取県西部地震。 災害見舞金を給付。81件、12,620,000円	
平成17年	保険業法の改正。無届での共済事業の禁止。	
平成20年12月 1日	公益法人制度改革 3法の施行。 新法人移行後は共済事業を行なうことが困難。	
平成21年 1月29日	共済会運営委員会。今後の存廃について協議。 存続を希望するも条件等が非常に困難。	
平成22年 1月30日	共済会運営委員会。 廃止に向けて最終協議。解散を議決。	
2月18日	第11回理事会。 共済会解散を議決し、代議員会へ上程することを決定。	
3月 6日	第181回定例代議員会。 3月31日をもって共済会解散を議決。	
3月10日	加入会員へ共済会解散の周知文書を発送。	
3月31日	共済会解散。 入院中及び継続で自宅療養分については給付対象。	
9月30日	給付申請の最終締切	
11月24日	加入会員へ分配金送金先口座の確認通知を発送。	
12月 4日	共済会の清算業務にかかる委員会。 残余財産、分配金の計算。	
12月24日	加入会員へ分配金額の通知を発送。	
12月28日	分配金の送金。 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 5px;"> 会員数515名、分配金非対象者29名 分配金対象者486名、分配金総額：123,162,300円 </td> </tr> </table>	会員数515名、分配金非対象者29名 分配金対象者486名、分配金総額：123,162,300円
会員数515名、分配金非対象者29名 分配金対象者486名、分配金総額：123,162,300円		
平成23年 2月17日	第11回理事会。 会計監査、清算を報告。	
3月19日	第184回定例代議員会。 決算承認ならびに清算を報告。	

平成23年度鳥取県医師会事業計画

〈基本方針〉

平成21年8月の衆議院総選挙の勝利により政権交代を果たした民主党であるが、昨年7月の参議院選挙では敗北し、いわゆる“衆参ねじれ国会”となり、政権運営は防衛問題や政治資金問題などから不安定な情勢が続いている。

国の医療政策においては、課題であった後期高齢者医療制度の見直し最終案がまとまり、改正法案が国会に提案される予定だが、運営の主体とされた都道府県からは反対意見が出されており、法案の成立には紆余曲折が予想され、平成25年度スタートは危うい状況にある。

また、政府による環太平洋連携協定（TPP）への参加の是非の検討では、自由化例外品目を提示しての参加が認められないとされており、TPP参加により日本の医療に市場原理主義が持ち込まれ、混合診療解禁による公的医療保険の給付範囲の縮小や安全性の低下など、最終的には国民皆保険の崩壊につながりかねない面もあると懸念されている。これらは新成長戦略にある外国人患者の受け入れ、いわゆる医療ツーリズム、外国人医師・看護師の受け入れに進展する可能性があり、国には人命に関わる医療や介護分野に重大な影響が出ないよう、特に国民皆保険の堅持について熟慮してもらいたいところである。

国の平成21年度補正予算で創設された「地域医療再生基金」では、医師・看護師確保対策を中心とした計画がまとめられ順次実施されているところであるが、更に平成22年度補正予算で臨時特例措置として、都道府県の3次医療圏単位の医療提供体制の拡充策として15億円が追加配分されることとなり、主に救急医療体制の拡充などの計画があげられており、今後、これらの再生計画の確実な実施について積極的に関与していくこととする。

中国四国医師会連合にあっては平成23年度、本会がブロックの担当を務めることから、日本医師会、中国四国各県医師会との密接な連携強化を図ることとする。

公益法人制度改革については、公益認定又は一般認可の移行に向けて事務的作業をスタートしなければならない時期にあり、具体的な対応に着手することとする。

以上のような状況を踏まえ平成23年度事業を展開していくにあたり、下記7項目を重点的に実施することとする。

記

1. 医の倫理の高揚の推進
2. 会員への生涯教育及び県民への健康教育の推進
3. 国民皆保険制度の堅持
4. 地域医療提供体制の更なる充実
5. 医療安全対策の推進
6. 中国四国各県医師会との連携強化
7. 公益法人制度改革への対応

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
1. 医の倫理の高揚の推進	<ul style="list-style-type: none"> * 地区医師会との緊密な連携のもと、医師の良識と社会的使命を基盤として医の倫理の高揚に努める。 * 聖職の自覚、医師相互間の社会性の確立、医師会団体秩序の維持に努める。 * 日医提唱の「医師の職業倫理指針（改訂版）」の普及促進を図る。 * 「ピア・レビュー」（同一専門家による評価）を 	

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
<p>2. 医療安全対策・自浄作用活性化対策、診療情報提供の推進</p> <p>(1) 医療安全対策</p> <p>(2) 自浄作用活性化対策</p> <p>(3) 診療情報提供の推進</p> <p>(4) 個人情報保護法対策</p>	<p>行い、保険診療のみならず、医療全般に対する県民からの更なる信頼の確立に努める。</p> <p>*医療安全対策の検証と啓発を行う。</p> <p>*医療安全対策の経験交流研修会を開催する。</p> <p>*日本医師会「医療従事者のための医療安全対策マニュアル」を周知するとともに、実践の推進を図る。</p> <p>*「産科医療補償制度」の周知及び参加を推奨する。</p> <p>*自浄作用活性化の推進を図る。</p> <p>*日本医師会「自浄作用活性化推進に向けて」を周知するとともに、実践の推進を図る。</p> <p>*診療情報提供の推進を図る。</p> <p>*日本医師会「診療情報の提供に関する指針（第2版）」を周知するとともに実践の推進を図る。</p> <p>*医療相談窓口を設置し、県民からの相談にあたるとともに地区医師会相談窓口との連携を図る。</p> <p>*県の医療相談窓口「医療安全支援センター」との情報交換、連携を図る。</p> <p>*法の規定により遵守すべき事項の周知を図り、個人情報の適正な取扱いに努める。</p>	<p>○ 医療安全対策委員会</p> <p>○ 職業倫理・自浄作用活性化委員会</p> <p>○ 診療情報提供推進委員会</p>
<p>3. 医学医術の研究奨励及び生涯教育の推進</p> <p>(1) 定例総会の開催</p> <p>(2) 医学会の開催</p> <p>(3) 日本医師会生涯教育制度の推進</p> <p>(4) 鳥取大学及び医学諸団体との連絡協調</p> <p>(5) 医学研究の奨励</p>	<p>*永年在任役職員表彰、医業50年会員表彰、米寿・喜寿祝贈呈、鳥取医学賞の授与、特別講演などを行う。</p> <p>*春季医学会、秋季医学会を開催し、会員の研究発表を行うことにより、医学・医術の向上を図る。</p> <p>*新たな「日本医師会生涯教育制度」実施要綱に基づき、生涯教育の推進を図る。</p> <p>*日本医師会生涯教育講座を開催する。</p> <p>*インターネット活用による生涯教育（e-ラーニング）の推進を図る。</p> <p>*国立大学法人鳥取大学（医学部及び附属病院）をはじめ医学諸団体との連携を強化する。</p> <p>*鳥取医学賞の選定を行う。</p>	<p>○ 定例総会</p> <p>○ 春季医学会（米子市 23.6.5）</p> <p>○ 秋季医学会（倉吉市 23.11.23）</p> <p>○ 生涯教育委員会</p> <p>Ⓔ 鳥取大学経営協議会</p> <p>Ⓔ 鳥取大学関連管理型病院協議会</p> <p>Ⓔ 鳥取県がん診療連携協議会</p> <p>Ⓔ 県立病院運営評議会</p> <p>○ 鳥取医学雑誌編集委員会</p>

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
(6) 鳥取医学雑誌の発行	<ul style="list-style-type: none"> * 会員研究発表を鳥取医学雑誌へ掲載する。 * 春秋医学会での会員研究発表の他、学会長推薦演題を選定し、積極的な投稿を呼びかける。 * 鳥取大学の各医局及び主な病院へ論文の投稿を依頼する。 	
4. 地域社会活動対策		
(1) 健康診査管理指導事業	<ul style="list-style-type: none"> * 鳥取県健康対策協議会と共同で、がん対策を中心として下記事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> がん登録事業の継続、追跡調査の継続、調査結果の報告、がん検診従事者講習会、読影委員会及び細胞診判定委員会との連絡強化、がん検診精密検査医療機関登録 (胃がん、肺がん、乳がん、子宮がん、大腸がん、肝がん) * 臨床検査精度管理事業の推進を図る。 * 鳥取県が実施する衛生検査所の立入検査、精度管理に協力する。 * 妊婦健康診査の検診回数の拡充（公費負担）に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 鳥取県がん対策推進県民会議 ○ 臨床検査精度管理委員会 ㊦ 鳥取県精度管理専門委員会
(2) 特定健診・保健指導への対応	<ul style="list-style-type: none"> * 電子化の代行、集合契約の締結、情報の伝達など行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 鳥取県地域・職域連携推進協議会 ㊦ 鳥取県保険者協議会
(3) 地域保健活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> * 母子保健・医療、少子化対策事業などに協力する。 * 「総合周産期母子医療センター」の運営に協力する。 * 疾病構造の地域特性に関する調査、乳幼児・児童生徒の心臓検診を推進する。 * 「生活習慣病」対策の推進を図る。 * 在宅医療の推進のための実地研修事業を実施する。 * 禁煙指導医、禁煙講演医養成のための研修会の開催及びニコチン依存症治療に関する情報提供を行うなど、禁煙指導を推進する。 * がん撲滅をめざす“がん征圧運動”に協力する。 * <u>子宮頸がん予防（HPV）ワクチン、ヒブ（インフルエンザ菌 b 型）ワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種事業に協力する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 鳥取県母子保健協議会 ㊦ 若年者心疾患対策協議会 ○ 禁煙指導対策委員会 ㊦ 鳥取県がん征圧大会
(4) 糖尿病対策	<ul style="list-style-type: none"> * 糖尿病の発症予防、合併症予防等の対策を推進する。 * 糖尿病専門医以外の医師のレベルアップを目指す。 * 世界糖尿病デーにおける「ブルーライトアップ」に呼応し、県民向けの啓発活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 糖尿病対策推進会議 ○ 糖尿病対策推進会議従事者講習会 ○ 仁風閣ブルーライトアップ
(5) 情報ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> * 鳥取県医師会IT化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報システム運営委

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
の推進	<ul style="list-style-type: none"> * 地域医療情報ネットワークの構築を推進する。 * 情報システムに関する講演会を開催する。 	員会 ○ 鳥取県医療情報研究会 ○ 日医医療情報システム協議会
(6) 環境対策	<ul style="list-style-type: none"> * 日本医師会テレビ会議システムへ参加する。 * 地域医療再生基金を活用したテレビ会議システムを導入し、積極的な利用を図る。 	○ 鳥取県環境管理事業センター参加会
(7) 救急医療・防災対策	<ul style="list-style-type: none"> * 環境保全対策、医療廃棄物対策、地球温暖化防止対策を図る。 * 在宅医療廃棄物処理ガイドラインを周知する。 * 県立中央病院及び鳥取大学医学部附属病院の「救命救急センター」の運営に協力し、救急医療体制の確保・充実に努める。 * ACLS、JPTECの研修会を開催する。 * 救急告示医療機関、平日夜間及び休日急患診療所、病院群輪番制の連携により救急医療体制の充実に図る。 * 救命救急医療体制、へき地医療対策、空港における救急医療体制の整備を検討する。 * 国民保護法による指定地方公共機関としての国民保護業務計画に基づき、武力攻撃やテロ発生時の国民保護医療に努める。 * ドクターヘリコプター、消防防災ヘリコプター体制に協力する。 * 中国四国医師会の緊急連絡体制の整備を検討する。 * メディカルコントロール体制に協力する。 * 県内でNBCR災害が発生した場合に備え、平素から関係機関相互の連携を図る。 ※「NBCR災害」とは核 (Nuclear)、生物剤 (Biological)、化学剤 (Chemical) 及び放射能 (Radiological) による災害をいう。 	○ 鳥取県環境管理事業センター参加会 ○ 鳥取県防災会議 ○ ドクターヘリ運航調整委員会 ○ ドクターヘリ運航に係る関係者会議 ○ 救急医療担当理事連絡協議会 ○ 鳥取県メディカルコントロール協議会 ○ 鳥取県NBCR災害対処現地関係機関連絡会議
(8) メンタルヘルス・自殺対策	<ul style="list-style-type: none"> * 地域におけるうつ病並びに自殺対策について、鳥取県並びに鳥取大学医学部が行なう事業に積極的に協力する。 * 産業医研修会等を通じて、会員へ周知する。 * 冊子「かかりつけ医と精神科医との連携マニュアル」の活用を周知し、うつ病の早期診断、専門医への紹介など日常診療の一助とする。 	○ 鳥取県心といのちを守る県民運動 ○ かかりつけ医と精神科医との連携会議
(9) 犯罪被害者支援対策	<ul style="list-style-type: none"> * とっとり被害者支援センターの運営に協力する。 	○ 鳥取県犯罪被害者連絡協議会
(10) 麻薬対策	<ul style="list-style-type: none"> * 麻薬事故防止対策、麻薬・覚せい剤乱用防止運動（麻薬・向精神薬の説明会、新入会員の指導）を展開する。 * 麻薬の適正使用の促進を図る。 	○ 薬物乱用防止対策推進本部会議

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
(11) 感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> * 新型インフルエンザ、高病原性鳥インフルエンザを始めとする各種感染症対策について県と連携して「発熱外来」、「入院対応医療機関」の設置などに協力し、対策の充実を図る。 * 感染症サーベイランス、B型及びC型肝炎対策、MRSA対策、院内感染対策の充実を図る。 * 各種予防接種医療機関を登録する。 * 感染症予防法及び県予防計画の周知と協力を行う。 * 県との連携によりインフルエンザワクチンの安定供給に努める。 * 麻しん等集団発生時の対応についてのマニュアルシステムの構築に向けて検討する。 * 麻疹、風疹患者の発生状況報告制度を周知し、協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症危機管理対策委員会 ○ 日医感染症危機管理対策会議 ㊤ エイズ対策専門家会議 ㊤ エイズ対策委員会 ㊤ 鳥取県感染症危機管理対策協議会 ㊤ 鳥取県インフルエンザワクチン対策委員会 ㊤ 鳥取県抗インフルエンザウイルス薬対策委員会
(12) 県及び関係諸団体の公衆衛生活動への協力	<ul style="list-style-type: none"> * 関係団体等との連携を図る。 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>公衆衛生協会、保健事業団、社会福祉協議会、社会福祉審議会、献血推進協議会、交通対策協議会、環境審議会、医療情報研究会、山陰地区感染症懇話会、臓器バンク</p> </div>	
(13) 共同利用施設対策	<ul style="list-style-type: none"> * <u>中国四国医師会共同利用施設等連絡協議会（平成24年度）の開催準備に向けて企画等について検討する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国医師会共同利用施設総会（山形市 23.9.3）
(14) 健康づくり文化の創造推進	<ul style="list-style-type: none"> * 県が進める健康づくり文化創造推進事業に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊤ 鳥取県健康づくり文化創造推進県民会議
5. 地域医療対策		
(1) 医師確保対策・男女共同参画	<ul style="list-style-type: none"> * 日本医師会女性医師バンク事業等と連携し、地域医療体制安定化のため医師確保対策に取り組む。 * 「女性医師の懇談会（仮称）」を開催し、女性医師に鳥取県医師会会務へ積極的に提言、参画していただく。 * 講演会時の託児・保育システムなど女性医師対策を推進する。 	
(2) 地域医療計画対策	<ul style="list-style-type: none"> * 「鳥取県地域医療再生計画」の事業推進に協力する。 * 地域医療体制の安定化を推進する。 * 在宅療養支援診療所の普及を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊤ 鳥取県医療審議会 ㊤ 鳥取県地域医療対策協議会 ㊤ 保健医療推進会議
(3) 地域医療連携推進対策	<ul style="list-style-type: none"> * 診診連携、病診連携、病病連携の推進を図る。 	
(4) 老人保健福祉対策	<ul style="list-style-type: none"> * 保健・医療・福祉の連携充実を図る。 * 老人保健福祉計画の見直しへの対応を図る。 * 老人福祉施設対策を図る。 * 老人訪問看護制度の対応を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊤ 老人保健福祉計画推進委員会 ㊤ 介護実習普及センター運営委員会
(5) 医療法改正対策	<ul style="list-style-type: none"> * 改正医療法への対応を検討する。 * 医療特区・医療ツーリズム・混合診療導入反対、国民皆保険制度堅持の運動を引き続き展開する。 	

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
(6) 有床診療所対策	<ul style="list-style-type: none"> *有床診療所機能を有効に発揮し、地域のニーズに応える医療提供に努める。 *全国有床診療所連絡協議会との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鳥取県有床診療所協議会 ㊦ 全国有床診療所連絡協議会
6. 社会保障医療対策		
(1) 医療保険制度対策	<ul style="list-style-type: none"> *社会保障制度の抜本的改正対策を検討する。 *医療保険制度改革対策を図る。 *<u>小児特別医療制度の対象拡大の周知、障害者自立支援制度改革への協力を図る。</u> *社会保険診療報酬改定への対応を推進する。 *<u>後期高齢者医療制度の改正案の周知・徹底を図る。</u> *在宅療養支援診療所の推進を図る。 *<u>ジェネリック医薬品の利用促進について検討する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 鳥取県ジェネリック医薬品安心使用促進協議会
(2) 介護保険制度対策	<ul style="list-style-type: none"> *介護保険の運営、介護保険報酬改訂の周知を図る。 *介護支援専門員組織との連携を推進する。 *介護保険事業計画の改正に伴う対策を図る。 *地域支援事業（介護予防事業）に協力する。 *療養病床再編計画の周知、推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護保険対策委員会 ㊦ 地域ケア整備構想検討委員会
(3) 社会保障医療対策	<ul style="list-style-type: none"> *適正な保険請求に関する疑義等について検討を行なう。 *請求事務適正化対策等の調査検討を行う。 *健保・生保・国保の指導、監査、集団指導、自主的指導計画を検討し、<u>指摘事項の周知徹底を図り、適正な保険診療の推進を図る。</u> *関係法令の周知と地区医師会との連絡強化を図る。 *新規開業医療機関の医事研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療保険委員会 ○ 社会保険指導者講習会 ○ 中国四国厚生局との打合会 ○ 福祉保健課との打合会
(4) 県及び関係団体との連絡協調	<ul style="list-style-type: none"> *中国四国厚生局鳥取事務所、基金、国保連合会等との連絡強化を図る。（地方社会保険医療協議会鳥取部会、基金幹事会、基金・国保審査委員会など。<u>※審査員の改選期6月</u>） *県などの各種委員会へ委員等を派遣する。（鳥取県医療審議会、社会福祉審議会など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支払基金との懇談会 ○ 国保連合会との懇談会
(5) 医療保険情報の周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> *<u>健保、国保の疑義解釈などの医療保険関係情報を随時、医師会報に掲載し、周知徹底を図る。</u> *新入会員への啓発研修を行う。 	
7. 医政対策		
(1) 日本医師会との連携	<ul style="list-style-type: none"> *日医での諸会議へ役員を派遣し、情報収集、連携強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日医代議員会 ○ 都道府県医師会長協議会 ○ 日医の各担当理事連絡協議会 ○ 日医の各種委員会

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
(2) 中国四国医師会連 合との連携	* <u>ブロック当番県として、中国四国医師会連合各県との連携強化を図る。</u>	○ 日医医療政策シンポジウム ○ 中国四国医師会連合総会 (鳥取市 23. 5. 28-29)
(3) 県及び関係団体との 連携	* 県及び関係団体の諸事業についての意見交換、事業協力する。 * 県教育委員会との連携を推進する。 * 県警察本部との連携を図る。(猟銃等の所持許可にかかる診断書交付医療機関の登録、認知症疑い高齢者の運転免許証更新時における診断の協力など) * 県人権文化センターとの連携を図り、人権擁護活動を推進する。	○ 中国四国医師会連合各分科会 ○ 中国四国医師会連合常任委員会 ○ 中国四国医師会連合各種研究会 ○ 医療懇話会 ○ 県教育委員会との連絡協議会
(4) 三師会との連携	* 三師会の連携強化を図る。(当番：歯科医師会)	㊦ 鳥取県人権文化センター理事会
(5) 国際交流の推進	* 医療保険対策の連携を図る。	㊦ 鳥取県国際交流財団理事会
(6) 日医連及び県医連との 連携	* 国際交流事業に協力し、外国人バリアフリーの推進、外国人の診療対応医療機関登録制度に協力する。	○ 広島国税局との懇談会
(7) 国民のための医療 推進協議会とつとりの 推進	* 医師会の目的を達成するため医師連盟との適切な連携を図る。 * 協議会の構成団体の連携により国民皆保険制度の堅持、国民のための医療を守るため、講演会等を開催する。	○ 日医医療関係者担当理事連絡協議会 ○ 看護高等専修学校連絡協議会
8. 医療経済対策		㊦ 准看護師試験委員会 ㊦ 看護職員確保対策協議会
(1) 医業経営対策	* 医業経営に関する情報提供を行う。(麻薬、保険、協力貯蓄、医師年金、日本医師従業員国民年金基金、医療機関厚生年金基金、調査統計等) * 各種の税制対策に関する情報収集に努める。 * 控除対象外消費税の解消に努める。 * 社会保険診療報酬に対する事業税非課税存続を求め、関係各方面への働きかけを強化する。	○ 日医医療関係者担当理事連絡協議会 ○ 看護高等専修学校連絡協議会
(2) 看護職員対策	* 看護職員養成対策の強化を図る。 * 看護高等専修学校との連携強化、情報交換を図る。 * 訪問看護ステーション、ナースセンター運営事業へ協力する。	

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
<p>(3) 地域社会に対する協力制度の確立</p> <p>9. 広報活動の充実</p> <p>(1) 医師会報の発行</p> <p>(2) 広報の強化</p> <p>(3) 報道機関など対外広報との連絡</p> <p>(4) 県民健康教育</p> <p>10. 部会活動の強化</p> <p>(1) 母体保護法指定医部会</p> <p>(2) 学校医部会</p>	<p>*各種検診料、検査料等医師報酬の適正化、事故対策を検討する。</p> <p>*取材活動の拡充、編集方針の検討、会報の充実を図る。</p> <p>*医師会サーバによる情報発信の充実を図る。</p> <p>*会員向けの広報を徹底する。</p> <p>*県民向けの広報活動を強化する。</p> <p>*ホームページコンテンツの充実を図る。</p> <p>*報道関係との連絡、各種団体対外広報との連携を図る。 (医師会報、日医ニュース、その他各種資料の配布)</p> <p>*報道記者との懇談会を開催し、医師会活動のPR及び国民皆保険制度など医療制度の諸問題について理解していただく。</p> <p>*公開健康講座、健康フォーラムの開催、「保健の窓」「健康なんでも相談室」を日本海新聞に掲載し県民健康教育の充実を図る。</p> <p>*生活習慣病対策セミナーを地区医師会の協力のもと開催する。</p> <p>*健康医療相談（毎週木曜日）を継続運営する。</p> <p>*県民カレッジ事業へ協力する。</p> <p>*県立図書館の出張貸し出しサービスに協力する。</p> <p>*母体保護法指定医師の指定審査を行う。</p> <p>*（仮称）指定学校医の制度化について検討する。</p> <p>*学校医活動の強化を図る。</p> <p>*学校医研修会を開催し、学校医の資質向上を図る。</p> <p>*学校保健会報等広報の充実を図る。</p> <p>*鳥取県学校保健会との連携強化を図る。</p> <p>*日医学校保健講習会、全国及び中国地区学校保健・学校医大会への出席と伝達講習を行う。</p> <p>*「小児メタボリック症候群診断基準」の周知を図るとともに、学校現場での実践に向けて、具体的方策について検討する。</p>	<p>⑥ ナースセンター事業運営委員会</p> <p>○ 広報委員会</p> <p>○ 会報編集委員会</p> <p>○ 報道機関との懇談会</p> <p>○ 健康フォーラム (鳥取市 23.9.3)</p> <p>○ 公開健康講座12回 (2回程度は出張講座とする)</p> <p>○ 母体保護法指定医師審査委員会</p> <p>○ 家族計画母体保護法指導者講習会</p> <p>○ 学校医部会運営委員会</p> <p>○ 学校医・学校保健研修会</p> <p>○ 日医学校保健講習会</p> <p>○ 日医母子保健講習会</p> <p>○ 全国学校保健・学校医大会 (静岡市 23.10.29)</p> <p>○ 中国地区学校保健・学校医大会 (米子市 23.8.21)</p> <p>○ 中国四国学校保健担</p>

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
(3) 健康スポーツ医部会	<ul style="list-style-type: none"> * 「日医認定健康スポーツ医」の認定審査、申請を行う。 * 健康スポーツ医学再研修会を開催し、健康スポーツ医の資質向上を図る。 	<p>当理事連絡会議 (米子市 23. 8. 21)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康スポーツ医委員会 ○ 日医健康スポーツ医学講習会 ○ 健康スポーツ医学再研修会 ㊦ 日体協スポーツ医学講習会
(4) 労災指定医部会	<ul style="list-style-type: none"> * 鳥取労働局との連絡協調を図る。 * 労災保険情報センター (RIC) の組織再編への対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 労災保険運営協議会 ㊦ 労災保険診療費審査委員会
(5) 産業医部会	<ul style="list-style-type: none"> * 産業医活動の強化を図る。 * 産業医研修会を開催し、産業医の資質向上を図る。 * 日医認定産業医の審査、申請を行う。 * 地域産業保健事業を受託し、労働者の健康相談事業等を行う。 * 鳥取産業保健推進センター廃止に伴う事後の対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 労災診療協議会 ○ 産業医部会運営委員会 ○ 産業医研修会 ○ 産業保健活動推進全国会議 ㊦ 鳥取県産業保健協議会 ㊦ 産業保健推進センター運営協議会 ㊦ 鳥取県産業安全衛生大会
(6) 病院部会	<ul style="list-style-type: none"> * 医療業務の向上、病院経営の改善を支援する。 * 鳥取県病院協会との連携強化を図る。 	
(7) 勤務医部会	<ul style="list-style-type: none"> * 勤務医の入会を促進し、会員増強対策、部会活動の充実を図る。 * 過重労働、医療安全など勤務医の諸問題解決に向けて協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国医師会勤務医部会連絡協議会 (富山市 23. 10. 29)
(8) 自賠責部会	<ul style="list-style-type: none"> * 自賠責保険診療費算定基準の推進を図る。 * 自賠責保険研修会を開催する。 * 自賠責保険診療費におけるトラブルの解決処理にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鳥取県自動車保険医療連絡協議会
11. 会員福祉対策		
(1) 医師国保組合との連絡提携	<ul style="list-style-type: none"> * 医師国保組合への加入推奨など、医師国保組合事業に協力する。 	
(2) 生命保険、損害保険団体業務の継続	<ul style="list-style-type: none"> * 医師賠償責任保険、所得補償保険の募集を行う。(損保ジャパン) * Bグループ生命保険の募集を行う。(幹事会社：明治安田生命) 	
(3) 協力貯蓄の推進	<ul style="list-style-type: none"> * 第9次協力貯蓄を推進する。(銀行の指定制等) 	
(4) 勤務医協力貯蓄の推進	<ul style="list-style-type: none"> * 第9次勤務医協力貯蓄を推進する。(22. 05～5年間積み立て) 	

事業項目	具体的事項	会議・委員会等
(5) 独立行政法人福祉医療機構の業務の周知 (6) 医事紛争対策 (7) 医師賠償責任保険の継続 (8) 日医医師年金等への加入促進 (9) 鳥取県医療機関厚生年金基金への対応 (10) その他の会員福祉	*施設整備資金融資の制度内容、融資利率などの情報提供を行う。 *日本医師会、地区医師会との連携を図り、医事紛争の早期解決処理にあたる。 *医事紛争に関する研修会を開催する。 *医師賠償責任保険、施設賠償責任保険への加入を推奨する。 *勤務医会員の加入を推奨する。 *日医特約保険（2億円補償）への加入を推奨する。 *日医年金、日本医師・従業員国民年金基金への加入を推奨する。 *運営等現状の分析を図る。 *表彰弔慰を行う。	○ 医事紛争処理委員会 ○ 中国四国医師会医事紛争研究会 <u>(担当：鳥取県)</u>
12. 地区医師会との連絡強化		
(1) 地区医師会との連携 (2) 地区医師会事務局との連携	*各種の担当理事連絡協議会を開催し、諸問題への対応、連携強化を図る。 *各医師会事務局間相互の連携強化を図る。	○ 各地区医師会との懇談会 ○ 地区医師会長協議会 ○ 地区医師会各担当理事連絡協議会 ○ 事務局職員連絡協議会
13. 定款・諸規程改正の検討	*公益法人改革関連整備法の施行に伴い、定款、諸規程の見直しの検討を行う。	○ 定款・諸規程改正検討委員会
14. 公益法人制度改革への対応	*移行申請の準備として、事業区分け、収支相償基準、公益目的支出計画など、申請に向けて必要な項目についての検討を行う。 *申請の実務については、法律や税務面での専門的知識が必要であることから、外部へ委託する方向で検討する。	

平成23年度鳥取県医師会会費減免申請一覧

申請理由 地区	高 齢	傷 病	研 修 医	不慮の災害	そ の 他 特別の事由	計	減 免 総 額
東 部	37	1	13	0	0	51	1,908,000
中 部	20	1	1	0	0	22	984,000
西 部	40	1	0	0	0	41	1,500,000
大 学	0	0	1	0	0	1	12,000
計	97	3	15	0	0	115	4,404,000

会費減免申請の詳細

【高齢・傷病】

所 属 医師会	会 員 別	氏 名	住 所	申 請 理 由
東 部	B	渡 辺 元	鳥取市東町	高齢会員 (明治44年2月12日生)
〃	A ₁	西 尾 吉兵衛	〃 富安	〃 (大正7年12月25日生)
〃	A ₁	桑 田 岩 雄	八頭郡智頭町智頭	〃 (大正8年12月1日生)
〃	B	松 岡 京 子	鳥取市行徳	〃 (大正9年6月18日生)
〃	B	縄 田 隆 淑	〃 元町	〃 (大正12年3月31日生)
〃	B	坂 本 紀美子	〃 〃	〃 (大正12年4月9日生)
〃	B	巨 島 怜 子	岩美郡岩美町浦富	〃 (大正13年1月1日生)
〃	B	森 田 昌 功	鳥取市吉成南町	〃 (大正13年1月3日生)
〃	B	村 尾 ちさと	〃 二階町	〃 (大正13年3月11日生)
〃	B	早 川 慶 子	〃 行徳	〃 (大正13年4月22日生)
〃	B	野 津 登志子	〃 卯垣	〃 (大正14年7月20日生)
〃	B	谷 本 泰 夫	〃 青葉町	〃 (大正15年2月24日生)
〃	B	村 江 正 名	〃 吉方温泉	〃 (大正15年6月2日生)
〃	B	岸 良 尚	〃 河原町河原	〃 (大正15年7月7日生)
〃	B	大 谷 伯	八頭郡八頭町宮谷	〃 (大正15年12月13日生)
〃	B	西 本 徹 郎	〃 〃 見槻中	〃 (昭和2年4月12日生)
〃	A ₁	福 田 源次郎	鳥取市瓦町	〃 (昭和2年4月23日生)
〃	B	北 村 正 彦	〃 湯所町	〃 (昭和2年7月1日生)
〃	B	岡 本 孝 夫	〃 寺町	〃 (昭和2年7月25日生)
〃	B	樋 口 實	〃 野坂	〃 (昭和2年9月19日生)
〃	B	山 本 穰	〃 末広温泉町	〃 (昭和2年10月13日生)
〃	B	面 谷 幹 夫	〃 吉方温泉	〃 (昭和2年11月19日生)

所属 医師会	会 種 員 別	氏 名	住 所	申 請 理 由
東 部	B	深 澤 義 明	鳥取市湯所町	老齡会員（昭和2年12月1日生）
〃	B	早 瀬 啓	〃 川端	〃（昭和3年2月26日生）
〃	B	飯 塚 幹 夫	〃 美萩野	〃（昭和3年3月7日生）
〃	A ₁	入 江 宏 一	〃 西町	〃（昭和3年4月2日生）
〃	B	安 田 稔	〃 湯所町	〃（昭和3年5月18日生）
〃	A ₁	岡 田 不二雄	八頭郡八頭町花	〃（昭和3年6月10日生）
〃	A ₁	中 尾 政 和	鳥取市鹿野町今市	〃（昭和3年6月11日生）
〃	B	森 納	〃 国府町糸谷	〃（昭和3年9月1日生）
〃	A ₁	田 村 昭 子	〃 掛出町	〃（昭和3年12月8日生）
〃	B	北 室 文 昭	〃 西町	〃（昭和4年3月1日生）
〃	B	谷 口 公 子	〃 南町	〃（昭和4年3月22日生）
〃	B	加 藤 一 吉	〃 湖山町南	〃（昭和5年3月12日生）
〃	A ₁	芦 川 喬	〃 田園町	〃（昭和5年9月1日生）
〃	A ₁	米 本 哲 人	〃 吉成南町	〃（昭和5年10月29日生）
〃	B	前 田 宏 仁	〃 富安	〃（昭和6年1月4日生）
〃	B	大 石 徹	〃 鍛冶町	病氣療養中
中 部	B	松 田 伸	倉吉市新町	老齡会員（大正9年4月21日生）
〃	B	安 梅 みどり	〃 関金町大鳥居	〃（大正11年7月16日生）
〃	B	佐々木 安 夫	〃 〃 関金宿	〃（大正11年8月7日生）
〃	B	徳 岡 淳 一	〃 東巖城町	〃（大正11年9月20日生）
〃	B	宮 川 鉄 男	東伯郡北栄町瀬戸	〃（大正12年3月28日生）
〃	B	垣 田 堅二郎	倉吉市東岩倉町	〃（大正14年11月18日生）
〃	A ₁	門 脇 好 登	〃 瀬崎町	〃（大正15年1月11日生）
〃	B	岸 田 専 蔵	〃 清谷町	〃（大正15年7月30日生）
〃	B	音 田 誠 介	東伯郡湯梨浜町田後	〃（大正15年8月5日生）
〃	B	森 脇 良 省	倉吉市新町	〃（昭和2年1月22日生）
〃	B	谷 口 充	〃 上井町	〃（昭和2年5月19日生）
〃	A ₁	中 野 治	東伯郡琴浦町保	〃（昭和2年7月9日生）
〃	A ₁	入 江 正 昭	〃 〃 下伊勢	〃（昭和2年10月19日生）
〃	B	中 村 克 己	米子市西福原	〃（昭和2年11月15日生）
〃	B	西 田 龍之介	倉吉市上井町	〃（昭和3年1月18日生）
〃	B	林 原 不二夫	東伯郡琴浦町赤碓	〃（昭和3年6月28日生）
〃	B	尾 西 賢 治	倉吉市上井町	〃（昭和3年8月1日生）
〃	B	土 井 学	東伯郡湯梨浜町旭	〃（昭和3年10月25日生）

所属 医師会	会 種 員 別	氏 名	住 所	申 請 理 由
中 部	A ₁	上 原 崇 義	倉吉市堺町	老齡会員（昭和3年12月6日生）
〃	B	北 岡 宇 一	鳥取市東今在家	〃（昭和4年1月17日生）
〃	A ₁	山 上 英 明	〃 湖山町北	病氣療養中
西 部	B	田 中 喜美恵	米子市錦町	老齡会員（大正4年5月16日生）
〃	A ₁	板 倉 獎	日野郡日南町多里	〃（大正6年11月15日生）
〃	B	渡 邊 豊	米子市観音寺	〃（大正7年10月18日生）
〃	A ₁	入 沢 俊 夫	日野郡日南町矢戸	〃（大正8年6月18日生）
〃	B	中 下 静 夫	境港市朝日町	〃（大正9年6月24日生）
〃	B	木 下 準四郎	米子市皆生温泉	〃（大正11年7月30日生）
〃	B	木 下 干 城	〃 角盤町	〃（大正13年2月26日生）
〃	A ₁	花 園 直 人	〃 東福原	〃（大正14年2月5日生）
〃	B	福 島 武 彦	境港市元町	〃（大正14年11月5日生）
〃	B	本 田 恭 治	米子市昭和町	〃（大正15年4月22日生）
〃	B	吹 野 淳 平	〃 米原	〃（大正15年5月24日生）
〃	B	仲 村 民 広	西伯郡伯耆町大殿	〃（大正15年7月30日生）
〃	B	安 達 厚	米子市両三柳	〃（大正15年8月6日生）
〃	A ₁	三 好 三七夫	〃 道笑町	〃（大正15年9月30日生）
〃	B	松 野 昭 市	境港市京町	〃（大正15年12月10日生）
〃	B	薬師寺 廓 磨	米子市東福原	〃（昭和2年2月7日生）
〃	B	小 坂 博	〃 糺町	〃（昭和2年3月20日生）
〃	A ₁	足 立 史 郎	〃 淀江町淀江	〃（昭和2年3月24日生）
〃	B	佐 伯 良 人	日野郡江府町江尾	〃（昭和2年4月11日生）
〃	B	中 尾 徳 明	米子市角盤町	〃（昭和2年5月10日生）
〃	B	松 田 泰 彦	日野郡日野町根雨	〃（昭和2年8月22日生）
〃	B	近 藤 務	米子市新開	〃（昭和3年1月18日生）
〃	B	立 川 武	境港市湊町	〃（昭和3年1月28日生）
〃	B	高 野 正 明	米子市博労町	〃（昭和3年3月31日生）
〃	B	辻 谷 賢 三	〃 観音寺	〃（昭和3年4月28日生）
〃	B	井 上 愨	〃 日野町	〃（昭和3年5月4日生）
〃	B	足 立 光 三	境港市幸神町	〃（昭和3年6月1日生）
〃	B	本 多 和 雄	米子市新開	〃（昭和3年6月23日生）
〃	B	高 田 貢太郎	境港市東雲町	〃（昭和3年8月5日生）
〃	B	瀧 川 一 尚	〃 日ノ出町	〃（昭和3年8月21日生）
〃	B	門 脇 和 範	〃 明治町	〃（昭和3年8月28日生）

所属 医師会	会 員 種 別	氏 名	住 所	申 請 理 由
西 部	B	中 村 哲 朗	米子市上後藤	老齡会員（昭和3年12月5日生）
〃	B	高 田 允 克	〃 福万	〃（昭和5年2月7日生）
〃	B	渡 辺 俊 一	〃 皆生新田	〃（昭和5年3月2日生）
〃	A ₁	長谷川 柳 三	〃 車尾	〃（昭和5年7月5日生）
〃	B	原 宏	〃 大崎	〃（昭和5年10月30日生）
〃	A ₁	井 上 淳 一	〃 中島	〃（昭和6年1月2日生）
〃	B	松 本 久	〃 日原	〃（昭和6年1月3日生）
〃	B	中久喜 茂 也	〃 西福原	〃（昭和6年2月9日生）
〃	B	林 原 祐 治	〃 博労町	〃（昭和6年2月24日生）
〃	B	山 名 忠 己	〃 東福原	病氣療養中

【研修医】

所 属 医 師 会	会 員 種 別	氏 名	所 属 病 院	所 属 医 師 会	会 員 種 別	氏 名	所 属 病 院
東 部	B	茗 荷 宏 昭	鳥取県立中央病院	東 部	B	大 野 貴 志	鳥取県立中央病院
〃	B	若 原 恵 子	〃	〃	B	阿 部 純 子	〃
〃	B	山 下 ひとみ	〃	〃	B	太 田 貴 士	鳥取赤十字病院
〃	B	大 岡 尚 実	〃	〃	B	川 畑 秀 雄	〃
〃	B	後 藤 寛 之	〃	〃	B	小 松 宏 彰	鳥取生協病院
〃	B	平 川 絵 莉子	〃	中 部	B	中 山 明 香 里	鳥取県立厚生病院
〃	B	岸 真 文	〃	鳥取大学	B	細 田 康 平	鳥取大学医学部附属病院
〃	B	菊 浦 沙 織	〃				

第4号議案 平成23年度鳥取県医師会一般会計収支予算について

平成23年度鳥取県医師会一般会計収支予算〔総括〕

(単位：千円)

収		入			出			部	
科	目	当初予算額	前年度予算額	比較増減額	科	目	当初予算額	前年度予算額	比較増減額
1.	事業活動収入				1.	事業活動支出			
1.	会費 (50.45%)	80,378	80,442	-64	1.	事業費 (38.32%)	61,061	61,522	-461
2.	入会金 (3.14%)	5,000	5,000	0	1.	医字向上費	6,300	9,640	-3,340
3.	負担金 (1.17%)	1,860	1,860	0	2.	地域社会活動費	11,985	11,979	6
4.	補助金 (7.24%)	11,539	13,406	-1,867	3.	社会保険対策費	3,040	4,040	-1,000
5.	寄付金 (0.01%)	10	10	0	4.	医政対策費	4,450	4,450	0
6.	雑収入 (5.37%)	8,556	9,076	-520	5.	医療経済対策費	1,820	2,520	-700
7.	繰入金 (8.13%)	12,960	12,960	0	6.	広報活動費	10,900	10,900	0
					7.	部会費	8,446	7,873	573
					8.	福祉対策費	3,150	3,150	0
					9.	地区医師会連絡費	5,970	5,970	0
					10.	諸支出金	5,000	1,000	4,000
					2.	管理費 (57.47%)	91,575	89,726	1,849
					1.	事務費	75,913	74,539	1,374
					2.	会議費	9,420	9,420	0
					3.	負担金	1,660	1,185	475
					4.	会館管理運営費	4,582	4,582	0
2.	投資活動収入				2.	投資活動支出			
1.	特定預金取崩収入 (0.02%)	30	30	0	1.	特定資産支出 (2.88%)	4,581	4,480	101
3.	財務活動収入				3.	財務活動支出			
					4.	予備費支出			
					1.	予備費 (1.33%)	2,116	2,056	60
当期収入合計(A)		120,333	122,784	-2,451	当期支出合計(C)		159,333	157,784	1,549
前期繰越収支差額 (24.47%)		39,000	35,000	4,000	当期収支差額(A-C)		-39,000	-35,000	-4,000
収入合計(B)		159,333	157,784	1,549	次期繰越収支差額(B-C)		0	0	0

平成23年度鳥取県医師会一般会計収支予算

(単位：千円)

科 目	当 初 予 算 額	前 年 度 予 算 額	比 較 増 減 額	摘 要
(I) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 会 費 (50.45%)	80,378	80,442	-64	
1. 会 費 収 入	80,378	80,442	-64	
1. 会 費 収 入	78,020	78,068	-48	
(1) 均等割会費収入	78,020	78,068	-48	A1 { @156,000×406人 = 63,336,000円 @ 72,000× 5人 = 360,000円 @120,000× 5人 = 600,000円 A2 21人 = 4,280,000円 B @ 12,000×787人 = 9,444,000円
2. 特別会費収入	2,358	2,374	-16	
(1) 医事紛争処理委員会会費	788	784	4	@1,800×438人
(2) 学校医部会会費	660	660	0	@3,000×220人
(3) 産業医部会会費	910	930	-20	@2,000×455人
2. 入 会 金 (3.14%)	5,000	5,000	0	
1. 入 会 金 収 入	5,000	5,000	0	
1. 入 会 金 収 入	5,000	5,000	0	@500,000×10人
3. 負 担 金 (1.17%)	1,860	1,860	0	
1. 負担金収入	1,860	1,860	0	
1. 会館維持負担金	1,860	1,860	0	医師国保組合 1,260,000円 損保ジャパン代理店北陽サービス 600,000円
4. 補 助 金 (7.24%)	11,539	13,406	-1,867	
1. 補助金等収入	11,539	13,406	-1,867	
1. 日医補助金	5,689	5,792	-103	都道府県医師会助成費 2,650,000円 生涯教育助成費 1,179,000円 勤務医活動助成費 500,000円 年金普及推進運動助成費 100,000円 医賠償特約保険制度運営経費他 560,000円 医師会立准看護師養成所助成金 450,000円 予防接種対策地域支援費 250,000円
2. 県委託金・補助金	3,850	5,200	-1,350	特別医療協力費 2,500,000円 臨床検査精度管理補助金 500,000円 高度救命処置研修事業補助金 500,000円 かかりつけ医と精神科医との連携会議委託金 250,000円 思春期精神疾患対応力向上研修事業委託金 100,000円
3. 産業医研修委託金	2,000	2,414	-414	産業医研修委託金 1,800,000円 産業医研修連絡協議会委託金 200,000円
5. 寄 付 金 (0.01%)	10	10	0	

科 目	当 予 算 初 額	前 年 度 予 算 額	比 較 額 増 減 額	摘 要
1. 寄 付 金	10	10	0	
1. 寄 付 金	10	10	0	
6. 雑 収 入 (5.37%)	8,556	9,076	-520	
1. 雑 収 入	8,556	9,076	-520	
1. 受 取 利 息	20	100	-80	普通預金利息
2. 雑 収 入	6,606	6,876	-270	医師賠償保険人件費負担金(北陽サービスより) 1,920,000円 健対協人件費負担金(県より) 2,316,000円 健対協会報印刷代等負担金 1,000,000円 医学雑誌別刷個人負担分 200,000円 労災保険情報センター協力費 690,000円 有床診療所協議会会費 330,000円 その他 150,000円
3. 広告・手数料他収入	1,930	2,100	-170	会報・医学雑誌・会員名簿広告料 1,490,000円 会場使用料 100,000円 日医認定産業医・スポーツ医申請手数料 300,000円 母体保護法指定医指定手数料 40,000円
7. 繰 入 金 (8.13%)	12,960	12,960	0	
1. 繰 入 金	12,960	12,960	0	
1. 生命保険取扱特別会 計繰入金収入	12,960	12,960	0	
事業活動収入計	120,303	122,754	-2,451	

科 目	当 予 算 額	前 年 度 予 算 額	比 較 額 増 減 額	摘 要
2. 事業活動支出				
1. 事業費 (38.32%)	61,061	61,522	- 461	
1. 医学向上費 (3.95%)	6,300	9,640	- 3,340	
1. 医学会費	2,600	3,940	- 1,340	医学会費 (2回) 1,200,000円 生涯教育講座地区委託金 1,000,000円 生涯教育委員会 (1回) 300,000円 鳥取医学賞 100,000円
2. 中国四国医師会医学会費	0	1,900	- 1,900	
3. 鳥取医学雑誌発行費	3,700	3,800	- 100	印刷費・送料 (年4回) 3,000,000円 委員会費 500,000円 編集費 200,000円
2. 地域社会活動費 (7.52%)	11,985	11,979	6	
1. 地域社会対策費	2,300	2,400	- 100	健康対策協議会補助金 1,300,000円 禁煙指導対策委員会 200,000円 禁煙指導対策地区医師会補助金 300,000円 かかりつけ医と精神科医との連携会議 250,000円 思春期精神疾患対応力向上研修事業費 100,000円 その他 150,000円
2. 調査研究費	2,105	2,105	0	臨床検査精度管理委員会 (2回) 250,000円 臨床検査精度管理費・報告書他 1,200,000円 メディアファックス購読料 555,000円 資料整備費 100,000円
3. 糖尿病対策費	600	600	0	糖尿病対策推進会議 150,000円 糖尿病対策費 200,000円 糖尿病対策推進会議従事者講習会 250,000円
4. 救急・防災対策費	1,178	1,572	- 394	救急医療担当理事連絡協議会 200,000円 救急医療・麻薬対策費 200,000円 高度救命処置研修事業費 700,000円 衛星・災害時優先携帯電話使用料 78,000円
5. 情報システム対策費	4,752	4,052	700	情報システム運営管理費 2,150,000円 ホームページ管理ソフトサポート料 252,000円 情報システム運営委員会 (1回) 150,000円 情報システム整備費 150,000円 日医医療情報システム協議会 150,000円 情報システムに関する講演会・会議費 400,000円 テレビ会議システム導入費 1,500,000円
6. 感染症対策費	850	850	0	感染症危機管理対策委員会 300,000円 感染症対策費 150,000円 新型インフルエンザ対策費他 400,000円
7. 特定健診・保健指導対策費	200	400	- 200	特定健診・特定保健指導対策費他
3. 社会保障対策費 (1.91%)	3,040	4,040	- 1,000	

科 目	当 予 算 額	前 年 度 算 額	比 較 額	摘 要
1. 社会保障医療対策費	240	240	0	健保・生保立会旅費
2. 社会保障部費	2,500	3,500	-1,000	医療保険委員会 350,000円 社会保険指導者講習会 300,000円 支払基金・国保連合会との懇談会 350,000円 保険対策費他（印刷費・送料） 1,500,000円
3. 介護保険対策費	300	300	0	介護保険対策委員会（2回） 200,000円 介護保険対策費 100,000円
4. 医政対策費(2.79%)	4,450	4,450	0	
1. 医政関係費	1,400	1,400	0	医療懇話会 300,000円 三師会 300,000円 県教育委員会連絡協議会 100,000円 医政活動費 700,000円
2. 診療情報提供・自浄作用活性化・医療安全対策費	950	950	0	診療情報提供推進委員会 200,000円 診療情報提供対策費他 100,000円 医療安全対策委員会 200,000円 医療安全対策費他 200,000円 職業倫理・自浄作用活性化委員会 150,000円 自浄作用活性化対策費 100,000円
3. 個人情報保護対策費	100	100	0	資料作成費他
4. 会長交際費	800	800	0	
5. 県医交際費	1,200	1,200	0	
5. 医療経済対策費(1.14%)	1,820	2,520	-700	
1. 経営対策費	450	1,150	-700	中四国共同利用施設等連絡協議会準備委員会 200,000円 共同利用施設対策費 150,000円 経営対策費 100,000円
2. 医事紛争対策費	1,370	1,370	0	医事紛争処理委員会（1回） 200,000円 医事紛争研修会 150,000円 旅費・調査費他 200,000円 弁護士顧問料（2名） 670,000円 中国四国医事紛争研究会（岡山） 150,000円
6. 広報活動費(6.84%)	10,900	10,900	0	
1. 会報費	9,900	9,900	0	印刷費（月1回）・臨時号（年1回） 8,300,000円 送料 1,450,000円 編集費他 150,000円
2. 広報宣伝費	1,000	1,000	0	対内・対外広報活動費 450,000円 委員会 150,000円 健康フォーラム経費 400,000円
7. 部会費(5.30%)	8,446	7,873	573	
1. 母体保護法指定医部会	300	300	0	母体保護法指定助成金 100,000円 母体保護法指定医師審査委員会 200,000円

科 目	当 予 算 額	前 年 度 算 額	比 較 額	摘 要
2. 学校医部会	2,996	2,423	573	全国学校保健・学校医大会 250,000円 中国地区学校保健・学校医大会(米子) 1,000,000円 日医学校保健講習会 150,000円 日本学校保健会々報 240,000円 学校保健会拠出金 80,000円 地区医師会補助金(3地区) 526,500円 学校医部会運営委員会・研修会他 750,000円
3. 健康スポーツ医部会	300	300	0	研修会他
4. 労災・自賠責部会	400	800	-400	労災・自賠責部会 200,000円 印刷費他 200,000円
5. 産業医部会	3,050	3,150	-100	産業医研修会(4回) 2,000,000円 産業医部会運営委員会(1回) 250,000円 産業保健協議会(1回) 350,000円 産業安全衛生大会 110,000円 産業保健活動全国会議他 100,000円 送料他 240,000円
6. 病院連絡会議	200	200	0	病院協会補助金他
7. 勤務医部会	700	700	0	全国医師会勤務医部会連絡協議会 200,000円 勤務医部会委員会 100,000円 勤務医部会総会・講演会 400,000円
8. 有床診療所対策費	500	0	500	有床診療所対策費 500,000円
8. 福祉対策費 (1.98%)	3,150	3,150	0	
1. 福祉事業費	1,900	1,900	0	女性医師の懇談会他 500,000円 会員名簿印刷費他 1,400,000円
2. 表彰弔慰費	1,050	1,050	0	表彰費(喜寿米寿白寿祝合) 650,000円 弔慰費 400,000円
3. 協力貯蓄運営費	200	200	0	印刷費、送料他
9. 地区医師会連絡費 (3.75%)	5,970	5,970	0	
1. 連絡協議会費	1,600	1,600	0	地区医師会長協議会 200,000円 地区医師会との懇談会(4回) 800,000円 看護高等専修学校連絡協議会他 400,000円 地区連絡費 200,000円
2. 地区医師会補助金	1,850	1,850	0	各看護高等専修学校補助金 600,000円 医師会立准看護師養成所助成金(日医分) 450,000円 健康教育活動補助金(東・中・西・大学) 800,000円
3. 地区医師会交付金	1,280	1,280	0	東部 450,000円、中部 250,000円 西部 450,000円、大学 130,000円
4. 事務費交付金	1,240	1,240	0	東部 480,000円、中部 200,000円 西部 500,000円、大学 60,000円
10. 諸支出金(3.14%)	5,000	1,000	4,000	
1. 特別事業費	4,500	500	4,000	公益法人対策費 4,000,000円 その他 500,000円

科 目	当 予 算 額	前 年 度 予 算 額	比 較 額 増 減 額	摘 要
2. その他支出金	500	500	0	
2. 管 理 費 (57.47%)	91,575	89,726	1,849	
1. 事 務 費 (47.64%)	75,913	74,539	1,374	
1. 報 酬	8,596	8,236	360	
(1) 役 員 報 酬	8,586	8,226	360	役員報酬 8,050,000円 ・会長1人 ・副会長2人 ・理事12人 ・監事2人 ・議長1人 ・副議長1人 税理士報酬 536,000円
(2) 退任役員慰労金	10	10	0	
2. 給 与	38,800	37,579	1,221	
(1) 給 料	25,074	24,707	367	職員8名 基本給
(2) 職 員 手 当	13,716	12,862	854	期末勤勉手当 9,740,000円 管理職・職務手当 1,360,000円 時間外手当 1,400,000円 通勤手当 226,000円 扶養・住居手当 990,000円
(3) 退 職 金	10	10	0	
3. 旅 費	6,000	6,000	0	役員旅費 3,300,000円 職員旅費 2,700,000円
4. 一 般 事 務 費	4,646	4,888	-242	役務費 1,200,000円 需要費 2,600,000円 会費等領収書送料他 200,000円 法人会計システムリース料 646,000円
5. 交 通 費	1,300	1,300	0	
6. 共 済 費	7,511	7,086	425	健保厚生年金保険料 5,600,000円 労働保険料 700,000円 中小企業退職金共済掛金 576,000円 役員傷害保険料 635,000円
7. 福 利 厚 生 費	460	550	-90	職員健康診断費用 60,000円 職員福利費 400,000円
8. 光 熱 水 費	3,100	3,100	0	電気代 2,200,000円 水道・ガス代 300,000円 灯油代 600,000円
9. 公 課 費	5,500	5,800	-300	固定資産税 4,500,000円 収益事業に係る税金 1,000,000円
2. 会 議 費 (5.91%)	9,420	9,420	0	
1. 総 会 費	800	800	0	
2. 代 議 員 会 費	2,500	2,500	0	旅費(3回) 1,500,000円 諸費・資料等 1,000,000円
3. 理 事 会 費	5,470	5,470	0	常任理事会(12回) 1,560,000円 理事会(12回) 3,910,000円
4. 監 事 会 費	200	200	0	旅費・諸費

科 目	当 予 算 額	前 年 度 予 算 額	比 較 額 増 減 額	摘 要
5. 委 員 会 費	450	450	0	裁定委員会費 250,000円 諸規程改正検討委員会費 200,000円
3. 負 担 金(1.04%)	1,660	1,185	475	
1. 中国四国医師会連合負担金	1,460	985	475	中国四国医師会連合総会(鳥取) 860,000円 中四国連合各種研究会(鳥取) 300,000円 中四国連合常任委員会他 300,000円
2. 関係団体負担金	200	200	0	公衆衛生協会費等
4. 会館管理運営費 (2.88%)	4,582	4,582	0	
1. 維持管理費	4,282	4,282	0	会館清掃料 1,300,000円 エレベーター保守料 756,000円 警備保障料 504,000円 空調設備保守点検料 910,000円 電気関係保安監理手数料 200,000円 自動火災報知設備保守料 160,000円 火災保険料 172,000円 オイルタンク管理料 80,000円 その他の管理料 200,000円
2. 管理運営費	300	300	0	営繕関係諸費
事業活動支出計	152,636	151,248	1,388	
事業活動収支差額	-32,333	-28,494	-3,839	
(Ⅱ) 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
1. 特定預金取崩収入 (0.02%)	30	30	0	
1. 特定預金取崩収入	30	30	0	
1. 役員退職慰労金積立 金取崩収入	10	10	0	
2. 職員退職積立金取崩収入	10	10	0	
3. 医事紛争処理積立金 取崩収入	10	10	0	
投資活動収入計	30	30	0	
2. 投資活動支出				
1. 特定資産支出 (2.88%)	4,581	4,480	101	
1. 特定預金支出	4,581	4,480	101	
1. 役員退職慰労金積立金	710	710	0	別途積立金 3,450,000円 (23.1.31現在)
2. 職員退職給与積立金	3,870	3,760	110	24年3月末必要額(8名分) 90,899,325円 中小企業退職金共済積立額 (24.3.31見込 8名分) 22,112,411円 別途積立金 64,919,179円 (23.3.31見込)

科 目	当 予 算 初 額	前 年 度 予 算 額	比 較 額 増 減 額	摘 要
3. 医事紛争処理積立金	1	10	-9	別途積立金 4,800,000円 (23.1.31現在)
投資活動支出計	4,581	4,480	101	
投資活動収支差額	-4,551	-4,450	-101	
(Ⅲ) 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
(Ⅳ) 予備費支出				
1. 予備費 (1.33%)	2,116	2,056	60	
1. 予備費	2,116	2,056	60	
1. 予備費	2,116	2,056	60	
当期収支差額	-39,000	-35,000	-4,000	
前期繰越収支差額 (24.47%)	39,000	35,000	4,000	
次期繰越収支差額	0	0	0	

(注) 1. 借入金限度額 0円 該当なし
2. 債務負担額 0円 該当なし

平成23年度鳥取県医師会会館修繕積立金会計収支予算

(単位：千円)

科 目	当初予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要
(I) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 会 費 収 入				
1. 積 立 金	9,984	9,984	0	A1 2,000円×12か月×416人=9,984,000円
2. 雑 収 入				
1. 雑 収 入	1	1	0	普通預金利息
事業活動収入計	9,985	9,985	0	
2. 事業活動支出				
1. 管 理 費 支 出				
1. 諸 経 費	10	10	0	
2. 修 繕 費	75,469	66,050	9,419	大規模修繕等
事業活動支出計	75,479	66,060	9,419	
事業活動収支差額	-65,494	-56,075	-9,419	
(II) 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
(III) 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
(IV) 予備費支出				
当期収支差額	-65,494	-56,075	-9,419	
前期繰越収支差額	65,494	56,075	9,419	
次期繰越収支差額	0	0	0	

平成23年度鳥取県医師会生命保険取扱特別会計収支予算

(単位：千円)

科 目	当初予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要
(I) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 事業収入				
1. 団体事務費	13,200	13,200	0	団体事務取扱手数料 8社分 1,100,000円×12か月
2. 雑収入				
1. 雑収入	1	10	-9	普通預金利息
事業活動収入計	13,201	13,210	-9	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出				
1. 一般事務費	400	400	0	口座振替・振込手数料、通信費
2. 他会計への繰入金支出				
1. 繰出金	12,960	12,960	0	一般会計へ
事業活動支出計	13,360	13,360	0	
事業活動収支差額	-159	-150	-9	
(II) 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
(III) 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
(IV) 予備費支出				
1. 予備費				
1. 予備費	141	200	-59	
当期収支差額	-300	-350	50	
前期繰越収支差額	300	350	-50	
次期繰越収支差額	0	0	0	

※配当金については、毎年かなりの変動があるが、全額会員への配当金となるため、計上していない。

平成23年度鳥取県地域産業保健センター収支予算

(単位：円)

科 目	当初予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要
(I) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 事業収入				
1. 委託金	15,965,000	17,313,030	-1,348,030	鳥取労働局
事業活動収入計	15,965,000	17,313,030	-1,348,030	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出				
1. 諸謝金	10,432,000	11,313,600	-881,600	医師、コーディネーター等
2. 旅費	507,000	550,000	-43,000	
3. 庁費	4,625,000	4,265,000	-360,000	
4. 消費税相当額	761,000	824,430	-63,430	
事業活動支出計	15,965,000	17,313,030	-1,348,030	
事業活動収支差額	0	0	0	
(II) 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
(III) 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
(IV) 予備費支出				
1. 予備費				
1. 予備費	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

平成23年度鳥取県医師会（一般・特別会計）収支予算総括表

(単位：千円)

科 目	一 般 会 計	特 別 会 計			内 部 取 引 消 去	合 計
		会館修繕積立金	生 命 保 険	地産保センター		
(I) 事業活動収支の部						
1. 事業活動収入						
1. 会 費 収 入	80,378	9,984				90,362
2. 入 会 金 収 入	5,000					5,000
3. 負 担 金 収 入	1,860					1,860
4. 補 助 金 等 収 入	11,539					11,539
5. 寄 付 金	10					10
6. 雑 収 入 金	8,556	1	1			8,558
7. 繰 入 金	12,960		13,200		-12,960	0
8. 団 体 事 務 費						13,200
9. 委 託 金				15,965		15,965
事業活動収入計	120,303	9,985	13,201	15,965	-12,960	146,494
2. 事業活動支出						
1. 医 学 向 上 費	6,300					6,300
2. 地 域 社 会 活 動 費	11,985					11,985
3. 社 会 保 障 対 策 費	3,040					3,040
4. 医 政 対 策 費	4,450					4,450
5. 医 療 経 済 対 策 費	1,820					1,820
6. 広 報 活 動 費	10,900					10,900
7. 部 会 費	8,446					8,446
8. 福 祉 対 策 費	3,150					3,150
9. 地 区 医 師 会 連 絡 費	5,970					5,970
10. 諸 支 出 金	5,000					5,000

科 目	一 般 会 計	特 別 会 計			内 部 取 引 消 去	合 計
		会館修繕積立金	生 命 保 険	地産保センター		
11. 事務費	75,913					75,913
12. 会議費	9,420					9,420
13. 基金	1,660					1,660
14. 会館管理運営費	4,582					4,582
15. 諸経費		10				10
16. 修繕費		75,469	400			75,469
17. 一般事務費			12,960			12,960
18. 繰出金						
19. 諸謝金						
20. 旅費						
21. 庁費						
22. 消費税相当額						
事業活動支出計	152,636	75,479	13,360	15,965	-12,960	244,480
事業活動収支差額	-32,333	-65,494	-159	0	0	-97,986
(II) 投資活動収支の部						
1. 投資活動収入						
1. 特定預金取崩収入	30					30
投資活動収入計	30	0	0	0	0	30
2. 投資活動支出						
1. 特定預金支出	4,581					4,581
投資活動支出計	4,581	0	0	0	0	4,581
投資活動収支差額	-4,551	0	0	0	0	-4,551
(III) 財務活動収支の部						
1. 財務活動収入						
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0

科 目	一 般 会 計	特 別 会 計			内 部 取 引 消 去	合 計
		会館修繕積立金	生 命 保 険	地産保センター		
2. 財 務 活 動 支 出						
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	0
(IV) 予 備 費 支 出						
1. 予 備 費	2,116	0	141	0		2,257
当期収支差額	-39,000	-65,494	-300	0		-104,794
前期繰越収支差額	39,000	65,494	300	0		104,794
次期繰越収支差額	0	0	0	0		0

第185回鳥取県医師会（臨時）代議員会 議事録

1. 開催の期日

平成23年7月9日（土）
午後3時～午後4時5分

2. 開催の場所

鳥取県医師会館 鳥取市戎町

3. 代議員の総数

46名

4. 出席代議員数

43名

5. 出席の役員等

岡本会長、富長・池田両副会長
吉中・明穂・笠木・魚谷各常任理事
吉田・井庭・米川・清水・岡田各理事
新田・石井両監事
入江・長田両顧問

6. 報告事項

平成22年度鳥取県医師会会務報告

7. 議決事項

以下の5議案について何れも承認された。

第1号議案 平成22年度鳥取県医師会一般会計収支決算承認について

第2号議案 平成22年度鳥取県医師会会館修繕積立金会計収支決算承認について

第3号議案 平成22年度鳥取県医師会生命保険取扱特別会計収支決算承認について

第4号議案 平成22年度鳥取県地域産業保健センター会計収支決算承認について

第5号議案 平成23年度鳥取県医師会会費減免申請承認について

8. 会議の状況

〈板倉議長〉

それでは、定刻になりましたので、ただいまから第185回鳥取県医師会臨時代議員会を開会致します。まず、事務局より資格確認をお願い致します。

〈谷口事務局長〉

資格確認のご報告を致します。代議員総数は46名でございます。これに対しまして、本日は、受付されました代議員の先生は43名で、過半数の出席でございます。以上、ご報告致します。

〈板倉議長〉

過半数の出席ですので、会議は成立致します。

最初に議事録署名人の選出でございますが、議長に一任願えますか。

[異議なし]

それでは、14番・松田裕之代議員、27番・神鳥高世代議員のお二方をお願い致します。

では、日程に従いまして、「会長挨拶」をお願い致します。岡本会長、よろしくお願い致します。

〈岡本会長〉

会長の岡本でございます。本日は、第185回鳥取県医師会臨時代議員会を開催致しましたところ、週末の大変お忙しい中、また猛暑の中、ご出席を賜りまして誠に有難うございます。

本日の主な議案は、平成22年度会務報告及び収支決算案等4議案と平成23年度会費賦減免申請の承認でございます。詳細につきましては、後程、担当役員がご説明致しますので、慎重審議の上、何卒ご承認を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

聞きしに勝る大災害となった東日本大震災が発生してから早いもので4ヶ月が過ぎましたが、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

鳥取県医師会では、日本医師会からの要請により、急遽JMATを組織しました。直接、被災地の医療活動をされた総勢41名、8班に亘る医師、看護師、事務の方々には深甚の敬意を表したいと思います。第1班には本会代議員である永井先生、その後、岡田理事にも行っていただきました。総勢41人を送り出したわけですが、DMATでは出番が少なかったものが、JMATになってかなり進んだというのが今回の災害の特徴的なものであったように思います。

粘り強く、確実に復興、再生に向かって力強く歩み出した時、皆さん、ご存知のように先日の報道での復興大臣の心ない発言は、やはり国民は超一流でも政治は三流といわざるを得ません。まだまだ復旧・復興は途中でござ

ございますが、一刻も早い復興をお祈りしています。

さて、平成24年度に予定されています診療報酬と介護報酬の同時改定についてですが、この度の大災害を受けて、日本医師会では去る5月19日、原中会長が細川厚生労働大臣を訪ね、1年間延ばしていただくよう改定の見送りを申し入れました。その理由は、国も医療提供者も東日本大震災の復興支援に全身全霊を捧げるべきであり、国難の大混乱期に国の制度の根幹をなす診療報酬、介護報酬の同時改定は行なうべきではない、との考えであり、現在の国の状況を総合的に判断した苦渋の決断であったと思います。更に今年度、中医協が行なう医療経済実体調査、薬価調査、保険医療材料価格調査などを中止することも申し入れましたが、中医協側で話し合いが行なわれ、調査はすることになったようです。後程総会でもう少しお話しします。

この経緯は、4月24日に第124回日本医師会代議員会が開催されましたが、会長挨拶では全くこの話はなく、質問に答える形で執行部は見送る方針であることを提案しました。それを受けて、代議員から診療報酬に関する決議案の緊急提案がありました。賛否両論あり、改定を見送る案に賛成の方が多かったのですが、決議文は大半の賛成がないといけないため、一致した支持が得られずに、執行部一任とされました。

また、5月28、29日の両日、鳥取県医師会の担当により、鳥取市で開催した中国四国医師会連合総会、常任委員会では、広島県医師会より、地域医療崩壊の折から、診療報酬及び介護報酬の改定は肅々に行なうべきである、との決議文を採択するよう提案、意見が出されました。大半の県は、東北の惨状を見て、なかなかそういう気持ちにはならないというのがほとんどで、中央と地方が不一致を表明する結果となると判断し、常任委員会で十分な議論をした上で、採決するまでは持つて行かず、日本医師会へ中国四国医師会の意向を伝えることと致しました。

一昨日のメディアファックスによると、宮城県医師会会長から心無い方もいらっしゃるものだという表現があり、厚労大臣にやはり1年延ばして欲しいと申し入れをしたという報告

がありました。なお、現在、この件については決まったわけではございません

以上、簡単ではございますが、開会にあたっての挨拶と致します。本日は、議案の審議についてよろしくお願い致します。

〈板倉議長〉

有難うございました。続きまして、5番の「報告」に移ります。「平成22年度鳥取県医師会会務報告」につきまして富長副会長、お願い致します。

〈富長副会長〉

副会長の富長でございます。会務報告のご説明を致します。お手元の冊子の1頁をご覧ください。

まず、庶務関係でございます。平成23年3月末日現在の本会会員数は1,335名で、前年度に比べて3名の減であります。A1会員が432名、A2会員が22名、B会員が881名で、これを地区別に見ますと、東部519名、中部226名、西部497名、大学93名でございます。

2番目の物故会員ですが、平成22年4月1日より本年3月末日に至る間の物故会員は、井崎成子先生、中村良文先生、水川六郎先生、都田 治先生、佐古恒徳先生、岩井 博先生、山根 巖先生、矢島義夫先生、入澤俊夫先生の9名でございます。その後、本日までに、林原祐治先生、樋口 實先生、谷口 充先生がお亡くなりになっておられます。

ここで黙祷すべきところでございますが、後程の総会の席上で行ないたいと思います。引き続き、会務報告を続けます。

〔以下、会務報告に基づき説明〕

〈板倉議長〉

有難うございました。以上で会務報告は終了しました。

それでは、ただいままでの会長挨拶と会務報告に関して、ご発言がありましたら挙手をお願い致します。

ないようですので、6番の「議事」に移ります。

第1号議案『平成22年度鳥取県医師会一般会計収支決算承認について』を上程致します。執行部のご説明をお願い致します。魚谷常任理事、お願い致します。

〈魚谷常任理事〉

会計担当の魚谷でございます。ご説明致し

ます。

[資料「議案書」を説明]

〈板倉議長〉

有難うございました。ここで監事から監査報告をお願い致します。石井監事、よろしく
お願い致します。

〈石井監事〉

監事の石井でございます。去る6月23日、
新田監事と共に県医師会館におきまして、会
計監査を行ないましたので、その結果をご報
告致します。

平成22年度一般会計収支決算書につしまし
て、関係諸帳簿並びに証憑書類等を照合し、
慎重に監査致しました結果、適正であることを
認めましたので、ご報告致します。以上で
ございます。

〈板倉議長〉

有難うございました。ここで、決算に関す
る質問の他、会務全般にわたって質疑を行な
います。昨日までに前もっての質問は届いて
おりませんが、ここでどなたかご質問ござい
ませんか。

〈27番：神鳥代議員〉

失礼致します。27番の神鳥でございます。
事前に質問書を出すべきだったのですが、今
日の会務報告をお聞きして6頁ですが、雑収
入の摘要欄に第一生命株式化に伴う分配金と
いうのがございました。これが本会計に入る
ことになった経緯についてお聞きします。な
ぜ、投資活動収入ではないのかということを
お願い致します。

〈板倉議長〉

執行部の回答をお願い致します。

〈魚谷常任理事〉

この件については、この後で説明します生
命保険取扱特別会計の手数料として入ったも
のを一般会計に入れていきますので、このま
ま一般会計でいいのではないかと思ってそのよ
うにしております。

〈27番：神鳥代議員〉

もう一つよろしいでしょうか。今、それ
をお聞きしたかったのですが、本来なら生命保
険に入るはずだったのですね。そうすると一
旦、そこへ入れてから一般会計へ繰り入れる
のが正しい方法ではないかと思うのですが、
いかがでしょうか。

〈魚谷常任理事〉

今回は全く初めてのことだったものでは
から、このようにしましたが、次回、もし同
じような事例が生じれば、検討したいと思
います。

〈板倉議長〉

よろしいですか。他にどなたかご質問ご
いませんか。

では、ないようですので、議案に対する採
決を行います。

第1号議案を承認することに賛成の方の挙
手を求めます。

[挙手多数]

有難うございました。「挙手多数」と認め
ます。従いまして、第1号議案は承認されま
した。

続きまして、第2号議案『平成22年度鳥
取県医師会会館修繕積立金会計収支決算承認に
ついて』、第3号議案『平成22年度鳥取県医
師会生命保険取扱特別会計収支決算承認につ
いて』、第4号議案『平成22年度鳥取県地
域産業保健センター会計収支決算承認につ
いて』以上の3議案の特別会計を一括上程致
します。執行部のご説明をお願い致します。魚
谷常任理事、お願い致します。

〈魚谷常任理事〉

それでは続きまして会計担当の魚谷がご説
明致します。

[資料「議案書」を説明]

〈板倉議長〉

有難うございました。ここで、第2号議案
から第4号議案までの特別会計3議案の決算
について、石井監事から監査報告をお願い致
します。

〈石井監事〉

先程の一般会計と合わせまして、特別会計
分を去る6月23日、新田監事と共に県医師会
館におきまして会計監査を行ないましたので、
ご報告を申し上げます。

平成22年度特別会計収支決算書並びに財産
目録につきて、関係諸帳簿並びに証憑書
類等を照合し、慎重に監査を致しました結果、
適正であることを認めましたのでご報告致
します。以上でございます。

〈板倉議長〉

有難うございました。それでは、ただいま

ご説明のありました、第2号議案から第4号議案の3議案に対しまして、どなたかご質問、ご意見はございますか。

ないようですので、議案に対する採決を行います。

第2号議案から第4号議案までの3議案を承認することに賛成の方の挙手を求めます。

[挙手多数]

有難うございました。「挙手多数」と認めます。従いまして、第2号議案から第4号議案までの3議案は承認されました。

続きまして、第5号議案『平成23年度鳥取県医師会会費減免申請承認について』を上程致します。執行部のご説明をお願い致します。魚谷常任理事、お願い致します。

〈魚谷常任理事〉

それではご説明致します。

[資料「議案書」を説明]

〈板倉議長〉

有難うございました。ただいまのご説明について、何かご質問はございませんか。

ないようですので、採決に移ります。第5号議案を承認することに賛成の方の挙手を求めます。

[挙手多数]

有難うございました。「挙手多数」と認めます。よって、第5号議案は承認されました。

以上をもちまして、本日の議事はすべて終了致しました。それでは、閉会にあたりまして、岡本会長からご挨拶をお願い致します。

〈岡本会長〉

本日は、平成22年度の決算等5議案につきまして、すべて原案通りご承認を賜りまして誠に有難うございました。

ただ、先程の神鳥代議員からのご質問ですが、第一生命他9社の団体事務費に関しては、20頁の生命保険取扱特別会計収支で行なっておりますし、21頁の配当金について掲載しています。この会計はすべて取扱った事務費に関する会計です。第一生命の分配金は株の収入ですので、生命保険の特別会計に入れるのが適当かどうか分かりません。神鳥先生の方が詳しいと思いますが、いかがでしょうか。私は一般会計が良いと思います。といいますのは顧問税理士に見ていただき、了承してもらっているのです、おそらくこちらの方が会計

上は正しいのではないのでしょうか。これを生命保険取扱特別会計収支に入れてしまうと、また難しくなるのではないかと考えております。よろしいでしょうか。

〈27番：神鳥代議員〉

お話はよくわかりました。それで折角公益法人会計になっているわけですから、投資活動収入があるので、それを利用出来ないのかというのが私の第1点だったのです。そこに入れるのはどうなのかということです。

〈岡本会長〉

その方がいいと思います。ただこれは公益法人会計と申しましても勉強中なものですから、うまく出来てなかったのではないかと反省しています。

もう一つは、折角東北の方へJMATで行っていただいた方々の費用はどうなったのかというご心配があるかと思われませんが、これは実は初めの方の派遣は、途中から費用が要ったわけですが、日医の方ですべての飛行機代は無料にしてくださいました。

あと一つは、3月の代議員会の時に義援金と支援金は意味合いが違うため、いかがなものかとお話しましたが、最近勉強したら、3月に皆様から集めさせていただいたお金は支援金であると思います。被災された方々に平等に分けるのが義援金であって、支援金はJMATのように皆様にお世話になった時にはそのお金を持って支援しても差し支えないというものであります。日医の義援金という言葉は間違っていたのではないかと思います。そして勝手ではございましたが、後の派遣につきましては支援金として必要な経費は少しずつ使わせていただいた経過がございます。ですから会計には載っていません。どこからお金が出たのだろうかということもありますが、決して誤魔化しているわけではございません。

また、先程の説明で魚谷常任理事から公益法人になるためには一千万円ほど足りないということがありましたが、これについては高野会計事務所聞いております。ただ我々の感覚から申し上げますと、公益法人というのは、いわゆる黒字を出して儲かる団体ではなく、赤字になってもいいのではないかと考えておりました。ところが公益事業につきまし

では赤字を出すべきであるが、医師会の収支決算は黒字にということで、思っていたことが違っていたという反省をしながら、これから公益法人化に向けて努力していきたいと思っております。

理事会がある時に委員会を同日に開催すると理事の人達は委員会の日当は出ません。また、健対協も同日に開催して少しずつ経費を浮かしてきたのが、このマイナス会計でございます。なお、昨年度に委員会を開催していないのは、医療安全対策委員会と自浄作用活性化委員会、他の委員会はしております。今後とも我々はなるべくお金は遣わないように良い運営をしていきたいと考えておりますので、今後ともご理解、ご支援の程をお願い

しまして御礼の挨拶と致します。本日は、有難うございました。

[拍手]

〈板倉議長〉

それでは、以上をもちまして、第185回鳥取県医師会臨時代議員会を閉会致します。本日は、長時間にわたりまして有難うございました。

[拍手]

[午後4時5分閉会]

第185回鳥取県医師会臨時代議員会

[議長] 板倉和資印

[署名人] 松田裕之印

[署名人] 神鳥高世印

第185回鳥取県医師会（臨時）代議員会名簿

平成23年 7月 9日

番号	地区	氏 名	番号	地区	氏 名	番号	地区	氏 名
1	東部	板 倉 和 資	17	東部	吉 田 泰 之	33	西部	左 野 喜 實
2	〃	福 島 明	18	中部	森 尾 泰 夫	34	〃	角 賢 一
3	〃	松 浦 喜 房	19	〃	石 田 浩 司	35	〃	中 曾 庸 博
4	〃	安 陪 隆 明	20	〃	安 梅 正 則	36	〃	長谷川 真 弓
5	〃	石 谷 暢 男	21	〃	塩 孜	37	〃	木 村 秀 一 朗
6	〃	尾 崎 眞 人	22	〃	湯 川 喜 美	38	〃	永 井 小 夜
7	〃	加 藤 大 司	23	〃	山 本 敏 雄	39	〃	藤 瀬 雅 史
8	〃	小 林 恭 一 郎	24	〃	西 田 法 孝	40	〃	高 見 徹
9	〃	杉 山 長 毅	25	〃	松 田 哲 郎	41	〃	小 酒 浩
10	〃	松 木 勉	26	西部	野 坂 美 仁	42	〃	門 脇 敬 一
11	〃	西土井 英 昭	27	〃	神 鳥 高 世	43	大学	井 上 貴 央
12	〃	田 中 紀 章	28	〃	作 野 嘉 信	44	〃	長谷川 純 一
13	〃	福 永 康 作	29	〃	飛 田 義 信	45	〃	小 川 敏 英
14	〃	松 田 裕 之	30	〃	安 達 敏 明	46	〃	岸 本 拓 治
15	〃	三 宅 茂 樹	31	〃	辻 田 哲 朗			
16	〃	森 英 俊	32	〃	小 林 哲			

第185回鳥取県医師会（臨時）代議員会次第

と き 平成23年 7月 9日（土） 午後 3時

と ころ 鳥取県医師会館 鳥取市戎町

1. 開 会

2. 資 格 確 認

3. 議 事 録 署 名 人 選 出

4. 会 長 挨 拶

5. 報 告

平成22年度鳥取県医師会会務報告

6. 議 事

第 1 号 議 案 平成22年度鳥取県医師会一般会計収支決算承認について

第 2 号 議 案 平成22年度鳥取県医師会会館修繕積立金会計収支決算承認につ

いて

第 3 号 議 案 平成22年度鳥取県医師会生命保険取扱特別会計収支決算承認について

第 4 号 議 案 平成22年度鳥取県地域産業保健センター会計収支決算承認につ

いて
第 5 号 議 案 平成23年度鳥取県医師会会費減免申請承認について

7. 閉 会

平成22年度鳥取県医師会会務報告

[22. 4. 1 ~ 23. 3. 31]

庶 務 関 係

1. 会員数について

平成23年3月末日現在、本会会員数は1,335名にして、A1会員432名、A2会員22名、B会員881名となっており、このうち、会費免除会員は117名である。

更に、これを地区別に示せば次のとおりである。

東部519名、中部226名、西部497名、
大学93名計1,335名

2. 物故会員について

平成22年4月1日より、本年3月末日に至る間の物故会員は次のとおりである。

井 崎 成 子 先生 (86歳)

鳥取市 (22. 5. 21逝去)

〔略歴〕

昭和19年9月 大阪女子高等医学専門学校卒業

昭和34年5月 開業

平成12年4月 閉院

中 村 良 文 先生 (78歳)

鳥取市 (22. 7. 11逝去)

〔略歴〕

昭和31年3月 鳥取大学医学部卒業

昭和54年4月 鳥取県立中央病院副院長

昭和62年4月 岩美町立岩美病院長

平成9年4月 鳥取県保健事業団医務局長

水 川 六 郎 先生 (55歳)

鳥取市 (22. 8. 15逝去)

〔略歴〕

昭和54年3月 鳥取大学医学部卒業

平成11年4月 鳥取大学医学部助教授

平成13年4月 開業

都 田 治 先生 (88歳)

米子市 (22. 9. 1 逝去)

〔略歴〕

昭和21年9月 京都帝国大学医学部卒業

昭和39年4月 開業

昭和45年4月 西部医師会代議員

佐 古 恒 徳 先生 (87歳)

米子市 (22. 11. 15逝去)

〔略歴〕

昭和24年3月 大阪高等医学専門学校卒業

昭和36年4月 開業

昭和41年4月 西部医師会代議員

岩 井 博 先生 (83歳)

鳥取市 (23. 1. 14逝去)

〔略歴〕

昭和25年3月 岡山医科大学付属医学専門部卒業

昭和41年1月 開業

昭和51年4月 東部医師会監事

昭和63年4月 鳥取県医師会代議員

山 根 巖 先生 (71歳)

米子市 (23. 1. 18逝去)

〔略歴〕

昭和39年3月 鳥取大学医学部卒業

昭和53年3月 開業

昭和57年4月 西部医師会代議員

矢 島 義 夫 先生 (76歳)

境港市 (23. 3. 14逝去)

〔略歴〕

昭和35年3月 鳥取大学医学部卒業

昭和56年9月 開業

昭和63年4月 西部医師会代議員

入 澤 俊 夫 先生 (93歳)

日野郡 (23. 3. 21逝去)

〔略歴〕

昭和17年9月 大阪高等医学専門学校卒業

昭和28年9月 開業

昭和31年4月 西部医師会代議員

3. 代議員について

任期満了に伴う代議員、予備代議員改選について地区医師会に委託選挙した結果、次のとおり決定し、4月1日就任した。

〔代議員〕

東部 ○板 倉 和 資 福 島 明
松 浦 喜 房 安 陪 隆 明

	石加杉竹福三吉	谷藤山内永宅田	暢大長勤作樹之	男司毅動作樹之	尾小林田中松森	崎田中田裕英	眞恭一郎光太郎紀章之俊	人
中部	◎池安湯西野作安小角長永稲松井小	田梅川田坂野達林谷川井賀野上川	宣正喜法美嘉敏賢真小潔充貴敏	之則美孝仁信明哲一弓夜潔孝央英	松青山石神飛辻左中木藤小	田木本津鳥田田野曾村瀬酒	隆哲敏彦高義朗實博秀一史浩	
西部								
鳥大					長谷川岸	純拓	一治	
〔予備代議員〕								
東部	麻石川小杉西土深松水	木丸口濱本井澤木	宏昌俊美勇英哲勉清	栄宏夫昭二昭哲	石岩神斎中濱藤松	河下戸藤山崎田	利和人登基雄文樹	一郎
中部	阿松森藤瀬根宝阿越門瀧吹南	藤田廣井口津意部智脇田野崎	孝二哲敬武正規博敬寿陽剛	郎一郎親史嗣章寛一彦一剛	森石谷大高野細遠面高廣丸	尾田津見坂田藤谷田江山	泰浩宗敬一徹雄秀之紀男う樹	夫司弘一徹雄秀之紀男う樹
西部								
鳥大					神	崎	晋	

近藤博史 北野博也
◎議長 ○副議長

◆平成22年9月15日公示の鳥取県医師会役員補欠選挙に伴い、中部医師会より代議員、予備代議員に変更があり、次のとおり決定し、10月13日就任した。

〔代議員〕池田 宣之 → 森尾 泰夫

〔予備代議員〕森尾 泰夫 → 塩 孜

◆平成22年9月30日付で池田議長から辞任届提出に伴い、平成22年10月21日開催の第183回鳥取県医師会（臨時）代議員会において次のとおり決定し、10月21日就任した。

〔議長〕板倉 和資 〔副議長〕野坂 美仁

4. 役員について

平成22年2月18日、任期満了に伴う役員選挙の結果、次のとおり決定し、4月1日就任した。

会 長	岡本 公男		
副 会 長	富長 将人	天野 道磨	
理 事	*渡辺 憲	*吉中 正人	
	*明穂 政裕	*笠木 正明	
	*魚谷 純	武田 倬	
	吉田 真人	井庭 信幸	
	米川 正夫	清水 正人	
	村脇 義和	岡田 克夫	
監 事	新田 辰雄	石井 敏雄	
裁 定 委 員	芦川 喬	中尾 政和	
	岸 良尚	山本 栄	
	増田 昇	門脇 和範	
	木村 禎宏	佐々木博史	
	花木 啓一		
顧 問	入江 宏一	長田 昭夫	
日医代議員	岡本 公男	池田 宣之	
同予備代議員	富長 将人	魚谷 純	

*常任理事

◆平成22年9月15日公示の鳥取県医師会役員補欠選挙に伴い、平成22年10月21日開催の第183回鳥取県医師会（臨時）代議員会において次のとおり決定し、10月21日就任した。

〔副会長〕天野 道磨 → 池田 宣之

5. 理事会務分担について

平成22年4月1日よりの役員業務分担は次のとおりである。

役 員 の 会 務 分 担

会 務	主担当	副担当
庶 務	明 穂	魚谷・岡田
会 計	魚 谷	明穂
生涯教育、学術、卒後臨床研修医	武 田	渡辺・村脇
医療保険	富 長	天野・吉田
介護保険、高齢者福祉、障害者福祉	天 野	富長・渡辺
労災保険、自賠責保険	清 水	明穂・米川
健康対策協議会	吉 中	井庭・岡田
感染症	笠 木	天野・村脇
医療安全、診療情報開示（個人情報保護）、職業倫理、自浄作用	富 長	渡辺・明穂
医事紛争	井 庭	渡辺・吉中
救急医療、災害対策、ACLS	清 水	武田・米川
広報、会報編集	渡 辺	天野・米川
情報システム	米 川	笠木・岡田
臨床検査	吉 田	富長
学校保健、少子化対策	笠 木	天野・井庭
産業保健	吉 田	富長・吉中
健康スポーツ医	明 穂	米川
医療関係職種、共同利用施設	天 野	武田
勤務医（女性医師対策を含む）	村 脇	清水
医療政策・環境対策	岡 田	渡辺・清水
糖尿病対策	武 田	富長・天野
メンタルヘルス、自殺対策	渡 辺	魚谷・吉田
有床診療所対策	米 川	明穂・魚谷

◆平成22年10月21日より池田副会長就任後補追の会務分担は次のとおりである。

役 員 の 会 務 分 担

22. 10. 21～24. 3. 31 [敬称略]

会 務	主担当	副担当
総 務（公益法人対策）	明 穂	魚谷・岡田
財 務	魚 谷	明穂
生涯教育、学術	武 田	渡辺・村脇
医療保険	富 長	吉中・吉田
介護保険、高齢者福祉、障がい者福祉	池 田	富長・渡辺

労災保険、自賠責保険	清 水	明穂・米川
健康対策協議会	吉 中	井庭・岡田
感染症	笠 木	吉中・村脇
医療安全、診療情報開示（個人情報保護）、職業倫理、自浄作用	富 長	渡辺・明穂
医事紛争	井 庭	池田・渡辺
救急医療、防災対策	清 水	武田・米川
広報、会報編集	渡 辺	米川・清水
情報システム	米 川	笠木・岡田
臨床検査	吉 田	富長
学校保健、少子化対策	笠 木	池田・井庭
産業保健	吉 田	富長・吉中
健康スポーツ医	明 穂	池田・米川
医療関係職種、共同利用施設	池 田	武田
勤務医（女性医師対策を含む）	村 脇	池田・清水
医療政策・環境対策	岡 田	渡辺・清水
糖尿病対策	武 田	富長
メンタルヘルス、自殺対策	渡 辺	魚谷・吉田
有床診療所対策	米 川	明穂・魚谷

6. 各種委員会委員の委嘱について

平成22年4月1日新役員就任に伴い、本会内委員会委員・部会委員は次のとおりである。なお、各委員会においては、それぞれ所管事項について審議を行った。

〔任期H.22.4.1～H.24.3.31〕

〔敬称略〕

1 医療保険委員会委員（担当：富長副会長）

委員 長 富長 将人
副委員 長 福島 明
天野 道磨 渡辺 憲
笠木 正明 魚谷 純
米川 正夫 長谷川晴己
阿藤孝二郎 工藤 浩史
宮本 二郎 渡邊 賢司
植木 寿一 下田光太郎
吉田 泰之 福永 康作
池田 宣之 森尾 泰夫
神鳥 高世 安達 敏明
村脇 義和

2 医療安全対策委員会委員（担当：富長副会

長）（診療情報提供推進を含む）

委員 長 ※岡本 公男

副委員 長 松本美智子（県立中央病院看護局長）

※富長 将人 ※渡辺 憲

※明穂 政裕 ※魚谷 純

藤原 和男（弁護士）

岩垣 宝祥（県医療指導課長）

田中松市郎（鳥取赤十字病院薬剤部長）

露木 節子（県看護協会会長）

板倉 和資 池田 宣之

野坂 美仁 豊島 良太

※常任委員会委員

3 職業倫理・自浄作用活性化委員会委員（担当：富長副会長）

委員 長 岡本 公男

富長 将人 天野 道磨

渡辺 憲 明穂 政裕

井庭 信幸 板倉 和資

池田 宣之 野坂 美仁

4 医事紛争処理委員会委員(担当：井庭理事)

委員長 岡本 公男
副委員長 富長 将人
天野 道磨 渡辺 憲
吉中 正人 明穂 政裕
魚谷 純 井庭 信幸
板倉 和資 松浦 喜房
小林恭一郎 池田 宣之
松田 隆 野坂 美仁
神鳥 高世 辻田 哲朗

5 生涯教育委員会委員(担当：武田理事)

委員長 武田 倬
渡辺 憲 村脇 義和
安陪 隆明 福島 明
湯川 喜美 阿藤孝二郎
都田 裕之 角 賢一
北野 博也 福本 宗嗣

6 広報委員会委員(担当：渡辺常任理事)

委員長 渡辺 憲
天野 道磨 米川 正夫
松田 裕之 小林恭一郎
森廣 敬一 石津 吉彦
伊藤 慎哉 永井 小夜
豊島 良太

7 会報編集委員会委員(担当：渡辺常任理事)

渡辺 憲 天野 道磨
米川 正夫 秋藤 洋一
中安 弘幸 山口 由美
松浦 順子

8 情報システム運営委員会委員(担当：米川理事)

委員長 米川 正夫
副委員長 渡辺 憲
笠木 正明 岡田 克夫
安陪 隆明 石津 吉彦
左野 喜實 近藤 博史

9 感染症危機管理対策委員会委員(担当：笠木常任理事)

委員長 笠木 正明
天野 道磨 村脇 義和
岡田 克夫 石谷 暢男
山本 敏雄 丸山 茂樹
堀井 俊伸

10 臨床検査精度管理委員会委員(担当：吉田理事)

委員長 富長 将人

副委員長 吉田 真人
清水 正人 吉田 泰之
大津 敬一 遠藤 秀之
野上 智
西川 清司(県臨床検査技師会長)

11 介護保険対策委員会委員(担当：天野副会長)

委員長 天野 道磨
富長 将人 渡辺 憲
清水 正人 杉山 長毅
藤井 武親 細田 明秀
浦上 克哉

12 鳥取県自動車保険医療指導委員会委員(担当：清水理事)

明穂 政裕 米川 正夫
清水 正人 福島 明
阿藤孝二郎 瀧田 寿彦

13 鳥取医学雑誌編集委員会委員(担当：富長副会長)

委員長 富長 将人
副委員長 西土井英昭
秋藤 洋一 阿藤孝二郎
木村 章彦 神鳥 高世
杉本 勇二 助川 鶴平
西村 元延 根本 良介
花木 啓一 濱本 哲郎
山口 由美 山根 哲実
吉田 明雄 吉田 泰之

14 定款・諸規程改正検討委員会委員(担当：魚谷常任理事)

委員長 魚谷 純
渡辺 憲 明穂 政裕
清水 正人 岡田 克夫
杉山 長毅 小林恭一郎
西田 法孝 安梅 正則
安達 敏明 小林 哲
西村 元延

15 母体保護法指定医師審査委員会委員(担当：井庭理事)

委員長 井庭 信幸
梅澤 潤一 皆川 幸久
澤住 和秀 中曾 庸博
伊藤 隆志
原田 省(鳥大医学部生殖機能医学分野教授)

16 母体保護法指定医師不服審査委員会委員

(担当：井庭理事)

藤原 和男 (弁護士)
露木 節子 (鳥取県看護協会会長)
板倉 和資 池田 宣之
野坂 美仁

17 学校医部会運営委員会委員 (担当：笠木常任理事)

委員長 笠木 正明
副委員長 天野 道磨
明穂 政裕 魚谷 純
井庭 信幸 石谷 暢男
松浦 喜房 青木 哲哉
妹尾 磯範 神鳥 高世
瀬口 正史

18 健康スポーツ医委員会委員 (担当：明穂常任理事)

委員長 明穂 政裕
副委員長 米川 正夫 岡田 克夫
福島 明 青木 哲哉
根津 勝 豊島 良太

19 産業医部会運営委員会委員 (担当：吉田理事)

委員長 岸本 拓治
副委員長 富長 将人
渡辺 憲 吉中 正人
吉田 真人 岡田 克夫
黒沢 洋一 森 英俊
杉山 長毅 湯川 喜美
大石 一康 越智 寛
門脇 敬一

20 勤務医委員会委員 (担当：村脇理事)

委員長 村脇 義和
副委員長 武田 倬 清水 正人

〔地区推薦〕

田中 紀章 森尾 泰夫
高見 徹 大倉 裕子

〔県医推薦〕

井上 一彦 (鳥取医療センター)
牧野 正人 (野島病院)
山代 豊 (鳥取赤十字病院)
鏑木 紀子 (鳥取市立病院)
角田 直子 (鳥取生協病院)
米谷 康 (岩美病院)
三浦さおり (県立中央病院)
大谷 恭一 (智頭病院)
橋本 達宏 (県立厚生病院)

野坂 仁愛 (山陰労災病院)
松永 佳子 (米子医療センター)
村田 裕彦 (西伯病院)

21 労災保険委員会委員・自賠責保険委員会委員 (担当：清水理事)

委員長 清水 正人
明穂 政裕 米川 正夫
福島 明 石田 浩司
根津 勝

22 禁煙指導対策委員会委員 (担当：渡辺常任理事)

委員長 渡辺 憲
天野 道磨 笠木 正明
安陪 隆明 松田 隆
飛田 義信 長谷川純一

23 鳥取県糖尿病対策推進会議委員 (担当：武田理事)

委員長 岡本 公男
副委員長 武田 倬 (日本糖尿病学会中
四国支部鳥取県幹
事)

富長 将人 天野 道磨
魚谷 純 松浦 喜房
大津 敬一 越智 寛
池田 匡 (日本糖尿病協会鳥
取県支部長)
大口 豊 (県健康政策課長)
後藤 弥 (県教育委員会ス
ポーツ健康教育課
長)

◆平成22年10月21日より池田副会長就任後補追の本会内委員会委員・部会委員は次のとおりである。

〔任期H. 22.10.21～H. 24. 3.31〕

〔敬称略〕

1 職業倫理・自浄作用活性化委員会委員 (担当：富長副会長)

委員長 岡本 公男
富長 将人 渡辺 憲
明穂 政裕 井庭 信幸
板倉 和資 池田 宣之
野坂 美仁

2 医事紛争処理委員会委員 (担当：井庭理事)

〔16名〕
委員長 岡本 公男
副委員長 富長 将人

- 池田 宣之 渡辺 憲
吉中 正人 明穂 政裕
魚谷 純 井庭 信幸
(東3) 板倉 和資 松浦 喜房
小林恭一郎
(中2) 松田 隆 安梅 正則
(西3) 野坂 美仁 神鳥 高世
辻田 哲朗
- 3 広報委員会委員 (担当：渡辺常任理事)
委員長 渡辺 憲
米川 正夫 清水 正人
松田 裕之 小林恭一郎
森廣 敬一 石津 吉彦
伊藤 慎哉 永井 小夜
豊島 良太
- 4 会報編集委員会委員 (担当：渡辺常任理事)
渡辺 憲 米川 正夫
清水 正人 秋藤 洋一
中安 弘幸 山口 由美
松浦 順子
- 5 感染症危機管理対策委員会委員 (担当：笠木常任理事)
委員長 笠木 正明
吉中 正人 村脇 義和
岡田 克夫 石谷 暢男
山本 敏雄 丸山 茂樹
堀井 俊伸
- 6 介護保険対策委員会委員 (担当：池田副会長)
委員長 池田 宣之
富長 将人 渡辺 憲
清水 正人 杉山 長毅
藤井 武親 細田 明秀
浦上 克哉
- 7 学校医部会運営委員会委員 (担当：笠木常任理事)
委員長 笠木 正明
副委員長 池田 宣之
明穂 政裕 魚谷 純
井庭 信幸 石谷 暢男
松浦 喜房 青木 哲哉
妹尾 磯範 神鳥 高世
瀬口 正史
- 8 健康スポーツ医委員会委員 (担当：明穂常任理事)
委員長 明穂 政裕

- 副委員長 米川 正夫 岡田 克夫
池田 宣之 福島 明
青木 哲哉 根津 勝
豊島 良太
- 9 勤務医委員会委員 (担当：村脇理事)
委員長 村脇 義和
副委員長 武田 倬 清水 正人
池田 宣之
- [地区推薦]
田中 紀章 森尾 泰夫
高見 徹 大倉 裕子
- [県医推薦]
井上 一彦 (鳥取医療センター)
牧野 正人 (野島病院)
山代 豊 (鳥取赤十字病院)
鏑木 紀子 (鳥取市立病院)
角田 直子 (鳥取生協病院)
米谷 康 (岩美病院)
三浦さおり (県立中央病院)
大谷 恭一 (智頭病院)
橋本 達宏 (県立厚生病院)
野坂 仁愛 (山陰労災病院)
松永 佳子 (米子医療センター)
村田 裕彦 (西伯病院)
- 10 禁煙指導対策委員会委員 (担当：渡辺常任理事)
委員長 渡辺 憲
笠木 正明 安陪 隆明
松田 隆 飛田 義信
長谷川純一
- 11 鳥取県糖尿病対策推進会議委員 (担当：武田理事)
委員長 岡本 公男
副委員長 武田 倬 (日本糖尿病学会中
四国支部鳥取県幹
事)
富長 将人 魚谷 純
松浦 喜房 大津 敬一
越智 寛
池田 匡 (日本糖尿病協会鳥
取県支部長)
大口 豊 (県健康政策課長)
後藤 弥 (県教育委員会ス
ポーツ健康教育課
長)
- 12 医療保険委員会 (担当：富長副会長)

委員長 富長 将人
副委員長 福島 明
渡辺 憲 吉中 正人
笠木 正明 魚谷 純
吉田 真人 米川 正夫
(基) 長谷川晴己 阿藤孝二郎
工藤 浩史 梅澤 潤一
(国) 渡邊 賢司 植木 寿一
下田光太郎 (東) 吉田 泰之
福永 康作 (中) 池田 宣之
森尾 泰夫 (西) 神鳥 高世
安達 敏明 (大) 村脇 義和

7. 顧問弁護士・顧問税理士について

平成23年3月末日現在、本会顧問弁護士・顧問税理士は次の通りである。〔敬称略〕

顧問弁護士 藤原 和男 (鳥取市)
川中 修一 (米子市)
顧問税理士 岸本 信一 (鳥取市)

8. 会員表彰について

本年度、一般表彰並びに会長表彰は次のとおりであった。

1 叙位・叙勲

22.11.3 瑞宝小綬章：松本 久
(米子市) 保健衛生功労者

2 一般表彰

第62回保健文化賞

22.10.26 武田 倬 (鳥取市)
小児糖尿病の療養指導の発展
に貢献

厚生労働大臣表彰

22.10.20 伊藤久太郎 (鳥取市)
国民健康保険関係功績者
22.11.2 富長 将人 (米子市)
公衆衛生事業功労者
22.11.11 野島 丈夫 (倉吉市)
老人保健福祉行政の推進に功
労者
22.11.23 鱸 俊朗 (米子市)
労災医療行政の推進に寄与
23.1.28 澤住 和秀 (倉吉市)
産科医療功労者

環境大臣表彰

22.7.9 光延 文裕 (三朝町)
温泉行政の推進功労者

文部科学大臣表彰

22.11.18 井田 拓夫 (境港市)
学校保健功労者

日本公衆衛生協会会長表彰 (第13回地域保健全国大会席上)

22.11.2 岸田 剛一 (鳥取市)
公衆衛生事業功労者
引田 亨 (倉吉市)
公衆衛生事業功労者
魚谷 純 (米子市)
公衆衛生事業功労者
宮崎 博実 (鳥取市)
公衆衛生事業功労者

日本家族計画協会会長表彰

22.11.11 井庭信幸 (米子市)
母子保健家族計画事業功労者

国民健康保険中央会表彰

22.10.6 白石 眞博 (米子市)
永年国保診療報酬審査委員
藤田 和寿 (鳥取市)
永年国保診療報酬審査委員
吉田 泰之 (鳥取市)
永年国保診療報酬審査委員
杉山 長毅 (鳥取市)
永年介護給付費審査委員

鳥取県国民健康保険団体連合会理事長表彰 (国保事業功労者)

22.8.4 鳥取県国民健康保険団体連合
会総会席上
尾崎 隆之 (岩美町)
白石 眞博 (米子市)
藤田 和寿 (鳥取市)
吉田 泰之 (鳥取市)
杉山 長毅 (鳥取市)

鳥取県知事表彰

22.9.7 浦辺 千晶 (米子市)
救急医療功労者
22.9.22 岸田 剛一 (鳥取市)
結核予防事業功労者

鳥取県教育委員会表彰

22.11.16 橋本 英宣 (鳥取市)
学校保健功労者
田中 梨 (倉吉市)
学校保健功労者
福島 明 (鳥取市)
県の競技力向上と生涯スポー

- ツの推進に貢献
- 鳥取県学校保健会長表彰（学校保健功労者）
23. 2. 11 鳥取県学校保健会研修会席上
大石 一康（倉吉市）
飛田 義信（伯耆町）
辻田 哲朗（米子市）
- 読売新聞社医療功労賞（第39回都道府県医療功労賞）
23. 2. 3 渡邊 賢司
- 鳥取県健康対策協議会長表彰；第41回理事会席上
22. 5. 27 三浦 邦彦（米子市）
鳥取県保健事業団理事長感謝状
22. 9. 7 岸本 幸廣（米子市）
対がん運動功労者
濱本 哲郎（米子市）
対がん運動功労者
工藤 浩史（鳥取市）
結核予防事業功労者
- 3 鳥取県医師会長表彰
22. 7. 3 定例総会席上
近藤 務（米子市）開業50年以上
大谷 伯（八頭町）開業50年以上
中野 治（琴浦町）開業50年以上
足立 史郎（米子市）開業50年以上
魚谷 純（米子市）永年役員
中島 公和（鳥取市）永年役員
乾 俊彦（鳥取市）永年役員
安梅 正則（倉吉市）永年役員
河本 知秀（倉吉市）永年役員
引田 亨（倉吉市）永年役員
大石 一康（倉吉市）永年役員
明場 美穂（倉吉看護高等専修学校）永年職員
22. 7. 2 鳥取県産業安全衛生大会席上
橋本 英宣（鳥取市）
柿坂 紀武（若桜町）
- 4 第19回鳥取医学賞；22. 7. 3 定例総会席上
岸 清志（鳥取県立厚生病院）
- 5 米寿御祝；22. 7. 3 定例総会席上
宮川 鉄男（北栄町）
縄田 隆淑（鳥取市）
坂本紀美子（鳥取市）
都田 治（米子市）
- 6 喜寿御祝；22. 7. 3 定例総会席上
倉元 義人（境港市）
野嶋 明夫（米子市）

- 大石 徹（鳥取市）
能勢 順吉（八頭町）
越智 勤（米子市）
伊藤 文利（倉吉市）
佐々木博史（大山町）
涌谷 清（日吉津村）
菊川 寿子（鳥取市）
五明田 孝（米子市）
小谷 穰治（鳥取市）
山田 晴成（米子市）
白井 宗雄（鳥取市）
- 7 特別榮譽賞；22. 12. 12
乗本 志考（米子市）

9. 県及び関係団体委員会委員の推薦について

平成23年3月末日現在、本会から推薦した県及び関係団体委員会委員は次のとおりである。委員会の審議に当っては本会方針の反映に努めた。（一部本会推薦以外も含む）

〔鳥取県福祉保健部：医療政策課〕

- 1 鳥取県准看護師試験委員（至H24. 8. 16）
米川正夫 岡田克夫 新田辰雄
- 2 鳥取県医療審議会委員（至H23. 7. 15）
岡本公男 井庭信幸 宮崎博実
- 3 鳥取県精度管理専門委員（至H24. 2. 14）
中井一仁 吉田真人
- 4 鳥取県地域医療対策協議会委員（至H25. 1. 27）
岡本公男
- 5 ドクターヘリ運航調整委員会委員（任期：未定）
清水正人

〔鳥取県福祉保健部：健康政策課〕

- 1 鳥取県感染症危機管理対策協議会情報解析部会委員（任期：未定）
笠木正明 北室知巳
- 2 鳥取県感染症対策協議会委員（至H25. 3. 31）
笠木正明
- 3 鳥取県感染症対策協議会結核部会委員（至H25. 3. 31）
笠木正明
- 4 鳥取県がん対策推進県民会議委員（至H24. 3. 31）
岡本公男
- 5 鳥取県健康づくり文化創造推進県民会議委

- 員（至H23.10.24）
魚谷 純
- 6 鳥取県麻しん対策会議委員（至H23.12.21）
笠木正明
- 7 鳥取県8020運動推進協議会委員（至H24.12.21）
杉山長毅
- 8 鳥取県心といのちを守る県民運動委員（至H24.10.15）
渡辺 憲
- 9 ウォーキング立県19のまちを歩こう事業実行委員会委員（至H23.3.31）
松田 隆
- 〔鳥取県福祉保健部：長寿社会課〕
- 1 鳥取県介護保険審査会委員
日笠親績 新田辰雄
高見 徹（至H25.6.10）
- 2 鳥取県国民健康保険審査会委員（至H23.9.20）
板倉和資
- 3 鳥取県介護保険事業支援計画及び老人福祉計画策定・推進委員会委員（至H26.3.31）
渡辺 憲
- 〔鳥取県福祉保健部：福祉保健課〕
- 1 鳥取県社会福祉審議会委員（至H24.9.1）
吉田真人 林 裕人
- 2 山家 武 村田雅明 桶川了二
鈴木健男 小坂博基 工藤浩史
松田裕之（至H24.9.1）
- 3 鳥取県社会福祉審議会児童福祉専門分科会（臨時委員）（至H24.9.1）
中野英二
- 〔鳥取県福祉保健部：医療指導課〕
- 1 鳥取県医療安全推進協議会委員（至H24.3.14）
富長将人
- 2 鳥取県ジェネリック医薬品安心使用促進協議会委員（至H24.3.31）
吉田真人
- 3 鳥取県インフルエンザワクチン対策委員会委員（任期：未定）
笠木正明
- 4 鳥取県抗インフルエンザウイルス薬対策委員会委員（任期：未定）
笠木正明
- 5 鳥取県後期高齢者医療審査会委員（至H26.4.30）
吉田真人
- 6 鳥取県国民健康保険診療報酬請求書審査会委員（至H25.5.31）
〔公益代表〕
福島 明 吉田泰之 植木壽一
田村矩章 早田俊司 平尾正人
渡邊賢司 谷田 理
〔保険者代表〕
伊藤久太郎 紀川純三 下田光太郎
古城治彦 藤田和寿 田中 潔
川上 伸 秋藤洋一
〔保険医代表〕
田村公平 林 裕史 福永康作
浪花紳悟 高須宣行 白石真博
葉狩良孝 小寺正人
- 7 社会保険医療担当者指導員（至H24.5.31）
内 科：坂本雅彦 吉田明雄
古城治彦 下田光太郎
田村矩章 田中孝幸
外 科：岸 清志 渡邊賢司
整形外科：福島 明 阿藤孝二郎
鱸 俊朗
小 児 科：平尾正人 奈良井栄
耳鼻咽喉科：藤田和寿 竹内裕美
精 神 科：田中 潔
眼 科：伊藤久太郎 山崎厚志
皮膚泌尿器科：葉狩良孝 江川尚男
泌尿器科：井上明道
- 〔鳥取県福祉保健部：障がい福祉課〕
- 1 鳥取県障害者介護給付費等不服審査会委員（至H25.4.30）
田中宏和 幡 碩之
- 2 地域依存症対策推進委員会委員（至H24.3.31終了）
山下陽三
- 〔鳥取県福祉保健部：子育て支援総室〕
- 1 鳥取県小児慢性特定疾患診査会委員（任期：未定）
笠木正明
- 〔鳥取県企画部：青少年・文教課〕
- 1 鳥取県青少年問題協議会委員（至H24.10.4）
田中 清
- 〔鳥取県防災局：消防課〕
- 1 鳥取県防災会議委員（至H24.7.20）

- 清水正人
- 2 鳥取県救急搬送高度化推進協議会委員（至H24. 3. 31）
- 清水正人 吉田泰之 山本敏雄
面谷博紀
- 〔鳥取県総務部：人権局人権・同和対策課〕
- 1 鳥取県人権尊重の社会づくり協議会委員
下田光太郎（至H23. 1. 8 終了）
- 〔鳥取県総務部：福利厚生課〕
- 1 鳥取県公務災害補償等審査会委員（至H25. 11. 30）
安陪隆明
- 2 鳥取県公務災害補償等認定委員会委員（至H25. 11. 30）
田中香寿子
- 3 地方公務員災害補償基金鳥取県支部審査会委員（至H25. 11. 30）
安陪隆明
- 〔鳥取県病院局：総務課〕
- 1 鳥取県立病院運営評議会委員（至H24. 7. 31）
岡本公男
- 〔鳥取県教育委員会：スポーツ健康教育課〕
- 1 鳥取県学校結核対策委員会委員（至H24. 3. 31）
笠木正明
- 2 心や性の健康問題対策協議会委員（至H26. 3. 31）
笠木正明
- 〔鳥取労働局〕
- 1 労災保険診療費審査委員（至H25. 3. 31）
鱸 俊朗 石井博之 那須吉郎
明穂政裕 石田浩司 永井琢己
- 2 地方労災医員
山本哲章 阿藤孝二郎 那須吉郎
沼田秀治 林 永祥（至H25. 3. 31）
柏木 徹 幡 碩之
塩崎かおる（至H24. 3. 31）
- 3 労災協力医：公的病院等勤務医（至H26. 3. 31）
坂本雅彦 中安弘幸 吉田泰之
日笠親績 藤田和寿 倉信耕爾
頼田孝男 藤原義夫 魚谷 純
- 4 母性健康管理指導医（至H24. 6. 30）
竹内 薫
- 〔厚生労働省中国四国厚生局〕

- 1 中国地方社会保険医療協議会委員（至H23. 9. 30）
岡本公男
- 〔中国四国厚生局鳥取事務所〕
- 1 保険指導医（至H24. 3. 31）
- 内 科：坂本雅彦 吉田明雄
古城治彦 下田光太郎
田村矩章 田中孝幸
- 外 科：岸 清志 渡邊賢司
整形外科：福島 明 阿藤孝二郎
鱸 俊朗
- 小 児 科：平尾正人 奈良井栄
耳鼻咽喉科：藤田和寿 竹内裕美
- 精 神 科：田中 潔
- 眼 科：伊藤久太朗 山崎厚志
- 皮膚泌尿器科：葉狩良孝 江川尚男
- 泌尿器科：井上明道
- 〔鳥取大学〕
- 1 国立大学法人鳥取大学経営協議会委員（至H25. 3. 31）
岡本公男
- 〔鳥取大学医学部附属病院がんセンター〕
- 1 鳥取県がん診療連携協議会委員（任期：未定）
岡本公男 吉中正人
- 〔鳥取県警察本部：警務課〕
- 1 鳥取県留置施設視察委員会委員（至H24. 5. 31）
瀧田親友朗
- 〔鳥取刑務所〕
- 1 視察委員会委員（至H24. 3. 31）
谷口昌弘
- 各種団体
- 〔社会保険診療報酬支払基金鳥取支部〕
- 1 社会保険診療報酬支払基金鳥取支部幹事（至H24. 8. 31）
岡本公男
- 2 鳥取県社会保険診療報酬請求書審査会委員（至H25. 5. 31）
- 〔学識経験者〕
- 小田 大 坂本雅彦 濱崎尚文
奈良井栄 梅澤潤一 稲垣裕敬
山家 武 田中孝幸 阿藤孝二郎
村上 敏 竹内裕美 森本啓介
- 〔保険者代表〕
- 中安弘幸 工藤浩史 光延文裕

中岡明久 助川鶴平 大山賢治
森下嗣威 鱸 俊朗 井上明道
山崎厚志 竹内 薫 高橋芳香
松木 勉

〔診療担当者代表〕

江川尚男 瀬川謙一 小林恭一郎
吉田明雄 松田裕之 谷口昌弘
松浦順子 尾崎真人 米川正夫
佐々木知啓 麻木宏栄 庄司公平

〔社会福祉法人恩賜財団済生会支部鳥取県済生会〕

- 1 鳥取県済生会境港総合病院評議員(至H23.11.17)

野坂美仁

〔鳥取県看護協会〕

- 1 鳥取県看護職員確保対策連絡協議会委員(至H25.3.31)

明穂政裕

- 2 地域包括ケア推進事業の実施に係る訪問看護推進協議会委員(至H25.3.31)

乾 俊彦

〔鳥取県公衆衛生協会〕

- 1 鳥取県公衆衛生協会理事(至H24.6.8)

岡本公男 渡辺 憲 笠木正明

〔鳥取県社会福祉協議会〕

- 1 福祉サービス運営適正化委員会委員(至H24.8.31)

下田光太郎

- 2 生活福祉資金貸付審査等運営委員会委員(至H24.3.31)

谷口玲子

- 3 地域福祉権利擁護事業・契約締結審査会委員(至H23.10.31)

高田耕吉

〔鳥取県町村職員退職手当組合〕

- 1 鳥取県町村非常勤職員公務災害補償等審査会委員(至H26.3.31)

岡本公男

〔鳥取県保健事業団〕

- 1 役員(至H25.3.31)

理事長 岡本公男

理事 岡田克夫

〔財団法人結核予防会鳥取県支部〕

- 1 財団法人結核予防会鳥取県支部支部長(至H25.3.31)

岡本公男

〔鳥取県学校保健会〕

- 1 学校保健会評議員(至H24.3.31)

会 長 岡本公男

理 事 笠木正明

- 2 学校安全表彰審査会委員(任期:随時)

岡本公男(学校保健会長) 笠木正明

〔独立行政法人日本スポーツ振興センター〕

- 1 独立行政法人日本スポーツ振興センター広島支所業務運営委員会委員(至H25.3.31)

明穂政裕

〔鳥取県国民健康保険団体連合会〕

- 1 鳥取県国民健康保険団体連合会理事(至H23.6.9)

岡本公男

- 2 鳥取県国民健康保険団体連合会介護給付費審査委員会委員

神谷 剛 杉山長毅(至H24.4.30)

- 3 鳥取県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会委員(至H24.3.31)

吉田真人

- 4 常務処理審査委員(至H25.5.31)

植木壽一

〔財団法人鳥取県国際交流財団〕

- 1 公益財団法人鳥取県国際交流財団理事(至H25.5.31)

岡田克夫

〔日本年金機構中国ブロック本部〕

- 1 国民年金の年金給付に係る障害認定審査医員(至H24.3.31)

明穂政裕 藤田和寿 元村嘉男

〔財団法人暴力追放鳥取県民会議〕

- 1 財団法人暴力追放鳥取県民会議理事(至H24.3.31)

岡本公男

〔財団法人鳥取県環境管理事業センター〕

- 1 財団法人鳥取県環境管理事業センター参与(至H25.5.31)

岡本公男

〔財団法人鳥取県臓器バンク〕

- 1 財団法人鳥取県臓器バンク副理事長(至H25.3.31)

岡本公男

〔鳥取県人権文化センター〕

- 1 公益社団法人鳥取県人権文化センター理事(至H24.5月総会まで)

谷口直樹

〔鳥取県薬剤師会〕

- 1 鳥取県薬剤師会薬事情報センター運営委員
(至H24. 3.31)
富長将人

〔鳥取県精神保健福祉協会〕

- 1 鳥取県精神保健福祉協会理事 (至H25. 3.31)
岡本公男

〔鳥取産業保健推進センター〕

- 1 鳥取産業保健推進センター運営協議会会長
(至H23. 3.31)
岡本公男

〔鳥取県後期高齢者医療広域連合〕

- 1 鳥取県後期高齢者医療懇話会委員(至H25. 3.31)
池田宣之

〔鳥取県立図書館〕

- 1 県民のための健康情報サービス委員会委員
岡田克夫 (至H23. 3.31終了)

〔日本医師会〕

- 1 日本医師会乳幼児保健検討委員会(至H24. 3.31)
笠木正明
- 2 日本医師会看護職員検討委員会 (至H24. 3.31)
清水正人
- 3 日本医師会病院委員会委員(至H24. 3.31)
渡辺 憲
- 4 日本医師・従業員国民年金基金第8期代議員 (至H24. 3.31)
瀬川謙一

〔その他〕

- 1 山陰救急医学会幹事 (任期：未定)
清水正人
- 2 日本救急医学会中国四国地方会評議員 (至H24. 3.31)
清水正人
- 3 全国有床診療所連絡協議会理事 (至H24. 3.31)
米川正夫
- 4 若年者心疾患対策協議会役員(任期：未定)
顧問 岡本公男
理事 坂本雅彦
評議員 西村元延 奈良井栄
星加忠孝
- 5 鳥取県柔道整復師会顧問

岡本公男

- 6 鳥取県鍼灸師会顧問
岡本公男

- 7 鳥取県難病医療連絡協議会、鳥取県難病相談・支援センター運営委員会委員 (至H24. 3.31)
安部喬樹

10. 各種会合について

本年3月末日までに開催された総会、代議員会、その他各種会合は次のとおりである。

1 総会 (1回)

平成22年度定例総会は、平成22年7月3日(土)、午後4時50分から鳥取県医師会館において開催し、平成21年度庶務、事業概況に関する報告並びに平成21年度決算について、これを承認された。

また、鳥取県医師会会長表彰、鳥取医学賞並びに特別講演「日本医師会の提言」(講師：日本医師会副会長 横倉義武先生)を行い盛会であった。詳細は、会報第662号へ掲載した。

2 代議員会 (3回)

1) 第182回(臨時)代議員会 平成22年7月3日、県医師会館において開催し、平成21年度鳥取県医師会収入支出決算6議案等について承認した。詳細は、会報第662号へ掲載した。

2) 第183回(臨時)代議員会 平成22年10月21日、鳥取県医師会館において開催し、議長・副会長補欠選挙を行った。詳細は、会報第665号へ掲載した。

3) 第184回(定例)代議員会 平成23年3月19日、県医師会館において開催し、平成23年度鳥取県医師会事業計画、予算等7議案について原案どおり承認可決した。詳細は、会報第670号へ掲載した。

3 常任理事会及び理事会

本年3月までに開催した常任理事会は11回、理事会は12回、日常会務の処理及び当面の重要問題の執行について協議を行った。

なお、緊急を要する問題については、必要により担当理事打合会を開催し、会務運営に万全を期した。また、理事会会議記録等については、県医師会報及び県医師会メーリングリスト並びにホームページ(会員用)への掲載を以て、概要の周知を図った。

4 会議メモ

- 4月1日 日本医師会定例代議員会・定例総会（2日まで）
- 8日 第1回理事会
 ♪ 鳥取県保健・医療・福祉関係者観桜会
- 10日 高知県医師会館移転開設記念内覧会・祝賀会
- 13日 鳥取県地域産業保健センター準備委員会
- 15日 平成22年度第1回鳥取県医師国民健康保険組合理事会
 ♪ 鳥取県医師会第219回公開健康講座
 ♪ 鳥取県健康対策協議会若年者心臓検診対策専門委員会
- 18日 鳥取県鍼灸マッサージ師会通常総会
- 5月6日 生活保護法による指定医療機関個別指導計画打合せ会
 ♪ 第1回常任理事会
- 9日 鳥取県有床診療所協議会設立総会
- 13日 産業医部会運営委員会
 ♪ 国民健康保険組合推進連盟代議員会
 ♪ 全国国民健康保険組合協会理事会
- 18日 鳥取県臓器バンク理事会
- 20日 保険医療機関指導計画打合せ会
 ♪ 第2回理事会
 ♪ 鳥取県医師会第220回公開健康講座
- 22日 平成22年度全国国民健康保険組合協会中国・四国支部総会
- 25日 鳥取県保健事業団理事会
- 26日 日医女性医師支援担当理事連絡協議会
- 27日 鳥取県健康対策協議会理事会
- 29日 中国四国医師会連合常任委員会
 ♪ 中国四国医師会連合分科会
- 30日 中国四国医師会連合総会
- 6月2日 全国メディカルコントロール協議会連絡会
- 2日 鳥取県病院協会定期総会
 ♪ 鳥取大学関連基幹型病院協議会
- 3日 学校医部会運営委員会
 ♪ 第2回常任理事会

- 6日 春季医学会
- 8日 第1回鳥取大学経営協議会
- 10日 全国国民健康保険組合協会第55回通常総会
- 17日 監事会
 ♪ 第3回理事会
 ♪ 鳥取県医師会第221回公開健康講座
- 20日 鳥取外傷セミナーJPTECプロバイダーコース
- 23日 鳥取県DMAT連絡協議会
 ♪ 鳥取県環境管理事業センター参与会
- 24日 鳥取県糖尿病対策推進会議
 ♪ 生涯教育委員会
- 25日 第2回鳥取大学経営協議会
- 27日 鳥取県看護協会通常総会
- 30日 鳥取県麻しん対策会議（TV会議）
- 7月1日 平成22年度都道府県医師会救急災害医療担当理事連絡協議会
 ♪ 第3回常任理事会
- 2日 鳥取県産業安全衛生大会
- 3日 第182回臨時代議員会
 ♪ 定例総会
- 6日 県民のための健康情報サービス検討委員会
- 8日 鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会
 ♪ 地域医療連携ネットワークシステムの構築に係る第1回ワーキンググループ
- 15日 鳥取県学校保健会理事・評議員会
 ♪ 第4回理事会
 ♪ 鳥取県医師会第222回公開健康講座
- 16日 鳥取県公衆衛生学会
 ♪ 平成22年度都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会
- 20日 平成22年度第1回都道府県医師会長協議会
- 22日 鳥取県産業保健推進センター運営協議会
- 22日 鳥取県医師国民健康保険組合監事会
 ♪ 鳥取県医師国民健康保険組合理事会

24日	第6回男女共同参画フォーラム	28日	鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会
〃	中国四国医師会国民健康保険組合連絡協議会	30日	日本医師会国際保健に関するセミナー
28日	都道府県医師会産業保健担当理事連絡協議会	9月2日	かかりつけ医と精神科医との連携会議
〃	全国国民健康保険組合協会常務理事会	〃	第5回常任理事会
29日	第1回鳥取県がん診療連携協議会	〃	鳥取県准看護師試験委員会
〃	広報委員会・会報編集委員会合同委員会	3日	中国四国医師会事務局長会議
31日	第23回全国有床診療所連絡協議会総会・講演会	4日	鳥取県健康対策協議会生活習慣病対策専門委員会
8月1日	第1回産業医研修会	〃	特定健診従事者講習会
3日	鳥取県医療審議会	〃	日医初級パソコンセミナー（5日まで）
4日	母子保健対策専門委員会小委員会	7日	鳥取県がん征圧大会
5日	介護保険対策委員会	9日	薬事情報センター運営委員会
〃	感染症危機管理対策委員会実務者会議	〃	鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会総合部会
〃	第4回常任理事会	12日	心臓検診従事者講習会
〃	日本医師会感染症危機管理対策協議会	〃	第1回学校医・学校保健研修会
7日	鳥取県医師会国民健康保険組合第125回通常組合会	15日	鳥取県後期高齢者医療懇話会
12日	鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会	〃	矯正医療に関する協議会
17日	がん対策推進協議会	16日	鳥取県インフルエンザワクチン対策委員会
〃	市町村がん検診に対する知事表彰の被表彰者選考委員会	〃	鳥取県抗インフルエンザウイルス薬対策委員会
19日	鳥取県健康対策協議会肺がん対策専門委員会	〃	第6回理事会
〃	鳥取県医師会指定学校医制度の検討会	〃	鳥取県医師会第224回公開健康講座
〃	第5回理事会	18日	健康フォーラム2010
〃	鳥取県医師会第223回公開健康講座	19日	第28回鳥取外傷セミナー
21日	鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会	26日	第2回産業医研修会
22日	中国四国医師会学校保健担当理事連絡協議会	10月5日	鳥取県地域医療対策協議会
〃	中国地区学校医大会	7日	第6回常任理事会
25日	第54回社会保険指導者講習会（26日まで）	8日	全国医師会国民健康保険組合連合会第48回全体協議会
26日	平成22年度がん登録対策専門委員会	9日	全国医師会勤務医部会連絡協議会
〃	鳥取県健康対策協議会子宮がん対策専門委員会	12日	鳥取県医療審議会
		14日	県医師会と県教育委員会との連絡協議会
		16日	第5回指導医のための教育ワークショップ（17日まで）
		21日	看護職員確保対策連絡協議会
		〃	第183回臨時代議員会
		〃	第7回理事会
		22日	中国地方社会保険医療協議会

- | | | | |
|-------|---|------|----------------------------|
| 24日 | 中国四国医師会連合連絡会 | 5日 | 臨床検査精度管理事業報告会 |
| 〃 | 第123回日本医師会臨時代議員会 | 7日 | 鳥取県健康対策協議会疾病構造の地域特性対策専門委員会 |
| 26日 | 鳥取大学経営協議会、学長選考会議 | 9日 | 公益法人制度改革に関する研修会 |
| 27日 | 鳥取県ジェネリック医薬品安心使用促進協議会 | 10日 | 鳥取大学経営協議会、学長選考会議 |
| 28日 | 健康づくり文化創造推進県民会議 | 11日 | 医師会立看護高等専修学校連絡協議会 |
| 〃 | 医療保険委員会 | 12日 | 平成22年度日本医師会医療事故防止研修会 |
| 11月2日 | 東部の医療のあり方についての意見交換会 | 14日 | 第228回鳥取県医師会公開健康講座 |
| 4日 | 第7回常任理事会 | 16日 | 第9回理事会 |
| 〃 | 母体保護法指定医師審査委員会 | 〃 | 鳥取県医療安全推進協議会 |
| 〃 | 日本産婦人科医会鳥取県支部理事会 | 〃 | 平成22年度都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会 |
| 6日 | 中国四国医師会連合常任委員会 | 21日 | 鳥取県がん対策推進県民会議 |
| 〃 | 中国四国医師会連合各種研究会 | 25日 | 鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会 |
| 9日 | 鳥取大学関連基幹型病院協議会 | 1月6日 | 第10回理事会 |
| 10日 | 鳥取県感染症対策協議会 | 〃 | 第62回医療懇話会 |
| 11日 | 県立病院運営評議会 | 13日 | 鳥取県学校保健及び学校安全表彰審査会 |
| 〃 | 鳥取県産業保健協議会 | 〃 | 平成23年度中国地区学校保健研究協議大会実行委員会 |
| 14日 | 秋季医学会 | 〃 | 鳥取県がん診療連携協議会 |
| 〃 | 「世界糖尿病デー」in鳥取・仁風閣ブルーライトアップ | 〃 | 鳥取県母子保健対策協議会母子保健対策専門委員会 |
| 15日 | 鳥取県社会福祉審議会 | 〃 | 鳥取県自動車保険医療連絡協議会 |
| 18日 | 地域医療対策協議会 | 〃 | 鳥取医学雑誌編集委員会 |
| 〃 | 第228回鳥取県医師会公開健康講座 | 18日 | 第2回都道府県医師会長協議会 |
| 〃 | 第8回理事会 | 19日 | 都道府県医師会共同利用施設担当理事連絡協議会 |
| 19日 | 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会 | 20日 | 第10回理事会 |
| 20日 | 全国学校保健・学校医大会 | 〃 | 第229回鳥取県医師会公開健康講座 |
| 25日 | 女子医学生、研修医等をサポートするための研修会 | 〃 | 鳥取県健康対策協議会公衆衛生活動対策専門委員会 |
| 28日 | 思春期精神疾患対応力向上研修 | 〃 | 鳥取県感染症対策協議会結核部会 |
| 〃 | 鳥根県有床診療所協議会設立総会 | 〃 | 「第2回（仮称）鳥取県医師会指定学校医」制度の検討会 |
| 〃 | 産業医研修会 | 22日 | 中国四国各県学校保健担当理事打合せ |
| 12月2日 | 感染症危機管理対策委員会 | 25日 | 鳥取大学経営協議会 |
| 〃 | 第8回常任理事会 | 27日 | 鳥取県麻しん対策会議 |
| 〃 | ITを活用した地域医療連携ネットワークシステムの構築に係る第3回ワーキンググループ | 〃 | 鳥取県健康対策協議会生活習慣病 |
| 3日 | 日本医師会女性医師等相談窓口事業推進連絡協議会 | | |
| 4日 | 共済会の清算業務にかかる委員会 | | |
| 〃 | 平成22年度家族計画・母体保護法指導者講習会 | | |

	対策専門委員会	25日	都道府県医師会事務局長連絡会
27日	第32回都道府県医師会産業保健活動推進全国会議	26日	第59回医事紛争処理委員会
30日	全国有床診療所連絡協議会中国四国ブロック総会	27日	日本医師会テレビ会議システムによる日医予防接種講習会
2月1日	鳥取県地域医療対策協議会	3月1日	鳥取県地域医療対策協議会
2日	平成22年度日本医師会医療政策シンポジウム	〃	第4期鳥取県介護保険事業支援計画・老人福祉計画策定・推進委員会
3日	第10回常任理事会	2日	米子看護高等専修学校卒業式
〃	立病院運営評議会	3日	鳥取産業保健推進センター運営協議会
〃	鳥取県社会福祉審議会	〃	第11回常任理事会
〃	ITを活用した地域医療連携ネットワークシステム構築事業等の今後の事業実施説明会	〃	鳥取看護高等専修学校卒業式
〃	鳥取県医師会役員と報道記者との懇談会	〃	倉吉看護高等専修学校卒業式
4日	全国メディカルコントロール協議会連絡会	5日	鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会
8日	鳥取県医療審議会	8日	鳥取県保健事業団理事会
10日	鳥取県性教育推進委員会	〃	鳥取県医療審議会
〃	臨床検査精度管理委員会	10日	鳥取県准看護師試験委員会
11日	学校医・学校保健研修会	〃	鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会総合部会
12日	鳥取県健康対策協議会胃がん対策専門委員会	11日	自賠責保険研修会
〃	日本医師会医療情報システム協議会（～13日まで）	15日	鳥取県がん対策推進県民会議
13日	鳥取県健康対策協議会子宮がん対策専門委員会	17日	第231回鳥取県医師会公開健康講座
17日	第11回理事会	〃	鳥取県健康対策協議会地域医療研修及び健康情報対策専門委員会
〃	第230回鳥取県医師会公開健康講座	〃	鳥取県健康づくり文化創造推進県民会議
〃	禁煙指導対策委員会	19日	第2回感染症危機管理対策委員会実務者会議
〃	会報編集委員会	〃	第184回定例代議員会
19日	鳥取県健康対策協議会肺がん対策専門委員会	〃	鳥取県医師国民健康保険組合第126回通常組合会
〃	日本医師会学校保健講習会	22日	鳥取県臓器バンク理事会
20日	日本医師会母子保健講習会	24日	第12回理事会
22日	鳥取県地域産業保健センター運営協議会	〃	かかりつけ医と精神科医との連携会議
24日	鳥取県学校結核対策委員会	25日	鳥取大学学長選考会議、経営協議会
〃	鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会		
24日	日本医師会シンポジウム「会員の倫理・資質向上をめざして」		
〃	第4回鳥取県医師国民健康保険組合理事会		

11. 公益法人制度改革への対応

1 公益法人改革に関する研修会

平成22年12月9日、県医師会館において各地区医師会にも参集いただき開催した。

講演(1)「新公益法人制度移行の選択肢と対応策—医師会の場合—」（高野総合会計事務

所マネージャー 清水謙一氏(税理士・中小企業診断士)、(2)「医師会の事業区分の考え方と定款・機関設計のポイント」(高野総合会計事務所 徳田貴仁氏(弁護士・税理士))の後、質疑応答を行なった。県医師会は母体保護法の関係で公益認定を取得しなければならないかもしれないとの情報があるが、公益法人の申請準備は最短でも1年半程度かかり、移行まで2年間のスケジュールで考えている。今後は、県医師会及び各地区医師会が連携し

て事業を進めていく予定である。詳細は、会報第667号に掲載した。

12. 会員名簿発行について

平成22年6月1日現在にて1,700部発行、全会員並びに関係諸方面に配付した。

なお、平成17年4月1日より個人情報保護法が施行されたことにより、個人情報の不正な流出を防ぐため、配布時に文書で会員名簿の取り扱いについて厳重に管理(処分を含む)していただくようお願いした。

経 理 関 係

1. 平成21年度歳入・歳出決算について

平成21年度一般会計及び特別会計決算並びに財産目録等について、平成22年6月17日、県医師会館において新田、石井両監事によって厳正なる監査が行われ、いずれも適正妥当であったことが認められた。

次いで、7月3日開催の第182回(臨時)代議員会において承認された。

2. 平成22年度会費減免について

平成22年度会費減免については、第181回(定例)代議員会、第182回(臨時)代議員会[追加分]において申請どおり承認になった。減免申請の内訳は次のとおりである。

会費免除会員…130名(高齢94名、傷病3名、研修医33名)

3. 平成22年度共済会会計決算について

平成22年度共済会会計決算について、平成23

年2月17日、県医師会館において新田、石井両監事によって厳正なる監査が行われ、適正妥当であったことが認められた。

次いで、3月19日開催の第184回(定例)代議員会において承認された。

4. 平成23年度歳入・歳出予算について

平成23年度予算については、平成23年3月19日開催の第184回(定例)代議員会において原案どおり可決され、4月1日から施行する。

また、本会特別会計については下記の如く認められており、各予算はそれぞれの事業推進の費途に充てられている。

- 1 鳥取県医師会会館修繕積立金会計
- 2 生命保険取扱特別会計
- 3 鳥取県地域産業保健センター会計

医療安全対策・自浄作用活性化対策、診療情報提供の推進

1. 医療安全対策

1 鳥取県医療安全推進協議会

平成22年12月16日、県庁において開催され、富長副会長より出席報告があった。

医療安全支援センターは、医療に関する患者の苦情や相談等を迅速に対応し、医療機関への情報提供、連絡調整を実施する体制を整備して医療の安全と信頼を高めることを目的に設置されたもので、本協議会において運営方針並びに運営内容の検討をし、個別の相談事例で重要な事例に関わる指導や助言をする

ことになっている。

相談件数は最近減少してきているが、これは各病院に医療相談窓口が設置されたためだと思われる。主な相談受付事例について報告があった後、協議、意見交換が行なわれた。県及び各保健所の担当者は非常によく対応していただいている。なお、相談受付事例を各医療機関へ周知した方がよいのではないかと意見があり、西部では既に周知されているが、地区医師会で検討していただくこととした。

2 日本医師会シンポジウム「会員の倫理・資質向上をめざして」

平成23年2月24日、日医会館において開催され、富長副会長、明穂常任理事が出席した。今回のシンポジウムは、都道府県における会員の倫理・資質向上に向けた取組、特に患者からの苦情や相談に対する対応や苦慮した事例などについての情報交換、問題の検討を行ない、さらなる医療倫理の向上を図るために

初めて開催された。

議事として、会員の倫理・資質向上委員会活動報告があった後、都道府県医師会における患者の苦情相談に基づく倫理問題への取組として、(1)都道府県医師会における苦情相談に関するアンケート調査結果の概要報告、(2)都道府県医師会の取組（東京・愛知・滋賀・福岡）、(3)総合討論、が行なわれた。詳細は、会報第669号へ掲載した。

医学医術の研究奨励及び生涯教育関係

1. 医学会

1 春季医学会（学会長：鳥取県立厚生病院院長 前田迪郎先生）

平成22年6月6日（土）午前9時より倉吉市・鳥取県立倉吉未来中心において、鳥取県医師会主催、鳥取県立厚生病院・中部医師会共催により開催した。（出席者66名）

1) 研究発表……25題

2) 特別講演

「肝臓病の日常診療における注意点」

講師 医療法人同愛会博愛病院
院長補佐 周防武昭先生

3) アンケート回収 27枚

春季医学会抄録は、鳥取医学雑誌第38巻2号へ掲載した。

2 秋季医学会（学会長：鳥取生協病院院長 竹内 勤先生）

平成22年11月14日（日）午前9時より、鳥取市・鳥取県医師会館において、鳥取県医師会主催、鳥取生協病院・東部医師会共催により開催した。（出席者65名）

1) 研究発表……19題

2) シンポジウム：「地域連携パスをどう考えるか？現状と課題」

座長 鳥取生協病院副院長

齋藤 基先生

「脳卒中地域連携パス」鳥取医療センター神経内科 金藤大三先生

「がん診療における地域連携パスについて」鳥取市立病院外科 山下 裕先生

「糖尿病」鳥取県立中央病院内科

檜崎晃史先生

「心筋梗塞」鳥取県立中央病院心臓内科

吉田泰之先生

3) 特別講演

「脳腫瘍とその治療について」

講師 大阪市立大学大学院医学研究科 脳神経外科主任教授

大畑建治先生

4) アンケート回収 17枚

秋季医学会抄録は、鳥取医学雑誌第38巻4号へ掲載した。

2. 日本医師会生涯教育制度への参加について

昭和62年度より本制度として始まった日本医師会生涯教育制度については、平成22年4月より実施要綱が大幅に改正され、更に、22年6月再度一部改正された。

〈生涯教育制度実施要綱の主な改正点〉

1. 本年4月に全会員に配布した生涯教育カリキュラム〈2009〉に沿って、84のテーマにカリキュラムコードを付与したこと。

2. これまで1年間10単位で修了証を発行し、3年間連続取得したものに認定証を発行していたが、修了証をやめて単位取得証とし、3年間で合計30単位、30カリキュラムコードを修得したものに認定証を発行すること。

但し、認定証の発行基準については、22年6月の再改正で「連続した3年間で単位数とカリキュラムコード数（同一コードは可算不可）の合計数が60以上の取得者に日医生涯教育認定証を発行する。」となった。

3. 平成21年度の修了証修得者（10単位以上）には、暫定措置として全員に認定証を発行すること。

4. 認定証をこれまでのB5版のものから、

A 4 版とし、紙質も上げることで見栄えのよいものとするとともに、3年間の有効期限を明記すること。

5. 日医雑誌やe-ラーニングの自己学習に、評価を導入したこと。

1 平成21年度申告状況（一括申告制を採用）

全県：82.0%（前年度比4.5%減）

（東部79.7% 中部82.0% 西部83.8% 鳥大85.0%）

なお、平成22年度制度改正に伴う暫定措置として、年間10単位以上の単位取得者481名に対し「日医生涯教育認定証」（認定期間：平成22年12月1日～平成25年11月30日）が交付されたので、地区医師会経由送付した。

2 生涯教育委員会

平成22年6月24日、県医師会館において開催した。平成21年度生涯教育事業と平成22年度春季医学会報告後、今年度の秋季医学会開催と今後の医学会のあり方、日医生涯教育制度、などについて協議、意見交換を行った。平成22年度（平成22年6月改正）より日医生涯教育制度は、「連続した3年間に取得した単位数とカリキュラムコード数（同一の取得コードは1コードとする）の合計数が60以上の者に、12月1日付けで発行日から3年間の有効期間を明記した日本医師会長名の『日医生涯教育認定証』を交付する」と変更になった。日医生涯教育制度の申請にあたっては、原則事前申請ではあるが、症例検討など事前にカリキュラムコードが付けにくい場合は、講習会後の事後申請を認めることとした。また、日医「指導医のための教育ワークショップ」を平成22年10月16・17日（土・日）に県医師会館において開催する。詳細は、会報第661号へ掲載した。

3 「日本医師会生涯教育講座」の開催について
本年度は次のとおり開催した。

- 22.6.6 鳥取県医師会春季医学会
- 7.3 鳥取県医師会定例総会（特別講演）
- 8.1 第1回鳥取県医師会産業医研修会
- 9.12 第15回学校医・学校保健研修会、新任学校医・新任養護教諭合同研修会
- 9.26 第2回鳥取県医師会産業医研

修会

10.16-17 第5回指導医のための教育ワークショップ

11.14 鳥取県医師会秋季医学会

11.28 第3回鳥取県医師会産業医研修会

23.2.11 第16回鳥取県医師会学校医・学校保健研修会

4 第5回日本医師会「指導医のための教育ワークショップ」（鳥取県医師会主催）開催について

平成16年4月より新医師臨床研修制度が発足したことにより、医学生・研修医を指導する会員が指導医としての教育能力を培うことを目的として次のとおり開催した。

- 日時 平成22年10月16日（土）9：00～
17日（日）16：30
- 場所 鳥取市戎町317番地「鳥取県医師会館」（TEL0857-27-5566）
- 宿泊先 鳥取市戎町471番地「鳥取シティホテル」（TEL0857-27-6211）
- 方法 1泊2日の合宿形式によるワークショップ
- 参加者 17名
2日間修了者17名に対し、日本医師会長・厚生労働省医政局長・鳥取県医師会長連名の修了証を発行
- 参加費 5,000円
- ワークショップスタッフ
ディレクター
渡辺 憲 鳥取県医師会常任理事（生涯教育担当）
村脇 義和 鳥取県医師会理事（ ）
- チーフタスクフォース
伴 信太郎 名古屋大学医学部附属病院総合診療部教授
- タスクフォース
向原 茂明 長崎県福祉保健部参事監
福井 道彦 大津市民病院救急診療科・集中治療部部长
内田 博 鳥取県立中央病院麻酔科部長
- その他
主催 鳥取県医師会、鳥取県（鳥取県委託事業）
- 日医生涯教育制度取得単位 10単位

カリキュラムコード 1、2、5、6、7、8、10、13、14、15

3. 鳥取大学及び医学諸団体との連絡強調

1 鳥取大学経営協議会・鳥取大学学長選考会議

- 1) 平成22年6月8日、鳥取大学において開催され、岡本会長が出席した。主な議事として、平成21年度決算及び平成23年度概算要求について協議、意見交換が行われた。鳥取大学の経営状況は順調とのことであった。また、決算剰余金会計予算と法人化に伴う承継剰余金会計予算について決算報告があった。
- 2) 平成22年6月25日、鳥取大学において開催され、岡本会長が出席した。主な議事として、平成21年度業務実績報告及び中期目標期間の評価が行われた。また、鳥取大学外部評価、医師救急医療等従事手当の新設、平成21年度資金運用実績、平成22年度学長経費の採択状況、大学の動きについて報告があった。
- 3) 平成22年10月26日、鳥取大学において開催され、岡本会長が出席した。主な議事として、平成22年度人事院勧告への対応、年棒制の導入、前中期目標期間繰越積立金会計の設置、救命救急センター及び高次感染症センター整備事業の計画変更等について協議、意見交換が行なわれた。なお、救命救急センターの拡充整備は新たに地域医療再生基金に加えられた予算である。
- 4) 平成22年12月10日、鳥取大学において開催され、岡本会長が出席した。主な議事として、職員の給与が国家公務員に準じることになったこと、平成23年度学内予算編成方針、平成23年度医学部医学科の入学定員増、学生寄宿舍（男子寮）の整備計画として個室になったこと、などについて報告、協議、意見交換が行われた。

協議会終了後、学長選考会議が開催され、これまでの検討状況の確認及び定期の職務評価の在り型など学長候補者選考手続きの

見直しが行なわれた。

- 5) 平成23年1月25日、鳥取大学において開催され、岡本会長が出席した。主な議題として、平成22年度学内補正予算案、平成23年4月の事務組織改編、年棒制の導入に伴う規則の制定及び一部改正、などについて報告、協議、意見交換が行なわれた。全国の大学病院の収入は前年度より8.7%増で、鳥大医学部附属病院も増収であり、運営状況は順調である。また、平成22年度学長経費（トップマネジメント経費）の採択について報告があった。
- 6) 平成23年3月25日、鳥取大学において開催され、岡本会長が出席した。最初に学長選考会議が行なわれ、学長選考関係規則の一部改正について協議が行なわれ、今後さらに学長選考基準等について検討することとなった。引き続き、経営協議会が行なわれ、平成23年度計画案、新しい運営組織、医員に係る処遇改善について協議が行なわれた。また、報告事項として、救命救急センターの一部完成及び全体計画の変更、脳とこころの医療センターのオープン、とっとりバイオフィロンティアの進捗状況、鳥取大学における東日本大震災の対応状況があった。

2 鳥取大学関連基幹病院協議会

- 1) 平成22年6月2日、鳥大医学部において開催され、渡辺常任理事が出席した。鳥大医学部医学科6年生の面談結果（89人）によると、初期臨床研修を希望する順で鳥大附属病院が18人、山陰地方の一般研修病院が22人であった。また、研修医の学会発表等に係る旅費支給取扱内規が改定された。なお、卒後初期・後期臨床研修合同説明会を平成22年7月2日（金）に鳥大医学部記念講堂において開催するとのことであった。
- 2) 平成22年11月9日、鳥大医学部附属病院において開催され、渡辺常任理事が出席した。平成22年度の鳥取大学関連基幹型病院の研修医マッチング状況は、募集定員69名に対し44名（63.8%）がマッチングした（うち34人が鳥大出身者、前年度より19人増）。また、鳥根県において鳥大出身者9人がマッチングしており、鳥大卒業生の山陰残

留率は46.2%であった。今年度の鳥大医学部附属病院卒後初期・後期臨床研修合同説明会が平成22年12月3日（金）に鳥大医学部記念講堂において開催される。

3 鳥取県立病院運営評議会

1) 平成22年11月11日、県庁において開催され、岡本会長より出席報告があった。

外部有識者が県立病院の運営状況などについて検証・評価を行なった。中央病院及び厚生病院とも効率的な経営で経常収支比率は当初目標を上回った。両病院から安定経営に向けた「改革プラン」の前年度実績などについて報告があり、厚生病院では慢性的な医師不足などから依然、赤字経営が続いているとのことであった。また、県病院局によると、本年度まで5年間の県立2病院への交付金繰り出し総額（109億9千万円）は、それ以前の5年間に比べて18.1億円圧縮しているということであった。

2) 平成23年2月3日、県庁において開催され、岡本会長、池田中部会長が出席した。議事として、県立中央病院と県立厚生病院の第2期病院事業交付金と改革プランについて協議、意見交換が行なわれた。両病院とも前年度より相当の増収見込みである。今後は、2次医療圏における病院合併を考慮していく必要がある。

4 鳥取県がん診療連携協議会

1) 平成22年7月29日、鳥大医学部附属病院において開催され、吉中常任理事が出席した。主な議事として地域連携クリティカルパス、緩和ケア研修会の開催、がんフォーラムの開催などについて協議、意見交換が

行われた。

2) 平成23年1月13日、鳥大医学部附属病院において、大学病院、県内4拠点病院、県福祉保健部などが参集して開催され、吉中常任理事が出席した。5つの癌（胃癌、肝臓癌、大腸癌、乳癌、肺癌）において県下で統一した地域連携パスを運用することについて協議、意見交換が行なわれた。

今後のスケジュールは、3月10日（木）に開催する健対協総合部会に報告し、4月より運用する予定である。また、協議会から、各拠点病院で行われている緩和ケア研修会は、がん医療に携わる医師を対象としているため、開業医の先生方も出来る限り研修会を受講していただきたいとの提案があった。

4. 鳥取医学雑誌の発行について

本年度（平成22年3・6・9・12月）発行した医学雑誌は第38巻1・2・3・4号で、掲載論文数は総数43編（内訳：興味ある症例5編、総説3編、原著9編、症例報告17編、報告1編、記録8編）であった。

本年度編集委員会は平成23年1月13日県医師会館において開催した。平成22年の鳥取医学雑誌発行状況、鳥取医学雑誌投稿規定及び興味ある症例の投稿要領一部改正、投稿論文数の減少対策、などについて報告、協議、意見交換を行なった。平成22年は前年に比べて2倍以上論文が集まった。平成23年度も鳥取県医師会長・鳥取医学雑誌編集委員長の連名で、各病院長及び鳥取大学各臨床教室教授宛に投稿依頼状を発送した。詳細は、会報第668号に掲載した。

地域社会活動対策

1. 健康診査管理指導事業

鳥取県健康対策協議会と共同で、がん対策を中心として事業を行った。平成22年度事業報告は、会報第673号に掲載予定である。

2. 鳥取県臨床検査精度管理事業

1 委員会

平成23年2月10日、県医師会館において県医療政策課にも参集していただき開催した。平成22年度実施報告では、平成22年9月5日

に8部門（生化学、血液、一般、免疫血清、生理、細胞学、病理学、輸血）で試料を配布し、参加施設は66施設であった。その各検査項目の結果について資料をもとに説明があった後、協議、意見交換を行なった。ほとんどの項目でCV4%以下となり非常に精度が上がっている。なお、問題点として、大きな施設が参加していないことがあげられ、来年度から日本臨床検査技師会が標準化対応の出来

ている施設を認定することとなり、認定を受けるためには各県でのサーベイに参加していることが条件となっているため、より参加を促していくとのことであった。

また、平成22年12月5日、西部医師会館において報告会を開催した。報告書は平成23年3月発刊を予定しており、今年度も別に医師向けに要点をまとめたものを県医師会報4月号に掲載予定である。詳細は、会報第669号へ掲載した。

2 報告会

平成22年12月5日、西部医師会館において県臨床検査技師会との共催で開催し、富長副会長が会長代理として挨拶を述べてきた。

9月に実施したサーベイの結果について、生理、臨床化学、一般、血液、輸血、細胞診、病理、免疫血清の各部門で2会場に分かれて実績報告及び質疑応答が行われた。施設間による測定結果のバラツキはなくなってきているが、脂質異常症がある場合はコレステロール値にかなりバラツキがあり、HbA1cはHPLC測定法が一番安定していた。

今後の予定は、委員会を平成23年2月10日(木)県医師会館において開催する。また、今年度も医師向けの報告書を会報第669号に掲載した。

3 特定健診・保健指導への対策

1 特定健診・特定保健指導について

1) 平成22年度特定健康診査・特定保健指導委託契約書調印

平成22年4月8日、県医師会館において、平成22年度特定健康診査・特定保健指導委託契約を鳥取県医師会岡本会長と鳥取県の代表保険者である「鳥取県市町村職員共済組合」との間で締結した。特定健診基本健診委託料は8,000円である。

4 地域保健活動の推進

1 喫煙健康被害予防対策の取り組みについて 本会ホームページに「禁煙指導医・講演医」名簿を掲載したほか、次の通り活動した。

1) 禁煙指導対策委員会

平成23年2月17日、県医師会館において開催した。各地区医師会から、講習会開催状況や世界禁煙デー関連イベント及び禁煙に対する取組等について報告があった後、今後の活動方針について協議、意見交換を

行なった。平成22年6月、鳥取県議会の議員提案により、「鳥取県がん対策推進条例」が制定されたが、県議会棟が禁煙となっていないため、早急に県医師会長名と禁煙指導対策委員長の連名で、「県議会棟の全面禁煙化の要望書」を提出することとした。

また、県教委を通じて高校生を対象に「作文」を募集し、優秀作品は県医師会報と県医HPに掲載し、ポスターは地区医師会が地教委を通じて小・中学生を対象に募集し、地区医師会で審査の上、各地区から1点ずつ、県医師会の「優秀賞」を授与する。その他、平成23年11月1日より県内のタクシーが全面禁煙化になった。

詳細は、会報第669号へ掲載した。

2) 「禁煙指導医・講演医」養成のための講習会

地区医師会との共催により、次のとおり開催した。

[東部地区]

日時 平成22年7月23日(金)

午後7時～9時

場所 東部医師会館 鳥取市富安1—62 TEL 0857-22-2782

演題及び講師

「禁煙治療の実際—初診時診療を中心として—」

安陪内科医院院長

安陪隆明先生

出席者 43名

日本禁煙学会認定 5単位

[中部地区]

日時 平成22年8月20日(金)

午後6時30分～8時

場所 中部医師会館 倉吉市旭田町18
TEL 0858-23-1321

演題及び講師

「女性の喫煙防止対策と2重洗脳について」

リセット禁煙研究会・予防医療研究所 トヨタ記念病院禁煙外来

(助)生涯学習開発財団認定コーチ
メディカルコーチ

磯村 毅先生

出席者 34名

[西部地区]

日 時 平成22年11月19日（金）
午後7時～9時
場 所 西部医師会館
米子市久米町136

演題及び講師

「女性と妊産婦に対する禁煙指導」
母と子の長田産科婦人科クリニック 長田佳子先生

出席者 22名

日本禁煙学会認定 5単位

3) 鳥取県内のタクシーの全面禁煙化施行について

職場環境における勤労者の健康被害防止及び乗客の健康被害防止の観点から、平成22年7月1日付、鳥取県ハイヤータクシー協会会長 船越克之氏へ県内のタクシー全面禁煙化の早期実施を依頼した結果、11月1日より全面禁煙化が実現した。

4) 医療機関等における禁煙状況等に関する実態調査について

鳥取県では平成22年6月に施行された「鳥取県がん対策推進条例」の中で受動喫煙防止対策の推進について規定されたことを受け、県内の医療機関の禁煙状況等を把握するため実態調査を行いたいとして、本会に協力依頼があった。

このため、平成23年1月14日付けにて全医療機関に対し標記実態調査を実施した。集計結果の概要は、病院では回答のあった32施設のうち、6施設が敷地内禁煙、20施設が建物内禁煙（全面禁煙化率81%）、診療所では回答のあった334施設のうち、155施設が敷地内禁煙、152施設が建物内禁煙（全面禁煙化率92%）であった。医療機関合計では回答のあった366施設のうち、161施設が敷地内禁煙、172施設が建物内禁煙（全面禁煙化率91%）であった。

集計結果は平成23年5月31日の世界禁煙デーに併せて県政記者室に資料提供されることとなっている。

5) 鳥取県議会議長への県議会棟禁煙化に関する要望書提出について

平成22年6月、鳥取県議会の議員提案により「鳥取県がん対策推進条例」が制定（平

成22年6月29日施行）されたが、県議会棟が禁煙となっていないため、平成23年3月3日付けにて鳥取県議会議長 小谷 茂氏、および同福祉生活病院常任委員会委員長 野田 修氏、同総務教育常任委員会委員長 稲田寿久氏へ県医師会長名と禁煙指導対策委員長の連名で、「県議会棟の全面禁煙化の要望書」を提出し、同時に鳥取県議会議員 藤井省三氏および同廣江 弐氏へ支援を依頼した。

2 鳥取県がん征圧大会

平成22年9月7日、米子コンベンションセンターにおいて、「声かけて地域ぐるみでがん検診」をテーマに鳥取県、鳥取県医師会、鳥取県保健事業団の主催で開催され、富長副会長が会長代理として挨拶を述べてきた。

表彰では、がん検診受診率向上に精励され、その功績が著しい市町村と他の市町村の模範となる優れた取組みを行った市町村に対して鳥取県知事表彰が倉吉市と江府町に贈呈された。また、対がん事業功労者として岸本幸廣先生（山陰労災病院）と濱本哲郎先生（博愛病院）、結核予防事業功労者として工藤浩史先生（鳥取赤十字病院）に鳥取県保健事業団理事長感謝状が贈られた。

引き続き、特別講演「増えている大腸がん～大腸がんで死なないために～」(米子医療センター臨床研究部長 木村 修先生)、がんに関するQ&Aなどが行われた。

3 がん対策推進協議会

平成22年8月19日、県医師会館において開催され、岡本会長より報告があった。主な議事として、鳥取県がん対策推進条例について報告があった後、市町村がん検診に対する知事表彰の被表彰者の選考と鳥取県がん対策推進計画に係る今後のがん対策の取組、専門部会の新設について協議、意見交換が行われた。全体目標は、がんによる死亡者の減少（75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少）とすべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上である。なお、今後、重点的に取り組むべき課題として、(1)放射線療法及び化学療法の推進及び専門医師等の育成、(2)治療の初期段階からの緩和ケアの実施、(3)がん予防と早期発見の推進、(4)がん登録の推進、を挙げている。

5. 糖尿病対策

1) 鳥取県糖尿病対策推進会議

平成22年6月24日、県医師会館において開催した。日本糖尿病対策推進会議総会と鳥取県における平成21年度活動状況について報告があった後、平成22年度の医師会と行政の取り組みについて協議、意見交換を行った。平成22年度も引き続き、「世界糖尿病デー」イベントとして、11月14日（日）の世界糖尿病デーに鳥取市「仁風閣」を17時30分～21時までブルーライトアップする予定である。なお、ライトアップの前に仁風閣近くの会場を利用して本会公開講座を行い、糖尿病に関する講演会を行うなど、本年度はライトアップと公開健康講座をひとつくりにした企画で進めてはどうかとの案も出された。詳細は、会報第661号へ掲載した。

また、例年どおりかかりつけ医を対象とした日常診療における糖尿病臨床講座を地区医師会に委託実施したほか、平成22年11月18日開催の公開健康講座を利用して、鳥取県立中央病院内科医長 檜崎 晃史先生に「日本が危ない―増え続ける糖尿病」と題する講演を頂いた。

2) 糖尿病診療一口メモ

21年4月より推進会議委員の分担執筆により、鳥取県医師会報への隔月掲載した。(22年12月まで)

3) 「世界糖尿病デー」in鳥取・仁風閣ブルーライトアップ（第2回）

「世界糖尿病デー実行委員会」より補助を受け、次の通りライトアップを行った。

期 日	平成22年11月14日
会 場	鳥取市東町2丁目121「仁風閣」
日 程	当日準備17：00～17：30 点灯式(式典)；17：30～18：00 ライトアップ時間；17：45～21：00 撤収；21：00～22：00
入場者	300名
主 催	鳥取県糖尿病対策推進会議・日本糖尿病学会中国・四国支部、 日本糖尿病協会鳥取県支部、鳥取県医師会、鳥取県

6. 情報ネットワークの推進

1 日本医師会医療情報システム協議会

平成23年2月12～13日、日医会館において、「ITは人間の心と身体を守るために如何に活用されているか?—そしてIT医療の更なる発展に夢と希望を—」をメインテーマに開催され、地区医師会の関係者とともに出席した。

12日は、シンポジウムⅠとして医師会事務局セッション「医師会事務局のIT化は本当に役立っているか—医師会事務局におけるIT化の悩みと夢—」とシンポジウムⅡ「ORCAの現在と未来」があり、13日は、シンポジウムⅢ「インターネットによる医療情報交換はどこまで可能か?」、特別講演「ヒューマン・コミュニケーションの原点」、シンポジウムⅣ「クラウドコンピューティングと医療情報」、シンポジウムⅤ「新たな情報通信技術戦略（医療分野）への夢と希望」と題して講演等が行なわれた。詳細は、会報第669号へ掲載した。

2 ITを使った地域医療連携システムワーキンググループ

地域医療再生基金を使って地域医療連携ネットワークシステムの構築を検討するワーキンググループが平成22年7月8日、白兎会館で開催された第1回から平成23年2月3日に開催された「事業実施説明会」まで関連する説明会を入れて合計5回開催された。鳥取県医師会としては、ITを活用した地域医療連携ネットワーク整備事業について、実際の医療機関の現場の意見を最大限反映させ事業を展開するように主張した。また、テレビ会議整備事業について、鳥取県医師会が主張した医療従事者の負担軽減を目的とした県医師会館と各地区医師会館の4拠点を結ぶ専用機型のシステムが導入されることとなった。

3 日医初級パソコンセミナー

平成22年9月4～5日、県医師会館において平成20年度に引き続いて開催した。両日合わせて21名の参加者で、両日とも3つのグループにそれぞれ講師が付き、テーブルごとに講義が進められ、受講者全員がパソコン技能修得に向けて熱心に取り組まれた。

7. 救急医療・防災対策

1 高度救命処置研修開催事業について（委託事業）

平成16年度より、医師、看護師、救急救命

士等を対象とした「高度救命処置研修開催事業」を鳥取県から委託された。目的はメディカルコントロール協議会の中心となるJPTEC、ACLSの概念の理解を得て、鳥取県下のインストラクター・プレインストラクター等の養成。

○JPTEC研修会

- 1) 平成22年6月20日(日):鳥取県東部広域行政管理組合消防局、参加者数25人
- 2) 平成22年9月19日(日):鳥取大学医学部保健学科棟、参加者数16人
- 3) 平成22年11月28日(日):鳥取県中部医師会館、参加者数13人

○ACLS研修会

- 1) 平成23年3月に2回予定していたが、東日本大震災により中止。
- 2) 小児救急地域医師研修事業(委託事業)
平成22年度は3地区において開催した。
東部:平成22年8月4日、受講者数33人
中部:平成23年2月7日、受講者数23人
西部:平成23年3月10日、受講者数22人
なお、平成23年度は県からの委託先が各地区医師会となり、実施の予定。

3 第1回鳥取県救急搬送高度化推進協議会

- 1) 平成22年4月28日、中部消防局において開催され、清水理事が出席し、副会長に選出された。本協議会は、消防法が一部改正されたことに伴い、従来開催されていた鳥取県メディカルコントロール協議会を廃止し、消防と医療の連携を推進するため、傷病者の搬送・受入れの実施基準についての協議、実施基準に基づく傷病者の搬送・受入れの実施に関する連絡調整、傷病者の搬送・受入れに関し必要な事項、などを協議するために設置された。

主な議事として、(1)鳥取県メディカルコントロール協議会の業務の引継ぎと所要の規定の改正(2)傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準の策定、などについて協議、意見交換が行なわれた。今年度はあと3回協議会を開催する予定である。

- 2) 平成23年1月24日、中部消防局において開催され、清水理事が出席した。議事として、(1)傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準(案)、(2)ドクターヘリの運航状況とドクターカーの概要、(3)救急救命士によ

る自己注射が可能なアドレナリン製剤の投与手順(案)、などについて協議、意見交換が行なわれた。なお、(1)傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準(案)については本日、県防災局消防チームに説明していただく。

4 都道府県医師会救急災害医療担当理事連絡協議会

平成22年7月1日、日医会館において開催され、清水理事が出席した。救急災害医療を巡る諸問題について報告があった後、(1)傷病者の搬送および受入れの実施に関する基準の策定(2)災害時医療への対策、などについて協議が行われた。(1)では、総務省消防庁より、改正消防法で策定が義務付けられた救急搬送についての実施基準などについて説明があった。策定したのは全国6都県にとどまっており、策定への協力が求められた。厚労省医政局指導課からは、実施基準策定に向けた関連事業などの紹介があり、東京都医師会からは策定した実施基準と策定への医師会とのかかわり方などの説明があった。(2)では、日医「救急災害医療対策委員会」報告書の概要説明があった後、報告書のなかで提言された「医師会JMAT」の創設に向けて活発な質疑応答が行われた。医師会JMATは、災害派遣医療チーム「DMAT」への支援や災害急性期医療、被災地医師会などへの協力、活動支援などを行うもので、会場からはDMATや日赤チームとの連携体制、情報伝達方法、指揮命令系統などに質問が寄せられた。詳細は、会報第661号に掲載した。

5 鳥取県防災会議

平成22年7月22日、県庁において開催され、事務局が出席した。行政関係者、電気・ガス・水道などのライフライン事業者、陸運・JR、自衛隊など多方面から約50名の出席で、鳥取県地域防災計画の平成22年度修正案について協議、意見交換され、原案通り承認された。また、事例発表として昨年8月の台風9号災害への対応と題して、兵庫県佐用町の担当者から豪雨災害、非難、災害復旧などについて報告があった。

6 全国メディカルコントロール協議会連絡会

- 1) 平成22年6月2日、東京都において開催され、明穂常任理事が出席した。第1部で

は、「搬送・受入れに関する実施基準の策定と救急相談事業について」をテーマに消防庁より改正消防法の施行状況について報告があった後、大阪、栃木、東京、奈良から実際の活動報告、その後メディカルコントロールに携わる来場者との意見交換があった。第2部では、「AEDの適正管理・使用について」、第3部では、「エピペン投与とMCとの関わり」をテーマに消防庁、厚労省から報告があった。詳細は、会報第661号に掲載した。

2) 平成23年2月4日、松山市において開催され、清水理事が出席した。当日は、特別講演「救急救命士の社会的役割～救急救命士法施行から20年を振り返って～」（全国メディカルコントロール協議会連絡会幹事・東京臨海病院病院長 山本保博先生）と演題発表(1)傷病者の搬送及び受入れに関する実施基準策定・協議会設置の現状と課題、(2)救急救命処置・活動、(3)新ガイドラインを踏まえた消防機関の対応、が6人の講師により行なわれた。

現時点で救急救命士は消防士かつ救急車の中でしか業務が行なえない。そのため、救急救命士の資格を持っているが、消防士の職についていない者が全国で約7,000人いることから、救急救命士の業務を拡大して欲しい旨、国に要望しているとのことであったが、法的には救急救命士は医師の指示において業務を行なうのが前提のため、いろいろと問題点がある。

7 鳥取県DMAT連絡協議会

1) 平成22年6月23日、県庁において開催され、清水理事が出席した。鳥取県DMATの運営要綱、協定書、運営計画、運用マニュアルについて説明があった。現在、県内のDMAT指定医療機関は県立中央病院、鳥取赤十字病院、県立厚生病院、鳥取大学医学部附属病院であり、平成22年8月5日(木)に「鳥取DMAT」の出動に関する協定の締結式が米子ワシントンホテルにおいて開催される。また、鳥取県の当番により、中国地方DMAT連絡協議会(実動訓練)を平成22年10月16・17日(土・日)に西部地区で予定している。

2) 平成22年6月23日、県庁において開催さ

れ、事務局より出席報告があった。主な議事として、中国地区DMAT連絡協議会訓練を鳥取県の担当で平成22年10月16～17日に米子空港やJR後藤総合車両所などで開催したこと、鳥取県DMAT養成研修を平成23年3月4～5日に東部地区で開催すること、鳥取DMAT運用マニュアル(案)、などについて報告、協議、意見交換が行なわれた。

なお、鳥取県医師会及び各地区医師会における救急医療体制については、講演会を開催するなど、今後検討していくこととした。

8. メンタルヘルス・自殺予防対策

1 心といのちを守る県民運動

平成22年10月19日、とりぎん文化会館において開催され、渡辺常任理事より出席報告があった。

主な議事として、自殺対策に向けた各団体等の取組や平成23年度予算要求に向けての意見交換が行なわれた。平成21年の鳥取県の自殺死亡率の暫定値(自殺者数/10月1日現在総人口)は27.9%で全国20位であった。また、「鳥取県自殺対策フォーラム—いのちを支える地域であるために—」が平成22年11月7日(日)とりぎん文化会館において開催される。

2 かかりつけ医と精神科医との連絡会議

1) 平成22年9月2日、県医師会館において開催した。

議事として、平成21年度事業として発行した「かかりつけ医と精神科医との連携マニュアル」「うつ病プライマリケアの手引き」について報告後、かかりつけ医心の健康対応力向上研修(うつ病対応力向上研修、思春期精神疾患対応力向上研修)、「かかりつけ医と精神科医との連携マニュアル」の活用の促進と連携強化の検証方法、などについて協議、意見交換を行った。なお、思春期精神疾患対応力向上研修については、鳥取県小児科医会が主催する今秋の学術集会、県医師会が来年2月に予定している学校医研修会において、共催の形で実施する方向で調整を行うこととなった。詳細は、会報第663号に掲載した。

2) 平成23年3月24日、県医師会館において開催した。

各地区におけるうつ病対応力向上研修会と思春期精神疾患対応力向上研修会の開催状況、「かかりつけ医と精神科医との連携マニュアル」事後検証アンケート結果、県の自殺対策について報告があった後、かかりつけ医と精神科医の今後の連携強化、うつ病診療医療機関のHP掲載などについて協議、意見交換を行った。アンケート結果によると、マニュアルの認知度は「見た」との回答が、かかりつけ医で13.7%、「見たと思う」16.5%、「見ていない」58.0%で、精神科、心療内科医では「見た」31.0%、「見たと思う」23.8%、「見ていない」38.1%であった。今年度、再度マニュアルを医療機関に送付することを検討する。また、冊子「かかりつけ医と精神科医との連携マニュアル」に掲載している「鳥取県内のうつ病診療医療機関一覧」は、マニュアルを含めて本会HP会員用ページに掲載しているが、県HPへのリンクについては、各医療機関へ掲載について諾否の意向を伺い、承認を得られた医療機関を掲載することとした。詳細は、会報第670号に掲載した。

9. 感染症対策

1 感染症対策について

1) 感染症危機管理対策委員会

- (1) 平成22年8月5日、県医師会館において県福祉保健部（健康政策課・医療指導課）と県医薬品卸業協会に参集いただき、実務者会議を開催した。主な議事として、平成21年度インフルエンザ総合対策及び22年度インフルエンザワクチン予防接種対策などについて報告、協議、意見交換を行った。詳細は、会報第663号に掲載した。
- (2) 平成22年12月2日、ホテルセントパレス倉吉において県福祉保健部医療指導課にも参集いただき、開催した。議事として、日医及び県医師会、県で開催された新型インフルエンザ関連会議の報告後、今冬のインフルエンザ総合対策などについて協議、意見交換を行った。詳細は、会報第667号に掲載した。
- (3) 平成23年3月19日、県医師会館において、子宮頸がんワクチンの公費助成が始

まったことから、需要が急増し、全国的に供給不足となっており、すでに1、2回目を接種した方への対応等について協議するため、県健康政策課、県医薬品卸業協会、グラクソ・スミスクライン(株)に参集いただき、第2回実務者会議を急遽開催した。詳細は、会報第670号に掲載した。

2) 鳥取県インフルエンザワクチン対策委員会及び鳥取県抗インフルエンザウイルス薬対策委員会

平成22年9月16日、県庁において開催され、笠木常任理事が出席した。主な議事として、「平成22年度新型インフルエンザワクチン接種事業」と「鳥取県におけるインフルエンザワクチンの供給体制(1)平成21年度各種調査結果と流通状況(2)インフルエンザワクチンの安定供給対策(3)今年度の鳥取県の具体的な対応（各種調査実施計画、予約状況調査及び在庫状況調査の内容及び方法）」について報告、協議、意見交換が行われた。今年度は、インフルエンザワクチン予約状況調査を卸売販売業者のみ実施し、医療機関の在庫状況調査は接種のピークを見て適宜実施することとした。詳細は、会報第664号に掲載した。

3) 日本医師会感染症危機管理対策協議会

平成22年8月5日、日医会館において開催され、岡田理事が出席した。議事として、厚労省健康局結核感染症課と日医から10月以降の新型インフルエンザワクチンの接種体制について説明があり、質疑応答が行われた。詳細は、会報第662号に掲載した。

4) 鳥取県感染症対策協議会

1) 平成22年5月25日、県庁において開催され、笠木常任理事が出席され、副会長に選出された。議事として、鳥取県における感染症対策（鳥取県感染症予防計画の改正等）、新型インフルエンザ対策及び麻しん対策、などについて報告、協議、意見交換が行われた。他には、予防接種について定期と任意の区別が分かりにくいと、HPに掲載するなどして対応していくとのことであった。また、任意接種ワクチンが高額であるために何らかの助成を検討すべきであるとの意見があった。なお、鳥取県

定点医療機関における報告数が地区によってかなり違うため、定点医療機関の見直しを鳥取県感染症予防計画の改正等において今後した方がよいと提案しておいた。

2) 平成22年11月10日、西部総合事務所において開催され、笠木常任理事より出席報告があった。

主な議事として、鳥取県における感染症対策（鳥取県感染症予防計画の改正、結核予防プランの策定）、新型インフルエンザ対策及び麻しん対策、予防接種などについて協議、意見交換が行われた。鳥取県結核対策プランは、鳥取県感染症対策協議会結核部会（新設）で意見を頂く予定になっている。また、予防接種では、「子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン接種費の助成」「日本脳炎予防接種の1期接種を逃した方への救済措置の開始」「予防接種法の改正」「定期予防接種の広域化」について説明があった。なお、新型インフルエンザ対応については、医薬品の備蓄と身分保障等の補償体制について要望しておいた。

5) 日本医師会予防接種講習会

平成23年2月27日、日医会館において開催され、石谷感染症危機管理対策委員が出席した。(1)予防接種週間・麻しん排除に向けて、(2)厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会の検討状況、(3)補正予算で公費接種が開始されているHPVワクチン、(4)補正予算で公費接種が開始されているヒブ・小児用肺炎球菌ワクチン、(5)予防接種のスケジュールのモデルの5つの講演が行われ、また、演者と出席者との間で活発な質疑応答が行われた。

また、日本医師会テレビ会議システムを利用し、鳥取県医師会館において映像配信を行った。参加者は総勢11名（医師9名、行政2名）であった。

6) 子ども予防接種週間の実施協力について
日本医師会では、昨年同様、2011年3月1日（火）から3月7日（月）までの7日間、子ども予防接種週間を実施することとした。各協力医療機関において、種々の予防接種の相談に応じるとともに、通常の診療時間に予防接種が受けにくい人たちに対して土

曜日、日曜日等に予防接種を行う。本会では地区医師会の協力を得て、週間中に予防接種の実施が協力可能な医療機関の取りまとめを行ったところ156医療機関の賛同を得て、日医へ報告したほか、県健康政策課を通して各市町村にて住民に対する子ども予防接種週間の実施について情報提供をお願いした。

7) 感染症だよりについて

日本医師会感染症危機管理対策室及び鳥取県等から感染症に関する通知があり次第、本会会報で会員に周知した。主な内容は、「日本脳炎の定期的予防接種について」、「平成22年度のインフルエンザワクチン接種事業等について（概要）」等である。

なお、各医療機関への即時性を求める情報の場合は、ファックスで全医療機関に周知した。

2) 鳥取県結核対策委員会

平成23年1月20日、県庁において開催され、笠木常任理事が出席した。結核対策に係る施策の方向性及び具体的取組、医療提供体制等について協議するために初めて開催され、部会長に杉本勇二先生（県立中央病院内科部長）が選出された。

鳥取県の結核対策プランの基本的な策定方針は、「鳥取県感染症予防計画」で発生予防、まん延防止、医療提供、人材育成等について基本的な施策を定め、基本的に国の「結核に関する特定感染症予防指針」に沿った内容となるが、鳥取県のプランでは罹患率等、いくつかの目標値を定める。今後の作業スケジュールは、2月にパブリックコメントを募集し、3月に知事決済を行なう予定である。

3) 鳥取県麻しん対策会議

1) 平成22年6月30日、県庁と西部総合事務所を回線をつないでテレビ会議が開催され、笠木常任理事が会長として出席した。

議事として、平成21年度の麻しん対策の取組について県担当課、市町村担当課、教育委員会、県医師会より報告があった。平成21年度の鳥取県麻しんワクチン接種率は、第1期95.6%（前年比+0.4）、第2期94.1%（前年比-1.2）、第3期90.6%（前年比-1.4）、第4期84.8%（前年比-1.6）であった。未接種の理由のほとんどは、

「予防接種に無関心」「病院へ行くのが面倒」「うっかり忘れてた」であり、ダイレクトメールなどによる未接種者への直接個別勧奨や学校現場での個別勧奨が効果あることが報告された。また、将来、親になる第3期・4期の中学生や高校生にとって、予防医学的に予防接種の意義や大切さを知ってもらうよい機会であり、学校での健康教育として予防医学教育・予防接種教育の徹底が大切である。「子どもたちの健康を守る」ために、行政機関・教育機関・医療機関の更なる連携が大切である。

平成22年度麻しん対策の推進について協議が行われた。麻しん(MR)ワクチン接種勧奨強化月間(平成22年8月、平成23年3月)キャンペーンを行い、自治体の催し物でのキャンペーン、「ちらし」やパンフレットの配布、個別のダイレクトメール及び電話連絡による勧奨、新聞、テレビ、CATVでの広報が必要であることを提案した。

2) 平成23年1月27日、県庁において開催され、笠木常任理事が会長として出席した。議事として、平成22年度麻しん対策の取り組みと麻しん予防接種勧奨強化月間、平成23年度麻しん対策の取り組みについて報告、協議、意見交換が行われた。

平成22年の鳥取県における麻しん発生数は3人(全国457人)、人口100万人対5.0人(全国3.6人)で、全国的には年々減少しており、1～4歳の報告が全体の1/3を占め、次いで30代が14%が多かった。また、平成20～22年の鳥取県麻しん予防接種率を経年比較(第2～4期)するとほぼ同様の推移であった。

平成22年度麻しん(MR)予防接種勧奨強化月間として、第2期(年長児)、第3期(中学校1年生)、第4期(高校3年生)のワクチン接種率が、麻しん排除の目安となる95%を達しておらず、更なる啓発が必要な状況であるため、平成22年8月、平成23年3月に行政、教育関係、医療機関がワクチン未接種者に対して接種勧奨を行なった。

また、麻しんが疑われる症例については、すべて保健所に届出して頂き、PCR検査を

実施すれば、麻しんの発生件数が減少すると思われるため、PCR検査の必要性を述べておいた。

10. 県及び関係諸団体への協力

1 鳥取県公衆衛生協会理事会

平成22年5月27日、県医師会館において開催され、岡本会長(協会長)、天野副会長、渡辺常任理事が出席した。議事として、平成21年度事業報告及び収支決算、平成22年度事業計画及び収支予算、第53回鳥取県公衆衛生学会の開催、第56回中国地区公衆衛生学会への派遣、役員改選、などについて報告、協議、意見交換が行われた。第53回鳥取県公衆衛生学会は、平成22年7月16日(金)倉吉交流プラザにおいて行われる。また、機関紙「とっとり公衆衛生」の原稿当番が本会となっているため、笠木常任理事に「感染症」をテーマに執筆していただくこととした。

2 鳥取県公衆衛生学会

平成22年7月16日、倉吉交流プラザにおいて開催され、渡辺常任理事が出席した。母子保健などの第1分科会29題、環境など第2分科会22題の研究発表(紙上を含む)があった。今回は、鳥取環境大学からの研究発表があった。役員会において8月25日、松江市において開催される中国地区公衆衛生学会での演題についての選考を行ない10題を決定した。また、継続研究助成(3万円)2題も決定した。

3 鳥取県保健事業団理事会

1) 平成22年5月25日、事業団本部において開催され、岡本会長が理事長として出席し、出席報告があった。

主な議事として、平成21年度事業報告及び収入支出決算案、役員の選任案、財務規程の一部変更案、などについて報告、協議、意見交換が行われ、新役員として岡田理事が選任された。保健事業団の経営状況は順調に推移しており、公益法人化を進めているところである。

2) 平成23年3月8日、事業団本部において開催され、岡本会長、岡田理事が出席した。議事として、平成22年度補正予算案、平成23年度事業計画案及び収支予算案、役員の選任、規程の一部改正、などについて報告、協議、意見交換が行われた。鳥取県保健事業団の運営状況は、黒字基調で推移してい

る。また、公益法人を目指していくということであった。

4 鳥取県臓器バンク理事会

1) 平成22年5月18日、県医師会館において開催され、岡本会長が出席した。

主な議事として平成21年度事業報告及び収支決算と収支差額の処分、平成22年度収支予算の変更、理事の選任について報告、協議、意見交換が行われた。平成21年度事業報告では、臓器移植の普及啓発、臓器提供意思表示カードの配布、鳥取県腎友会への助成、臓器移植コーディネーターの活動について報告があった。

2) 平成23年3月22日、県医師会館において開催され、岡本会長が出席した。主な議事として、役員の変更、平成22年度収支予算の変更、平成23年度事業計画及び収支予算などについて報告、協議、意見交換が行われた。今後は公益法人への移行を進めていく。また、(財)鳥取県臓器バンクと(財)恵仁会鳥大眼科銀行の統合について検討していくとのことであった。

5 鳥取県社会福祉審議会

1) 平成23年2月3日、とりぎん文化会館において開催され、吉田理事が出席した。審議事項として、社会福祉施設等施設整備費国庫補助金と次世代育成支援対策施設整備交付金について協議が行われた。また、報告事項として、肝臓機能障害に係る障害認定状況があった。肝臓機能障害による障がい認定が開始されてから申請件数中81.7%に身体障害者手帳が交付されており、鳥取県では34名(1級26人、2級5人、3級3人)に交付している。申請件数のうち、申請却下となった件数の割合は8.1%となっており、その理由はChild-Pugh分類の点数が10点に満たない、検査日から180日以内にアルコールを摂取していることである。その他、平成23年度療養病床転換に伴う介護保険施設等の整備予定および福祉のまちづくり条例の一部改正などについて報告があった。

11. 共同利用施設対策

1 全国医師会共同利用施設臨時総会

平成23年1月19日、日医会館において開催され、池田副会長より出席報告があった。議

事として、新公益法人制度改革について、函館市医師会及び富山市医師会からの説明、及び日医から医師会共同利用施設と新公益法人制度について解説があった後、医師会共同利用施設を巡る諸問題について協議が行われた。なお、来年度の全国医師会共同利用施設総会は9月3・4日(土・日)に山形市において開催される。また、平成24年度は鳥取県医師会の担当で中国四国医師会共同利用施設等連絡協議会を開催する。日程、場所、内容については今後検討していく。詳細は、会報第668号に掲載した。

12. 健康づくり文化の創造推進

鳥取県では、平成20年4月に平成13年度に策定した健康とっとり計画を見直し、「健康づくり文化創造プラン」と名称を改め、今年度から、運動、食事、心と体(禁煙等)の3分野を柱とした「健康づくり文化」の創造に取り組むこととなった。

1 「健康づくり文化創造・がん撲滅県民フォーラム」実行委員会

平成22年6月22日、県庁において開催され、天野副会長が出席した。本事業の目的は、がんに対する正しい知識の普及と検診受診啓発の取組が重要であることから、がんに負けない明るい鳥取県を作るため、大腸がん予防を主テーマとするイベントを実施することである。また、鳥取県では、「健康づくり文化創造」の推進を図っており、がんの一次予防の観点を含めた「食」「運動」をテーマに加えるなど総合的な健康イベントとすることで、健康づくりを文化として鳥取県に根付かせることを目指している。

内容は、(1)平成22年9月1日(水)～5日(日)まで、とりぎん文化会館において、フリースペースにおける展示(がん撲滅パネル展、生活習慣病予防に関する研究・啓発パネル展示等)を実施する(2)鳥取県、特定非営利活動法人ブレイブサークル運営委員会の主催で平成22年9月20日(月・祝)とりぎん文化会館においてフォーラムを実施する。

2 鳥取県健康づくり文化創造推進県民会議

1) 平成22年10月28日、白兔会館において開催され、魚谷常任理事が出席し、会長に選出された。

主な議事として、平成22年度の事業実施

経過及び結果報告と平成23年度予算要求について報告、協議、意見交換が行なわれた。平成22年度は、「健康づくり文化創造がんを知る県民フォーラム(9/20 月・祝日)」、「ウォーキング立県とっとり事業」、「食のみやこ鳥取食育フォーラム」などを実施した。また、平成23年度の予算要求に向けて、継続事業となるウォーキング立県とっとり事業の推進事業補助金と19のまちを歩こう事業、惣菜で健康食生活応援事業(健康的な食生活を実践するための一品料理アイデアを募集し、スーパーなどの惣菜として商品化・販売を行う。販売等に併せて食品売り場で啓発活動を実施し、県民が食品購入時に健康を意識して選択できるか環境を整える)について説明があった。

- 2) 平成23年3月17日、白兎会館において開催され、魚谷常任理事が出席した。来年度は県として、「とっとり健康づくり大使」を選定し、各種イベントに参加していただ

くことによって健康づくりのPR効果を高める。「ウォーキング立県とっとり事業」の普及のために、「ケータイで健康づくりウォーキング推進事業」を新規に立ち上げる。禁煙対策の一環として、飲食店等における応援施設(禁煙・分煙)を平成24年度末までに100施設認定するという数値目標を設定した。湯梨浜町、鳥取市、日本健康運動指導士会の代表からは、特定健診が始まってから、住民への啓発活動や事業がしにくくなり、活動が低下しているとの意見があった。また、湯梨浜町から、産業医による禁煙指導をして欲しいという意見が出たので、中部医師会へ要望するよう伝えた。

引き続き、健康を支える食文化専門会議が開催された。保育園や鳥取市の調査では、朝食をとる子供の割合は以前より増えて9割を超えており、食育の一定の効果ではないかと考えられる。

地 域 医 療 対 策

1. 医師確保対策・男女共同参画

- 1 第6回日本医師会男女共同参画フォーラム
平成22年7月24日、鹿児島市において、「男女共同参画のための意識改革」をメインテーマに開催され、岡田理事・福井裕子先生(鳥大医学部ワークライフバランス支援センター講師)が出席した。
基調講演「我が国における男女共同参画」(岡島敦子 内閣府男女共同参画局長)、シンポジウム「男女共同参画のための意識改革」などが行われ、最後に、「宣言」が採択された。詳細は、会報第663号に掲載した。
- 2 日本医師会女性医師等相談窓口事業推進連絡協議会
平成22年12月3日、日医会館において開催され、清水理事が出席した。当日は、福岡、徳島、山口、岡山、兵庫、福井、千葉、茨城、青森の9県医師会から女性医師等相談窓口事業を中心に、それぞれ独自の育児支援や就業支援の取り組みについて事例報告があった後、質疑応答と意見交換が行なわれた。詳細は、会報第667号に掲載した。

- 3 女子医学生、研修医等をサポートするための研修会

平成22年11月25日、米子全日空ホテルにおいて、日医、鳥大医学部との共催で開催し、講演(1)「妻常勤医師+子4人の日常」(岡田理事)、(2)「ワークライフバランスのために～自分でしておくこと、サポートが必要なこと～」(鳥大医学部附属病院ワークライフバランス支援センター副センター長 福井裕子先生)を行なった。参加者は、鳥大医学部の女子医学生、県内の研修医、現に医師の配偶者を持つ男性医師、将来のパートナーは医師を希望する男性医師、男女共同参画に携わる事務職員などで盛会であった。

2. 地域医療計画対策

- 1 鳥取県医療審議会

- 1) 平成22年8月3日、県庁において開催され、岡本会長より出席報告があった。議事として地域医療支援病院の名称使用承認の申請が出ている、米子医療センターについては承認することとした。報告事項として地域医療再生計画の取り組み状況、鳥取県

保健医療計画の実施状況、医療法人にかかる認可及び申請の状況などの報告があった。

- 2) 平成22年10月12日、県庁において開催され、岡本会長（審議会長）より出席報告があった。

主な議事として、地域医療再生基金を活用した事業計画について審議が行われ、医療連携体制を充実させるために東・中・西部の医療圏ごとに策定した「施設設備事業計画案」がそれぞれ原案通り承認された。各医療圏には、機器整備費として4億2,500万円ずつ配分されたが、西部医療圏の整備計画には「地域医療再生計画全体の中で、施設設備整備への予算が少ない。電子カルテやIT化事業の見直しにより、予算の増配分を要望する」とする付帯意見がつけられた。なお、本基金は鳥取県に50億円が交付され、救急医療や周産期、医師確保など地域の医療課題解決に向け、県が策定した地域医療再生計画に基づく事業を支援するものである。

また、報告事項として、(1)鳥取県周産期医療体制整備計画、(2)へき地保健医療計画、(3)医療法人にかかる認可及び申請の状況、があった。

- 3) 平成23年2月8日、鳥取県医師会館において開催され、岡本会長（審議会長）より出席報告があった。議事として、地域医療再生計画（第1期分）の取り組み状況及び新たな地域医療再生計画の概要について報告、協議、意見交換が行われた。今後は、各地区医師会より県がとりまとめた「新たな地域医療再生計画を策定するための具体的提案8項目」(1)重症心身障害児施設等における支援体制の強化、(2)後方病床等の支援体制の強化、(3)在宅医療の充実のための支援、(4)精神科救急（認知症含む）の充実のための支援、(5)ライフラインが寸断されるなど災害時にも強い医療機関の整備（自家発電、貯水槽等の新設・拡充）、(6)がん患者の在宅療養の充実のための支援、(7)看護師養成所の定員増に伴う支援、(8)へき地医療充実のための支援、について意見を伺い、3月1日開催の県地域医療対策協議会の結論を受けて、3月8日開催の本審議会において協議を行ない、パブリックコメン

トなどを経て5月末頃までに決定する予定である。

- 4) 平成23年3月8日、県庁において開催され、岡本会長、井庭理事、宮崎博実先生が出席した。

議事として、新たな地域医療再生計画について協議が行われ、継続して審議することとした。また、平成20年度に策定された「鳥取県医療費適正化計画」の中間評価報告があった。このうち、「特定健康診査31.80%（全国38.32%）」「特定保健指導7.32%（全国7.74%）」の平成20年度県実績は、ともに全国平均を下回った。特に市町村国保の受診率が25.42%（全国30.84%）と低く、県は未受診者に対する受診勧奨の工夫や受診しやすい体制づくり、各保険者と健診機関等との連携を進めることが必要とした。

2 鳥取県地域医療対策協議会

- 1) 平成22年10月5日、県庁において開催され、岡本会長より出席報告があった。地域医療資源将来予測事業、へき地保健医療計画、地域医療再生基金事業についての説明および意見交換が行われた。地域医療資源将来予測事業は鳥取県の近未来の医療状況を専門家に依頼し将来像を把握する事業である。地域医療再生基金は、医師、看護師などの医療従事者の負担軽減、マンパワー不足を補うために考えていくべき事業で、国から多くの補助金を有効活用するべく様々な事業が計画されている。電子カルテ連携システムなどIT分野については、ワーキンググループが設置され検討されているが、本会としては地域医療再生基金の目的にあった事業の実施を望むべく県に提言していくこととした。

- 2) 平成22年11月18日、鳥取県医師会館において開催され、岡本会長より出席報告があった。主な議事として、平成22年度補正予算による新たな地域医療再生基金について協議、意見交換が行われた。地域医療再生基金は、医師、看護師などの医療従事者の負担軽減、マンパワー不足を補うために考えていくべき事業で、国から多くの補助金を有効活用するべく様々な事業が計画されている。この度、鳥取県では15億円の

追加があったことから、病院等より配分希望のあった項目について協議が行なわれた。今後はさらに議論を進めていくため今年度中に協議会を開催する。

- 3) 平成23年2月1日、県庁において開催され、岡本会長が各地区医師会長とともに出席し、協議会長に選出された。

主な議事として、地域医療再生計画（第1期分）の取り組み状況、新たな地域医療再生計画の概要、地域医療資源将来予測事業、などについて協議、意見交換が行なわれた。

医師不足への対応として、臨時医師特別確保対策等奨学金等貸与事業を行ない、鳥大医学部、岡大医学部、山口大学医学部臨時養成枠入学者等に対し、修学に必要な資金を貸し付けるが、産婦人科及び外科を選択した者には義務年限を短縮するとか、一括で奨学金を返金するなど、システム作りを考える必要があると思われる。

Web型電子カルテシステム等導入事業及びテレビ会議システム構築事業についてはITを活用した地域医療連携システムワーキンググループ等を開催し、必要性、運用体制等を検討し、テレビ会議システムは医療従事者の負担軽減のため、県医師会を運営主体とし東部・中部・西部の各拠点に医療従事者が活用できるシステム整備に対し補助が出ることとなった。また、医療連携のためのIT化促進への支援については、今後需要調査を行ない事業化について検討していく。

- 4) 平成23年3月1日、県庁において開催され、岡本会長が各地区医師会長とともに出席した。主な議事として、新たな地域医療再生計画（15億円）、地域医療資源将来予測事業などについて協議、意見交換が行なわれた。新たな地域医療再生計画については、地区医師会や病院から、いろいろと事業計画案が提出されている。厚労省へ提出する期限が5月15日までであり、今後は3月8日開催の県医療審議会での協議を経て、4月開催の本会においてさらに検討を行ない、パブリックコメントなどを経て決定する予定である。

3 東部の医療のあり方についての意見交換会

平成22年11月2日（火）県庁において開催され、岡本会長より出席報告があった。東部医療圏の医療提供体制と今後の協議の進め方について協議が行なわれた。東部医療圏の現状の課題として、急性期医療は市内4病院が提供しているが経営主体が異なること、診療機能や医療機器が重複しており機能分担がはっきりしていないこと、高度医療・専門医療の提供が不足していること（4病院が同じような医療を提供している）、大学の医師派遣能力の低下と医療の専門化、細分化により医師の確保が難しいこと、県立中央病院と赤十字病院の老朽化、などが挙げられる。

将来（約10年後）は、医師の集約化による医療の高度化、勤務環境の改善、施設の近代化、医療機器整備の効率化、高度化を目指していく。また、喫緊の課題である医師不足等に対応するための当面の取組（診療科の連携等）も検討が必要である。

3. 地域医療連携推進対策

1 鳥取県がん対策推進県民会議

- 1) 平成22年10月14日、県庁において開催され、岡本会長より出席報告があった。鳥取県がん対策推進県民会議の設置と鳥取県のがん対策の現状について報告があった後、がん検診受診の促進など来年度に向けた対策について協議が行なわれた。なお、本会議は6月のがん対策推進条例施行を契機に設置に動き、県民の意見を幅広く集約するため、前身の「鳥取県がん対策推進協議会」を構成していた医療、行政担当者に加えて教育関係や事業所の代表者も参加された。

協議では、患者団体や医療機関、がん検診を推進する市町村の担当者など課題を報告があり、市町村担当者からは、クーポン券発行で受診率は微増しているが、県が目標と掲げる受診率50%の達成は困難で、受診率向上には独創的な取り組みが必要であるとのことであった。また、受動喫煙防止対策の推進及び禁煙に取り組もうとされる方への禁煙支援、子宮頸がん予防ワクチン等によるがん予防対策の推進についても協議が行なわれた。

- 2) 平成22年12月21日、とりぎん文化会館において開催され、岡本会長より報告があった。議事として、鳥取県がん対策推進県民

会議の一部改正について報告があった後、来年度に向けた新たながん対策及び鳥取県の受動喫煙防止の推進について協議、意見交換が行なわれた。禁煙対策については受動喫煙防止を含めて喫緊の問題であり、今後自治体及び民間において、もっといろいろな場面で啓発していくことが大切であると思われる。

- 3) 平成23年3月15日、とりぎん文化会館において開催され、岡本会長より報告があった。平成23年度に実施するがん対策に係る事業予算について報告があった後、平成19年度に県民のがん対策の取組目標などを行動計画としてまとめた「鳥取県がん対策推進計画アクションプラン」の取組内容や進捗状況などについて協議、意見交換が行なわれた。県は10年以内に(1)がんによる死亡者の減少(がん死亡率20%減)、(2)すべてのがん患者と家族の苦痛の軽減、療養生活の質の維持向上、の実現を目指し、現状に対応して年度ごとに行動計画を見直している。子宮頸がん予防ワクチン基金では、子宮頸がん予防ワクチン接種を促進するため、市町村が実施するワクチン接種事業に助成し、HPV感染を防いで子宮頸がんを予防する。HTLV-1抗体検査事業では、HTLV-1の感染は、ATLやHAMといった重篤な疾病の可能性があるため、保健所において感染を判定するための無料検査を実施する。

4. 有床診療所対策

1 鳥取県有床診療所協議会設立

平成22年5月9日、ホテルニューオータニ鳥取において開催した。来賓として、原中勝征 日医会長と森 康 全国有床診療所連絡協議会中国四国ブロック長をお迎えして祝辞をいただいた後、議事として、(1)設立までの経過報告(2)鳥取県有床診療所協議会規約の制定(3)役員の承認、を行い、何れも原案どおり承認された。

引き続き、特別講演「平成22年度診療報酬改定と有床診療所の今後の役割」(日医常任理事・全国有床診療所連絡協議会会長 葉梨之紀先生)を行なった。中国四国各県及び県内から多数の参加者あり盛会であった。詳細は、会報第660号に掲載した。

2 全国有床診療所連絡協議会中国四国ブロック役員会・総会

- 1) 平成22年7月31日と8月1日、岡山市において開催され、米川理事、池田光之先生(鳥取県有床診療所協議会長)が出席した。第1日目は常任理事会、役員会、総会、講演2題(1)「有床診療所の再認識」(原中日医会長)(2)「社会保障ニューディール政策」(桜井 充参議院議員)が行われ、2日目は講演2題(1)「これからの医療」(西島英利 前参議院議員)(2)「平成22年度診療報酬改定—有床診療所の評価を中心に—」(佐々木 厚労省保険局医療課課長補佐)、シンポジウム「地域医療を守る有床診療所に未来を!—安定経営が安心医療を提供—」、特別講演「日本の医療史—特に入院施設の歴史—」(酒井シヅ 日本医史学会理事長)が行われた。

詳細は、会報第663号に掲載した。

- 2) 平成23年1月30日、岡山市において開催され、魚谷常任理事、米川理事、池田光之先生(鳥取県有床診療所協議会長)、森本益雄先生(中部医師会)が出席した。

議事として、役員改選(池田先生が理事に就任)、平成21年度事業報告及び収支決算報告、平成23年度事業計画などについて報告、協議が行なわれた。引き続き、各県の有床診療所加算等に関するアンケート調査結果と活動報告、特別講演2題(1)「有床診療所の今後の役割」(葉梨之紀 日医常任理事)、(2)「今後の医療と有床診療所の役割」(梅村 聡 民主党参議院議員、厚生労働委員会所属)が行なわれた。

3 鳥根県有床診療所協議会設立総会

平成22年11月28日、鳥根県医師会館において開催され、魚谷常任理事が出席した。主な議事として、(1)設立までの経過報告、(2)鳥根県有床診療所協議会会則制定、(3)役員の選出、などが行なわれ、鳥根県は中国四国で春の鳥取県に次いで最後となる有床診療所協議会を設立した。30有床診療所+100床以下の小規模病院3の計33施設が参加している。引き続き、特別講演「有床診療所の今後の役割」(日医常任理事・全国有床診療所連絡協議会長 葉梨之紀先生)が行なわれた。

社会 保 障 医 療 対 策

1. 医療保険制度対策

1 鳥取県ジェネリック医薬品安心使用促進協議会

1) 平成22年7月29日、県薬剤師会館において開催され、吉田理事より出席報告があった。議事として、ジェネリック医薬品安心使用促進協議会設置の背景と後発医薬品に関する使用実態調査の結果（鳥取県）について報告があった後、今後のスケジュール、ジェネリック医薬品に関する情報交換、ジェネリック医薬品使用状況等の現状把握について協議、意見交換が行われた。実態調査結果の回答率は66%、院外に出される処方箋で後発医薬品不可は約70%であった。各医療機関が何を重点に使用しているかについては、品質、生物学的同等性、臨床効果、副作用、患者さんの負担軽減などであった。今後はこの結果を踏まえ、後発医薬品をどのように進めていくのか、8月と10月に会議を開催して答申する予定である。

なお、本会においても平成20年11月に県内全医療機関を対象にアンケート調査を実施しており、調査結果の詳細については、会報644号（平成21年2月号）に掲載している。

2) 平成22年8月26日、県庁において開催され、吉田理事より出席報告があった。課題として、(1)効能・効果・品質への不安(2)トラブルが生じた時の責任所在(3)適正使用の為の情報不足(4)患者への説明の大変さ(5)変更後の医師への連絡体制(6)薬局の後発医薬品への変更率が低い(7)安定供給・在庫管理、などがあげられた。

今後は、医療側・薬剤師・卸業の連絡協議会を作り、後発品の使用情報を共有し地域で品目を絞り使いやすくしていく必要がある。次回は10月28日（木）に開催予定。なお、ジェネリック医薬品については以前行ったアンケート結果によると、先発医薬品と変わらず安全で効果が保証されれば使用し、医療費削減と患者負担軽減に協力したいというのが会員の総意であると思われるため、本会として医療保険委員会内で協議を行い、検討していく予定である。

3) 平成22年10月27日、県庁において開催され、吉田理事より出席報告があった。これまでの会議での検討結果を踏まえた具体的な普及啓発・情報提供の実施について協議、意見交換が行なわれた。

医療機関・薬局及び関係機関に対する施策として、県から県内45病院の後発医薬品採用状況を調査して後発医薬品採用品目リストを作成し関係機関へ配布することと、医療従事者の研修会を開催することが提案された。しかし、医師の実際の使用感、患者の感想等を集め共有できるシステム作りを先行させることが大切であり、さらに県民、患者向けの普及啓発の充実をはかることが必要である。

2 鳥取県薬事情報センター運営委員会

平成22年9月9日、米子ワシントンホテルにおいて開催され、富長副会長の代理として笠木常任理事が出席した。

主な議事として、平成21年度の事業実績及び収支決算について報告があった後、平成22年度の事業計画及び収支予算について協議、意見交換が行われた。

2. 介護保険制度対策

1 介護保険対策委員会

平成22年8月5日、県医師会館において県長寿社会課、国保連合会にも参集いただき開催した。議事として、中国四国医師会連合介護保険分科会出席報告（5/29 高知市）と県長寿社会課及び国保連合会から介護保険の現状について説明があった後、要介護認定の遅延解消対策について協議、意見交換を行った。介護保険では法律上、要介護の認定は30日以内に行うことが規定されており、各圏域とも遅延の傾向にあり、その遅延状況説明があった。委員会のまとめとして、市町村担当者が医師への催促を遠慮していることなどから、(1)医師は主治医意見書を2週間以内に返送すること、(2)医師会はこのことを確認し周知すること、(3)行政側は遠慮なく催促してよいこととする、の3点とした。詳細は、会報第663号に掲載した。

2 第4期介護保険事業支援計画及び老人福祉計画策定・推進委員会

平成23年3月1日、ホテルセントパレス倉

吉において開催され、渡辺常任理事が出席した。第4期としては最後の委員会であった。

平成23年度は、介護保険制度の見直しとして、高齢者が地域で自立した生活を営めるよう医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取組を進めていく。地域包括ケアを実現するためには、5視点(1)医療との連携強化、(2)介護サービスの充実強化、(3)予防の推進、(4)見守り、配食、買い物など多様な生活支援サービスの確保や権利擁護、(5)高齢期になっても住み続けることの高齢者住まいの整備、での取組が包括的、継続的に行なわれることが必須である。

「介護サービス情報の公表制度の見直し」では、経過的措置として平成23年度は手数料廃止までの経過期間として徴収対象者を新規登録事業者のみとし、既存事業者は22年度の情報をそのまま公表して手数料は徴収しない。平成24年度から手数料を廃止し、1年に1回の調査の義務付けを廃止し、都道府県が必要であると認める場合に調査を行なう予定である。

平成22年に介護職員処遇改善交付金を申請した全国事業所(86.7%)における介護職員の平均給与額は平成21年と比較すると約15,000円増加しており、対象外である介護職員以外の職種についても約8,500円から約12,200円増加していた。鳥取県では平成21年度で申請率71%、職員一人当たりの賃金改善月額額は14,036円増加していた。

3. 社会保障医療対策

1 第54回社会保険指導者講習会

平成22年8月25・26日の2日間、日本医師会館において、「在宅医療一午後から地域へ」をテーマに日医と厚労省の共催で開催され、富長副会長、東部：杉山長毅先生、中部：森本益雄先生、西部：飛田義信先生が出席した。

2日間に亘って8題の講演があり、総合討論(在宅医療に取り組んでいる事例)、厚労省による最近の医療情勢についての解説の後、最後に日医より総括がなされた。今後は、各地区医師会で伝達講習を行う。詳細は、会報第664号に掲載した。

2 医療保険委員会

平成22年10月28日、県医師会館において開

催し、富長副会長より開催報告があった。今回は、従前の社会保障部委員会を「医療保険委員会」と改組して第1回目の会議である。

協議事項として、事前に県下の医療機関を対象に行なった支払基金・国保連合会への審査に対する要望事項の25件のアンケートについて、基金、国保及び県医師会より回答・意見が述べられ、協議、意見交換が行なわれた。詳細については、別途会報に掲載するので、ご覧いただきたい。

また、平成22年度診療報酬改定に関するアンケート調査結果と中国四国厚生局への要望事項などについて報告があった。中国四国厚生局への要望事項については、本日の常任理事会に中国四国厚生局の田中課長より、説明がなされた。詳細は、会報第665号に掲載した。

4. 県及び関係団体との連絡強調

1 中国地方社会保険医療協議会総会

平成22年10月22日、広島市において開催され、岡本会長が出席した。主な議事として、平成22年10月1日の一斉改選において新任及び再任された委員と臨時委員の所属部会が承認された。また、中国四国厚生局長からの審議依頼に基づき、保険薬剤師の登録取消後に登録申請のあった鳥根県の薬剤師に関して採決が行なわれ、保険薬剤師として登録すべきでないものと全会一致で議決された。

次回は来年4月に開催予定とし、保険医療機関及び保険薬局との指定取消等に係る審議案件が発生した場合には臨時に開催することとした。

なお、本会より中国四国厚生局長宛に提出した要望書については、当日時間の関係で十分な協議ができなかったため、後日改めて担当課長が説明のために来県することとなった。

2 鳥取県社会福祉審議会

平成22年11月15日、とりぎん文化会館において開催され、吉田理事より出席報告があった。

主な議事として、圏域型特別養護老人ホーム整備事業と社会福祉施設等施設整備費国庫補助金について審議が行なわれた。3事業所から整備申請が出されていたが、鳥取市は特別養護老人ホーム70床の分配について、1社会福祉法人を単独に推薦することとなった。なお、この選定にあたっては、利用者の地理

的利便性や設備やスタッフの配置計画などの吟味が十分といえず、多少疑問の残る選考方

法と感じた。

医 政 対 策

1. 日医との連携

1 日医代議員会

1) 平成22年4月1・2日、日医会館において開催され、岡本会長、池田中部会長（日医代議員）、明穂常任理事が出席した。

第1日目は、任期満了に伴う役員選挙等が行われ、会長には、原中勝征氏（茨城県医師会長）が投票総数356票のうち131票を獲得して初当選を果たした（森氏118票、唐澤氏107票）。また、中国四国ブロックからは、常任理事に高杉敬久氏（広島県）、理事に森下立昭 香川県医師会長、井戸俊夫 岡山県医師会長、裁定委員に小谷秀成 元岡山県医師会長が当選した。

第2日目は、原中会長の所信表明と会務報告の後、議事として、「平成21年度日医会費減免申請」「平成22年度日医事業計画」「平成22年度日医予算」の各議案について審議が行われ、議案どおり可決された。また、代表質問8件、個人質問11件について活発な質疑応答が行われた。

また、代議員会終了後、定例総会が行われ、「庶務及び会計の概況に関する事項」「事業の概況に関する事項」「代議員会において議決した主要な決議に関する事項」について報告があった。内容の詳細については、日医ニュースに掲載されるので参照していただきたい。

2) 平成22年10月24日、日医会館において開催され、岡本会長、池田副会長、明穂常任理事が出席した。代議員総数は357人中356人の出席であった。

原中日医会長の挨拶、続いて会務報告があった後、議事に入り、第1号議案「平成21年日医一般会計決算」、第2号議案「平成21年度医賠償特約保険事業特別会計決算」、第3号議案「平成21年度治験促進センター事業特別会計決算」、第4号議案「平成21年度女性医師支援センター事業特別会計決算」が上程された。また、前日に行な

われた財務委員会において、これらの4議案が原案どおり承認されたことについて委員長から報告があり、本会議で可決決定された。

引き続き、代表質問7件、個人質問15件、及び会長挨拶・会務報告に対する3件の質問が寄せられ、それぞれ担当役員から答弁があった。内容の詳細については、日医ニュースに掲載されるので、ご覧いただきたい。

2 都道府県医師会長協議会

第1回：平成22年7月20日、日医会館において開催され、岡本会長が出席した。各県から提出された12の議題について説明があり、意見交換が行われた。内容の詳細については、日医ニュースに掲載されるので、ご覧いただきたい。

第2回：平成23年1月18日、日医会館において開催され、岡本会長より出席報告があった。各県医師会並びに日医から提出された12議題について、日医執行部からそれぞれ回答、説明があり、討論がなされた。なお、鳥取県からは、「指導大綱の見直し」について質問を提出し、日医の見解を伺った。内容の詳細については、後日日医ニュースに掲載されるのでご覧いただきたい。

3 医療政策シンポジウム

平成23年2月2日、日医会館において、「国民皆保険50周年～その未来に向けて～」をテーマに開催され、富長副会長、渡辺・明穂両常任理事、清水理事が出席した。社会保障制度の存続には負担の増加が必要との意見で一致し、負担方法としては税財源に頼るのではなく、社会保険料を中心にするべきとの意見が大勢を占めた。

当日は、特別講演「韓国医療の光と影」（文太俊 韓国医師会名誉会長）が行われ、韓国では1989年に国民皆保険制度が成立した背景と成果について、日本語による講演があった。引き続き、4講演(1)「医療への市場原理

導入論の30年—民間活力導入論から医療産業化論へ」(二木立 日本福祉大学教授、副学長)、(2)「皆保険50年の軌跡と我々が次世代に残した未来—再分配政策の政治経済学の視点から」(権丈善一 慶応義塾大学教授)、(3)「医療危機を乗り越えるために—改革はどうあるべきか」(田中秀一 読売新聞東京本社編集局医療情報部長)、(4)「日本の医療費水準と財源を考える」(遠藤久夫 学習院大学教授・中央社会保険医療協議会長)とパネルディスカッション「50周年を迎えた国民皆保険」が行われた。詳細は、会報第668号に掲載した。

4 日医 女性医師支援担当理事連絡協議会

平成22年5月26日、日医会館において開催され、清水理事が出席した。日医会館において、平成22年度政府予算で女性医師等就労支援事業の中の就労環境改善事業として多様な保育サービスについて国1/2、都道府県1/2以内での補助が可能になったことから、本予算の有効活用と早期の普及を目的として開催された。

当日は、女性医師支援センター長である羽生田 俊日医副会長の挨拶に続き、厚労省医政局医事課長から女性医師等就労支援事業就労環境改善事業の予算等の説明があり、その後、保坂シゲリ 日医常任理事より日医女性医師支援センター事業の今年度の予定について説明があった。詳細は、会報第660号に掲載した。

5 国際保健に関するセミナー

平成22年8月30日、日医会館において開催され、渡辺常任理事が出席した。武見フェロー帰国報告として、ハーバード大学公衆衛生大学院に設けられた「武見国際保健プログラム」に参加して帰国した崎坂香屋子 東京大学大学院医学系研究科助教(演題名:日本はなぜ1日90人の自殺を防げないのか。2008—2010年全国データと自殺遺族のバーバル・オートプシー調査からの知見)と依田健志 長崎大学医学部熱帯医学研究所助教(演題名:日本における新型インフルエンザ初期流行の疫学について)が研究成果を披露したほか、同プログラムの担当教授を務めるマイケル・ライシュ氏(ハーバード大学公衆衛生大学院国際保健・人口学教授)が「オバマ大

統領の医療改革—日本への教訓」と題して日本語による特別講演が行われた。

2. 中国四国医師会連合との連携

1 中四国医師会連合出席諸会議

22. 4. 1 中国四国医師会連合連絡会[日医]

5. 29 中国四国医師会連合常任委員会
[高知市・高知新阪急ホテル]

5. 29 中国四国医師会連合分科会 [高知市・高知新阪急ホテル]

5. 30 中国四国医師会連合総会 [高知市・高知新阪急ホテル]

9. 3 中国四国医師会事務局長会議 [高知市・ホテル日航高知旭ロイヤル]

10. 24 中国四国医師会連合連絡会[日医]

11. 6 中国四国医師会連合常任委員会
[高知市・高知新阪急ホテル]

11. 6 中国四国医師会連合各種研究会
[高知市・高知新阪急ホテル]

2 平成22年度中国四国医師会連合総会—高知県医師会担当

[5月29日(土)]

(1) 常任委員会

(2) 分科会

〈第1分科会〉:医療保険(労災・自賠責を含む)

〈第2分科会〉:介護保険(福祉を含む)

〈第3分科会〉:地域医療(地域保健・勤務医問題を含む)

[5月30日(日)]

総会(分科会報告・議事)

特別講演Ⅰ「政権交代と医療政策」

日本医師会会長 原中勝征

特別講演Ⅱ「医療の課題」

参議院議員 西島英利

特別講演Ⅲ「岩崎弥太郎の生涯と龍馬」

土佐史談会副会長 谷 是

詳細は、会報第660号へ掲載した。

3 平成22年度中国四国医師会連合各種研究会—高知県医師会担当

[11月6日(土)]

(1) 常任委員会

(2) 各種研究会

○医療保険・介護保険研究会

○地域医療・その他研究会

○医事紛争・医療安全研究会

詳細は、会報第666号へ掲載した。

3. 県及び関係団体との連携

1 第61回医療懇話会

平成23年1月6日、県医師会館において開催し、役員全員が出席した。県医師会からは、「県内の禁煙対策」「公立病院への分娩集中化（分娩費の件）」「感染症発生動向調査における定点医療機関の変更」「子宮頸がん等ワクチン接種費の助成等」など4項目について県に質問形式で議題を提出し、その議題に対する県の回答及び協議、意見交換を行なった。詳細は、会報第668号に掲載した。

2 県民のための健康情報サービス検討委員会

平成22年7月6日、県立図書館において開催され、岡田理事が出席した。主な議事として、健康情報サービス講演会の開催、今年度の重点取り組み「メンタルヘルス」（メンタルヘルス講座、県立図書館と各機関との連携、選書・配架）などについて協議、意見交換が行われた。平成22年度の健康情報サービス講演会は、第1回目：8月7日（土）県立図書館、第2回目：8月29日（日）ゆうゆう健康館けたか、において開催される。

3 鳥取県医師会・鳥取県教育委員会連絡協議会

平成22年10月14日、白兎会館において開催され、岡本会長以下関係役員が出席し、双方から提出された12議題について協議、意見交換を行なった。本会からは、(1)HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）、(2)第3期及び第4期のMR接種率向上、(3)学校保健委員会の活動内容の実態、(4)エピペンの使用に対する対策、(5)子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業、(6)第16回学校医・学校保健研修会・鳥取県学校保健研修会の開催日とテーマ、を提出した。詳細は、会報第665号に掲載した。

4 鳥取県性教育推進委員会

平成23年2月10日、県庁において開催され、井庭理事が出席した。スポーツ健康教育課より、性教育に関する事業の概要と各関係機関における性教育に関する取組状況について報

告があった。最近、性の悩みや不安をもつ児童生徒が増加する傾向にあり、また性感染症は20代以降で急増することからも、中学・高校生の性教育の必要が望まれる。自分を大切にされていないと感じる生徒は性行動をはじめとする危険な行動をとりやすい。これらの現状と課題に対し、性教育推進委員会、性教育指導実践研究会、性教育・エイズ教育研修会を開催し、学校への専門家派遣を実施した。

性教育の推進に関わる学校と関係機関の協力体制について協議した。性教育を推進していくには「自分を大切にできなければ人を大切にすることはできない、今の自分を大切にできなければ、今や将来の大切な人を守る事が出来ない」という基本的な方針が学校現場・保護者・地域に理解される事が重要であり、この方針達成に向けて取り組んでいく。

なお、平成23年度より、本委員会は「心や性の健康問題対策協議会」と改名し、学校関係者、医師、臨床心理士、保護者、その他の行政関係者等で本県における児童生徒の健康問題についての課題解決に向けて具体的な協議をすることとなった。

5 鳥取県学校結核対策委員会

平成23年2月24日、県庁において開催され、笠木常任理事が出席した。平成22年度結核健康診断結果報告、平成23年度結核健康診断実施、学校における結核感染者発生時の連絡体制などについて報告、協議、意見交換が行われた。学校現場で結核対策のメインになるのが、定期健康診断の前に結核健康診断問診票を配付して定期健康診断時に学校医がチェックし要精検者を選ぶことである。ここ数年鳥取県での要精検者数は小・中・高校生合わせて約50名弱で結核者は見つかっていない。要精検者になる理由として一番多いのが、結核蔓延国から帰国した子女で約4割である。なお、鳥取県では問診票の内容は現状どおりとするが、文科省では今後、問診票だけで判別しているのか、また問診票の内容を変えていけないといけないうかが検討されている。

医療経済対策

1. 看護職員対策

1 准看護師養成事業に対する県補助金

今年度の准看護師養成事業に対する県補助金は下記のとおり各学校に交付される予定である。

鳥取看専 9,356,000円

倉吉看専 10,096,000円

米子看専 8,966,000円

2 看護高等専修学校卒業生の表彰

本年3月、鳥取・倉吉・米子の各看護高等専修学校の卒業式にはそれぞれ関係役員が出席、祝辞を述べた。また、成績優秀な卒業生1名に対し、県医師会長表彰として表彰状と記念品を贈った。

3 鳥取県准看護師試験委員会

1) 平成22年9月2日、県庁において開催され、米川・岡田両理事、新田監事が出席した。鳥取県准看護師試験委員と実施状況について報告があった後、平成22年度鳥取県准看護師試験の実施方法、試験問題の作成について協議、意見交換が行われた。今年度の試験は、平成23年2月18日に実施される。

2) 平成23年3月10日、県庁において開催され、米川理事、岡田理事、新田監事が出席した。平成22年度の鳥取県准看護師試験は2月18日に実施されて120人が合格し、中国5県と比較して高得点の成績であった。今年度から四国・九州ブロックと同日に試験を実施したが、来年度も平成24年2月17日(金)に同日開催するということである。

4 鳥取県看護職員確保対策連絡協議会

平成22年10月21日、看護研修センターにお

いて開催され、明穂理事より出席報告があった。平成22年度鳥取県看護職員確保対策事業とナースセンター事業の実施状況について報告があった後、看護職員確保対策として、再就業促進について潜在看護職員の把握方法、看護職員離職防止・定着推進、就職ガイダンス、などについて協議、意見交換が行われた。

5 医師会立看護高等専修学校連絡協議会

平成22年12月11日、県医師会館において県医療政策課、各看護高等専修学校長及び教務主任に出席いただき、開催した。

はじめに県医療政策課より、准看護師試験の日程等及び看護師国家試験と准看護師試験の日程の重複問題などについて報告があった。主な内容は、平成21年度実施状況は受験生177名(県内107、県外70)で不合格は県外2名、平成22年度の准看護師試験日は平成23年2月18日(金)に県看護研修センターにおいて実施され、合格発表は3月15日(火)であること、県内の看護師養成学校の平成22年度入学者数は医師会立看護高等専修学校96名、鳥取大学及び県立など全県で367名(県内出身者79.6%)、などであった。

引き続き、各看護高等専修学校より学校の概要、生徒数、運営状況などについて資料をもとに報告があり、意見交換を行なった。詳細は、会報第667号に掲載した。

6 鳥取県看護協会総会

平成22年6月27日、鳥取県看護研修センターにおいて開催され、岡本会長が来賓祝辞を述べてきた。会館一杯の参加者で盛会であった。

広報活動の充実

1. 県医師会報の発行

県医師会報は本会広報の主力をなすものであり、県医師会報の充実を目途に広報活動の強化に努めた。編集方針は、情報の伝達、執行部の意見開陳のほか、随筆等発表の場としている。

本年3月15日までの発行回数は、第646号から第657号の12回と臨時号3回の計15回であっ

た。毎月の発行部数は1,600部で、全会員のほか日医及び各都道府県医師会、関係機関等へ送付した。

2. 「広報委員会」「会報編集委員会」合同委員会

平成22年7月29日、県医師会館において開催した。平成21年度広報関係事業報告のあと、対

外広報、対内広報のそれぞれの取組みについて協議、意見交換を行った。対外広報については、今年度新たな取り組みとして過去2年間実施した土曜会（報道各社支局長）との懇談会を発展させ、現場で記事を書く記者の方々と懇談会を実施することとした。詳細は、会報第662号に掲載した。

3. 会報編集委員会

平成23年2月17日、県医師会館において開催した。印刷会社の選定、表紙デザインや内容、体裁の検討など会報編集方針を協議、意見交換を行った。詳細は、会報第669号に掲載した。

4. 報道記者との懇談会

平成23年2月3日、県医師会館において、平成23年度からの新事業として報道記者との懇談会を開催した。この懇談会は、過去2年間実施した土曜会（報道各社支局長）との懇談会を発展させたものである。当日は、県医師会より医師会の概要、がん検診等の取組みについての説明を行った後、報道各社より事前にいただいた医師不足や救急医療に関する質問を元に活発な意見交換を行った。詳細は、会報第668号に掲載した。

5. 鳥取県医師会メーリングリストについて

本会では、地域における医師会情報・医療情報の共有と会員同士の親睦を目的に次の6つのメーリングリストを運営している。

1. 総合メーリングリスト（一般的な話題）
2. 連絡用メーリングリスト（医師会からの連絡など）
3. 緊急用メーリングリスト（医師会のサーバが使えない緊急時に用いるもの）
4. パソコンメーリングリスト（パソコン等の情報関係の話題）
5. ORCAメーリングリスト（ORCAに関連した話題）
6. 学校医メーリングリスト（学校保健等の話題）

6. 鳥取県医師会ホームページ

平成9年11月に開設し、対外的（一般の頁）かつ対内的（会員用の頁）に情報提供を行っている。一般の頁では、公開健康講座の案内、県医からのお知らせ等を掲載し、会員用の頁では、データ化された県医会報などの情報を会員に提供している。

7. 県民健康教育

昭和55年9月より日本海新聞に掲載している「保健の窓」は1,142回となった。また、平成6年2月より日本海新聞に掲載している「健康なんでも相談室『鳥取県医師会Q&A』」は509回となった。

1. 健康フォーラム2010開催について

例年日本海新聞社と共催で開催している「健康フォーラム」を、本年度は次のとおり開催した。（聴講者351名）なお、「健康セミナー」との通算では25回目となる。

日 時 平成22年9月18日（土）

午後1時30分～4時30分

会 場 「鳥取大学医学部記念講堂」鳥取県米子市西町86

テーマ 多様化する現代のうつ病を考える
—うつ病への正しい理解と対応のため—

講演および講師

1. 「若い人のうつ—いわゆる現代型うつ病をめぐって—」

東京女子医科大学神経精神科 教授
坂元 薫 先生

2. 「中高年のうつ—その特徴と正しい理解、地域・職域における自殺予防をめぐって—」

鳥取大学医学部脳神経医学講座
精神行動医学分野 教授

中込和幸 先生

2. 鳥取県医師会公開健康講座・健康医療相談

平成3年4月、鳥取県健康会館竣工に伴いひろく県民の健康教育を図るため、同年5月16日より毎月1回、第3木曜日の午後2時から3時30分まで（講演1時間・質疑応答30分）鳥取県健康会館において「鳥取県医師会公開健康講座」を開催している。但し、このうち2回は昨年度同様、米子・倉吉でそれぞれ1回開催した。

なお、本講座は、平成7年度より鳥取県立生涯学習センターが行う「とっとり県民カレッジ・健康スポーツコース」の連携講座として協力している。

公開健康講座の広報については日本海新聞「保健の窓」欄を利用して周知したほか、日医白クマ通信、各新聞社等へもPRしている。

また、毎月1～4の各木曜日の午後1時間

30分から1時間実施している面談による健康医療相談については、第1週：精神科、第2・4週：内科、第3週：整形外科として実施した。

「本年度開催した公開健康講座」

第220回 平成21年4月15日

「とても身近なCKD（慢性腎臓病）の話」
鳥取大学医学部統合内科医学講座 機能病態内科学分野講師 宗村千潮先生

第221回 平成22年5月20日

「急増するCOPD（慢性閉塞性肺疾患）～肺年齢を知ろう～」

鳥取大学医学部統合内科医学講座 分子制御内科学分野教授 清水英治先生

第222回 平成22年6月17日

「メタボ健診との上手なつきあい方」

鳥取大学医学部統合内科医学講座 病態情報内科学分野准教授 谷口晋一先生

第223回 平成22年7月15日

「脳卒中は怖くない—その予防、早期発見・早期治療をめぐる—」

鳥取県立中央病院脳神経外科部長

田淵貞治先生

第224回 平成22年8月19日

「知っておこう！アルコールとのつき合い方～女性と未成年者に迫るアルコールの危険、そして飲酒運転～」

明和会医療福祉センター渡辺病院診療部長 山下陽三先生

第225回 平成22年9月30日 於倉吉市

「とても身近なCKD（慢性腎臓病）の話」
鳥取大学医学部統合内科医学講座 機能病態内科学分野講師 宗村千潮先生

第226回 平成22年10月21日

「肩こりと手足のしびれ」

鳥取赤十字病院第二整形外科部長

高橋敏明先生

第227回 平成22年11月18日

「日本が危ない—増え続ける糖尿病」

鳥取県立中央病院内科医長

樋崎晃史先生

第228回 平成22年12月14日 於米子市

「21世紀の医療 再生医療の現在と未来を探る」

鳥取大学大学院医学系研究科 機能再生医科学専攻 遺伝子再生医療学講座再生医療学分野 教授 久留一郎先生

第229回 平成23年1月20日

「防ごう！肺炎！—高齢者の呼吸器感染症対策—」

日野病院院長

櫃田 豊先生

第230回 平成23年2月17日

「消化器がん検診のこれから」

鳥取県医師会理事

岡田克夫先生

第231回 平成23年3月17日

「高齢者の難聴について」

鳥取赤十字病院耳鼻咽喉科部長

藤田和寿先生

部 会 活 動 の 強 化

1. 母体保護法指定医部会

1 母体保護法指定医師審査委員会

平成22年11月4日、県医師会館において開催した。母体保護法指定医の現況及び人工妊娠中絶・不妊手術実施状況について報告後、「母体保護法指定医師書換え申請」、「指定証様式」、「新指定証交付要領」などについて協議、意見交換を行った。詳細は、会報第666号に掲載した。

2 指定証の交付

今年度は、母体保護法指定医師書換え申請の年にあたり、3地区において指定証の交付を行った。

平成23年3月末日現在、指定医師数は39名（東部12名、中部9名、西部16名、鳥大2名）で、昨年同期に比して1名の増である。本年度の新規指定は、3名であった。

3 家族計画・母体保護法指導者講習会

平成22年12月4日、日医会館において開催され、井庭理事が出席した。原中日医会長による講演「医療の明日のために、今、できること」が行われた。シンポジウムは「母体保護法の理念とその運用」のテーマで、3者によりそれぞれの立場から「日本産婦人科医会の立場から」「日本医師会の立場から」「メディアからみた“人工妊娠中絶”」の発表が行わ

れた。詳細は、会報第667号に掲載した。

2. 学校医部会

1 学校医部会運営委員会

平成22年6月3日、県医師会館において開催した。平成21年度学校医部会事業と日医学校保健講習会について報告があった後、本年度本会が行なう研修会のテーマ及び講師、日医・中国四国・県教委との連絡協議会の出席者と提出議題、鳥取県医師会指定学校医制度（仮称）設置、などについて協議、意見交換を行った。平成23年度中国地区学校医大会は本会の担当で平成23年8月21日（日）に開催する。なお、鳥取県医師会指定学校医制度（仮称）設置のためにワーキンググループをつくり、名称も含めて具体的な検討に入るとともに、地区医師会でも同時に検討していただき、22年秋を目途に制度の概要を固めることとした。その他、学校現場における文書料の取扱いについては事前に学校医部会運営委員の意見を聞き、県教育委員会との連絡協議会において協議を行なった上で理事会に諮る等、協議した。詳細は、会報第661号に掲載した。

2 鳥取県医師会学校医・学校保健研修会

1) 第15回；平成22年9月12日（日）倉吉市・倉吉交流プラザ「視聴覚ホール」において開催した。
出席者 47名（内訳；医師33名 学校関係者14名）

〈学校医・学校保健研修会〉

講演1「子どもの性犯罪被害防止について」
鳥取県警察本部生活安全企画課 課長補佐 山本 清昭氏

講演2「Child maltreatment syndrome
—要保護児童のために—」

鳥取大学医学部附属病院周産期・小児医学 講師 長石 純一先生

講演3「セーフスクールへの道～大阪教育
大学附属池田小学校の例」

鳥取県医師会常任理事 笠木 正明先生
〈新任学校医・新任養護教諭合同研修会〉

「学校保健と学校医～“健康診断医”から
“健康教育者”へ～」

鳥取県医師会理事 笠木 正明 先生
「学校医と連携して学校保健安全を推進するために」

鳥取県教育委員会事務局スポーツ健康教育課健康教育室

指導主事 清末 昭子 氏

2) 第16回；平成23年2月11日（金・祝）倉吉市 倉吉交流プラザ 視聴覚ホールにおいて鳥取県学校保健会と共催にて開催した。
出席者 96名（内訳；医師45名 学校保健会51名）

講演「思春期精神疾患の臨床」

*平成22年度第2回思春期精神疾患対応力向上研修（連携編、実践編）

鳥取大学医学部脳神経医科学講座 精神行動医学分野助教 佐竹 隆宏 先生
講演「子宮頸がんの現状と対策」

鳥取大学医学部婦人科腫瘍科 教授・附属病院がんセンター長

紀川 純三 先生

3 中国地区学校医大会

平成22年8月22日、山口県医師会担当により山口県総合保健会館・山口市において開催され、岡本会長、明穂・笠木両常任理事、地区医師会代表者が出席した。

各県からの研究発表5題、特別講演2題(1)「不登校の子ども達のくらしと心」(2)「学校保健の現状と課題」などが行われた。当県の研究発表では、長石純一先生（鳥大医学部附属病院周産期・小児医学講師）から、「小中学校での課題授業『みんなの体は宝物』の取り組み」と題して発表された。最後に、次期担当県医師会（鳥取県）岡本会長より、来年度は鳥取市で平成23年8月21日（日）に開催する旨の挨拶があり、閉会した。

また、中国地区学校医大会に先立ち「中国四国学校保健担当理事連絡会議」が行われ、明穂・笠木両常任理事が出席した。日医より石川常任理事をコメンテータにお迎えして、各県から提出された12議題について討議が行われた。鳥取県からは、本連絡協議会はこのまま続けるが、「中国地区学校医大会」の開催については、一般学校医の参加状況が芳しくなく、また各県からの研究発表にも負担を感じるなどの意見もあったため、継続や内容について問題提起した。いろいろな意見が出されたが、この件については、改めて中国四国医師会9県の代表で話し合った上、結論を出すことになった。詳細は、会報第663号に掲載

載した。

〈学校医大会等の開催について・アンケート調査〉

平成22年8月22日、山口県医師会担当で開催した「平成22年度中国四国学校保健担当理事連絡会議」席上、本会より提出した議題「中国地区学校医大会の意義・実施内容」については結論が出ず、改めて11月6日行われる「中国四国医師会連合各種研究会：地域医療・その他研究会」席上で協議されることとなった。これにより当日の資料とするため平成22年10月標記アンケート調査を実施し、学校医大会開催についての基本的な考え方・構成・内容・名称・開催順・中四国連絡会議の開催・費用負担等7項目について調査した。

この他、平成22年12月22日付けにて、ブロック毎の学校医大会の開催状況を照会した。

4 第41回全国学校保健・学校医大会

平成22年11月20日、群馬県前橋市において、「守ろう育てよう子どもたちの健康と生きる力—学校医からのメッセージ—」をメインテーマに開催され、笠木常任理事、地区医師会代表者が出席した。

午前中に5分科会『からだ・こころ(1)感染症・予防接種・生活習慣病』、『からだ・こころ(2)学校健診・健康教育』、『からだ・こころ(3)こころ・性教育・実態調査』、『耳鼻咽喉科』、『眼科』の後、都道府県医師会連絡会議が行なわれ、次期担当県が静岡県医師会に決定した。午後からは、表彰式、シンポジウム「学校におけるアレルギー疾患の現状と取り組み」、特別講演が行われた。

5 日医学校保健講習会

平成23年2月19日、日医会館において開催され、笠木常任理事、地区医師会代表者が出席した。当日は、3講演「最近の学校健康教育行政の課題について」「思春期の健康教育—産婦人科の立場から—」「子宮頸ガンにおけるHPVワクチンの意義」と、医師、臨床心理士、養護教諭、保護者のそれぞれの立場から、4人のシンポジストによるシンポジウム「普通学校における高機能自閉症の子どもをどのように考えるか」が行われた。今後は、各地区医師会において伝達講習を行う。

6 日医母子保健講習会

平成23年2月20日、日医会館において、

「子ども支援日本医師会宣言の実現を目指して—5」をメインテーマに開催され、笠木常任理事、地区医師会代表者が出席した。

午前のシンポジウムは、「HTLV-1母子感染予防対策について」を、午後のシンポジウムは、「0歳児における虐待防止対策の取り組み」をテーマに、それぞれ行政を含む4人のシンポジストによる講演・報告の後、討議が行われた。

3. 産業医部会

1 日医認定産業医

平成2年度より発足した「日本医師会認定産業医制度」による認定産業医は、平成23年3月末現在377名（東部：144名、中部：62名、西部：155名、鳥大：16名）である。なお、平成22年度の更新者は53名（東部：20名、中部：10名、西部：23名）であった。

2 産業医部会運営委員会

平成22年5月12日、県医師会館において開催し、平成21年度事業報告及び平成22年度事業計画、平成22年度地域産業保健センター事業などについて協議、意見交換を行なった。詳細は、会報第660号へ掲載した。

平成23年1月27日、「第32回産業保健活動推進全国会議」が日医会館において開催され、吉田理事、地区医師会担当理事、コーディネーターなどが出席した。詳細は、会報第669号へ掲載した。

3 産業医研修会

〔第1回〕【基礎研修（実地・後期）&生涯研修（更新・実地・専門）：5単位】

日 時 平成22年8月1日（日）

場 所 鳥取県医師会館 鳥取市戎町

出席者 134名（県内：115名、県外：19名）

〔認定産業医115名、未認定産業医19名〕

〔内容〕

(1) 『勤労者のメンタルヘルス～うつ病の早期発見と援助』

鳥取県医師会常任理事 渡辺 憲 先生

(2) 『職場の喫煙対策について』

東部医師会理事 安陪隆明 先生

(3) 『最近の労働安全衛生対策について』

鳥取労働局労働基準部

大路曜太郎 部長

(4) 『女性労働者の健康管理について』

鳥根産業保健推進センター相談員

松江記念病院健康支援センター顧問

春木宥子 先生

(5) 『職場の感染症対策』

鳥取県医師会常任理事 笠木正明 先生
〔第2回〕【基礎研修（実地・後期）&生涯
研修（更新・実地・専門）：5単位】

日 時 平成22年9月26日（日）

場 所 日本海ふれあいホール（新日本海新
聞社内）米子市両三柳

出席者 103名（県内：97名、県外：6名）

〔認定産業医93名、未認定産業医10名〕

〔内容〕

(1) 『最近の労働安全衛生対策について』

鳥取労働局労働基準部安全衛生課

東 好宣 課長

(2) 『働く女性の健康管理』

鳥大医学部附属病院ワークライフバランス
支援センター講師

（内分泌代謝内科） 福井裕子 先生

(3) 『職場における喫煙対策』

鳥大医学部附属病院薬物治療科教授

長谷川純一 先生

(4) 『職場の感染症対策』

鳥取県医師会常任理事 笠木正明 先生

(5) 『勤労者のメンタルヘルス対策について』

鳥大医学部精神行動医学分野講師

山田武史 先生

〔第3回〕【基礎研修（実地・後期）&生涯
研修（更新・実地・専門）：5単位】

日 時 平成22年11月28日（日）

場 所 まなびタウンとうはく 琴浦町徳万

出席者 56名（県内：51名、県外：5名）

〔認定産業医51名、未認定産業医5名〕

〔内容〕

(1) 『最近の労働安全衛生対策について』

鳥取労働局労働基準部安全衛生課

東 好宣 課長

(2) 『職場の喫煙対策について』

東部医師会理事 安陪隆明 先生

(3) 『勤労者のメンタルヘルス～うつ病の早
期発見と援助』

鳥取県医師会常任理事 渡辺 憲 先生

(4) 『女性労働者の健康管理について～婦人
科疾患を中心に～』

鳥取赤十字病院産婦人科部長

竹内 薫 先生

(5) 『職場の感染症対策』

鳥取県医師会常任理事 笠木正明 先生

4 鳥取県地域産業保健センター

平成22年度より、これまで各地区医師会に
委託され順調に運営されてきた地域産業保健
センター事業を本会が一括受託して実施する
こととなった。健康相談窓口実績は、昨年よ
り上がっている。働き盛り層メンタルヘルス
ケア支援事業として、講演会を東部：平成22
年10月28日（木）とりぎん文化会館、中部：
平成22年11月18日（木）倉吉未来中心、西部：
平成22年11月17日（水）米子市文化ホールに
おいて開催した。

第1回運営協議会を平成23年2月22日、県
医師会館において関係団体等が参集し、平成
22年度事業実績報告、鳥取産業保健推進セン
ター統合に伴う地域産業保健センター事業の
在り方、今後の事業活動などについて協議、
意見交換を行なった。詳細は、会報第669号
へ掲載した。

5 鳥取県産業保健協議会

平成22年11月11日、ホテルモナーク鳥取に
おいて県医師会産業医部会運営委員・地区医
師会長・県福祉保健部・鳥取労働局・鳥取産
業保健推進センターなど関係者が参集し、
「労働者の健康診断の事後措置」と「職場の
がん対策」について協議、意見交換を行なっ
た。また、県医師会より産業医部会の21年度
事業報告及び22年度事業計画、労働局より労
働衛生行政及び労災補償の現状等について説
明があった。詳細は、会報第666号へ掲載した。

6 第42回産業医学講習会

平成22年7月8～10日、日医会館において
開催された。

7 第38回鳥取県産業安全衛生大会

平成22年7月2日、とりぎん文化会館ホー
ルにおいて開催され、岡本会長が出席した。
席上、永年産業医功労により橋本英宣先生
（鳥取市）、柿坂紀武先生（若桜町）に鳥取
県医師会長表彰を授与した。大会では各企業
から活動事例発表、特別講演などが行われた。

8 鳥取県産業保健推進センター

センター主催、県医師会共催による産業医
研修会を下記のとおり開催し、本会から日医
認定産業医制度指定研修会として申請し、承
認を受けている。

○実地研修（職場巡視）【生涯研修（実地）：2単位】

- (1) 日 時 平成23年1月13日（木）
場 所 (株)アサヒメッキ 鳥取市南栄町
出席者 認定産業医2名
- (2) 日 時 平成23年2月17日（木）
場 所 日本海冷凍魚(株) 境港市昭和町
出席者 認定産業医15名

○実地研修（化学物質リスクアセスメント演習—健康障害防止用）【生涯研修（実地）：2単位】

- (1) 日 時 平成22年12月16日（木）
場 所 鳥取産業保健推進センター 鳥取市扇町
出席者 認定産業医4名
- (2) 日 時 平成23年3月10日（木）
場 所 米子コンベンションセンター
米子市末広町
出席者 認定産業医16名

○産業医等へのメンタルヘルス対策及び過重労働による健康障害防止対策に係る研修会

【生涯（更新）：3.5単位】

- 日 時 平成22年12月5日（日）
場 所 鳥取産業保健推進センター 鳥取市扇町
出席者 認定産業医18名

[内容]

- (1) メンタルヘルス対策
鳥取県医師会常任理事 渡辺 憲 先生
- (2) 職場復帰支援対策
鳥取産業保健推進センターカウンセリング相談員 芦村 浩 氏
- (3) 長時間労働に対する医師による面接指導等の手法
鳥大医学部健康政策医学分野教授 黒沢洋一 先生

○精神科医等に対する産業保健に関する研修会

【生涯（専門）：3単位】

- 日 時 平成22年12月19日（日）
場 所 米子コンベンションセンター
米子市末広町
出席者 認定産業医7名

[内容]

- (1) 産業保健概論、職場のメンタルヘルス対策及び職場復帰支援対策
鳥取産業保健推進センターカウンセリン

グ相談員 芦村 浩 氏

- (2) 職場のメンタルヘルス対策の事例検討
鳥大医学部精神行動医学分野教授 中込和幸 先生

4. スポーツ医部会

平成3年度より発足した日本医師会認定健康スポーツ医は、平成23年3月末現在76名である。

1 健康スポーツ医学講習会

〔日本医師会主催〕於日本医師会館
前期：平成22年10月16日・17日
後期：平成22年11月13日・14日

この他、(財)日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会受講者の推薦依頼があったので、受講希望のあった会員を報告した。

2 健康スポーツ医学再研修会

1)〔鳥取臨床スポーツ医学研究会主催〕取得単位1単位

期 日：平成22年4月3日
場 所：米子市・米子全日空ホテル

2)〔山陰肩研究会主催〕取得単位1単位

期 日：平成22年10月23日
場 所：米子市・米子全日空ホテル

3)〔鳥取県東部医師会主催〕取得単位1単位

期 日：平成22年12月16日
場 所：鳥取市・鳥取県東部医師会館

5. 勤務医部会

1 全国医師会勤務医部会連絡協議会

平成22年10月9日、宇都宮市において栃木県医師会の担当により、「地域医療再生～地域の力、医師の団結～」をメインテーマとして開催され、清水理事より出席報告があった。

当日は、特別講演2題(1)「医療の明日のために、今、できること—日本医師会の変革と地域医療の再生—」(原中日医会長)、(2)「すぐに役立つ勤務医のための医療と経済の基礎知識—そして必要なのは産業論的戦略行動—」(石原 謙 愛媛大学医療環境情報解析講座教授)、日医勤務医委員会報告、女性医師問題に関するアンケート調査報告(栃木県)、次期担当県(富山県)挨拶が行われた。

午後からは、ランチョンセミナー「新型インフルエンザ・総括」(尾身 茂 自治医科大学教授)と「医療再生の新しい取り組み」。「今、勤務医に求められる“医療連携”とは」をテーマにしたシンポジウムがそれぞれ行われた。詳細は、会報第665号に掲載した。

2 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会
平成22年11月19日、日医会館において開催され、清水理事より出席報告があった。本年度担当の栃木県医師会から全国医師会勤務医部会連絡協議会の実施報告があり、「栃木宣言」が正式発表された。次年度は富山県医師会の担当で平成23年10月29日（土）に開催予定である。

「勤務医の視点からの医師会改革」をテーマとした協議では、3県医師会（秋田・新潟・宮崎）から勤務医活動報告があった後、各都道府県医師会からあらかじめ寄せられていた意見や要望について活発な意見交換が行なわれた。詳細は、会報第666号に掲載した。

6. 病院部会

1 鳥取県病院協会定期総会

平成22年6月2日、ホテルセントパレス倉吉において開催され、会長代理として天野副会長が会長代理として来賓挨拶を述べてきた。

7. 自賠責部会

1 鳥取県自動車保険医療連絡協議会

平成23年1月13日、県医師会館において鳥取自賠責損害調査事務所及び鳥取地区損害サービス分科会に参集いただき、昨年度に引き続いて開催した。近年、大きな問題はなかったが、この度、会員へ自動車保険医療費に関する諸問題についてアンケート調査を実施した結果、4件寄せられ、その事例について協議、意見交換を行なった。詳細は、会報第668号へ掲載した。

2 鳥取県自動車保険医療連絡協議会

平成23年3月11日、米子コンベンションセンターにおいて県臨床整形外科医会、日本損害保険協会、鳥取自賠責損害調査事務所との共催で開催し、講演2題(1)「自賠責保険制度について」（鳥取自賠責損害調査事務所 益田敏明所長）、(2)「頸椎捻挫に対する初期対応と留意点」（鳥根県立中央病院医療局次長 齊鹿 稔先生）を行なった。

会 員 福 祉 対 策

1. 共済制度の解散

鳥取県医師会共済会は、会員の福祉事業として昭和48年10月に発足し、会員福祉事業の中核として約37年にわたり、会員の相互扶助と福祉の増進に寄与してきたが、平成22年3月6日開催の第181回定例代議員会において、共済会を解散する議案について原案通り可決され、平成

22年3月31日をもって解散した。

残余財産については、会員の掛け金総額に係数を乗じた金額（ただし、個々の会員がすでに給付を受けた金額を控除する）を分配することとした。

解散から清算までについては以下のとおりである。

年 月	内 容
平成22年 3月31日	共済会解散。 入院中及び継続で自宅療養分については給付対象。
9月30日	給付申請の最終締切
11月24日	加入会員へ分配金送金先口座の確認通知を発送。
12月4日	共済会の清算業務にかかる委員会。 残余財産、分配金の計算。
12月24日	加入会員へ分配金額の通知を発送。
12月28日	分配金の送金。 会員数515名、分配金非対象者29名 分配金対象者486名、分配金総額：123,162,300円
平成23年 2月17日	第11回理事会。 会計監査、清算を報告。
3月19日	第184回定例代議員会。 決算承認ならびに清算を報告。

2. 協力貯蓄の推進

1 協力貯蓄の運営状況

協力貯蓄は、平成20年5月より第10次の積立（平成25年4月まで）を開始している。

平成23年3月末現在の加入者数は、東部77名、中部21名、西部53名、計151名である。

融資利率は、短期プライムレート及びそれに連動する新長期プライムレートを基準にしている。

3. 勤務医協力貯蓄の推進

1 勤務会員協力貯蓄の運営状況

勤務会員協力貯蓄は、平成22年5月より第9次の積立（平成27年4月まで）を開始している。平成23年3月末現在の加入者数は、東部36名、中部11名、西部32名、大学14名、計93名である。

融資利率は、協力貯蓄と同じく、短期プライムレート及びそれに連動する新長期プライムレートを基準にしている。

融 資 期 間	協力貯蓄 融資利率	勤務会員協力 貯蓄融資利率
1 年 以 内	1.680%	2.030%
1年超 3年以内	1.780%	2.130%
3年超 5年以内	1.880%	2.230%
5年超 10年以内	2.080%	2.430%
10年超 15年以内	2.280%	2.630%
15年超 20年以内	2.480%	2.830%
20年超 25年以内	2.680%	3.030%

4. 医事紛争対策

1 医事紛争処理委員会

平成23年2月26日、県医師会館において開催した。議事として、「中国四国医師会 医事紛争・医療安全研究会（11/6）」と「日医

医事紛争担当理事連絡協議会（12/16）」出席報告と、県内における医事紛争処理の取扱い状況を資料に基づき説明し、今後の処理方針について協議、意見交換を行なった。平成22年度の状況は、新規受付1件、解決済4件（立ち消え2件、示談1件、和解1件）、裁判中4件、折衝中4件で、年度末未解決分8件などとなっている。

2 中国四国医師会連合医事紛争・医療安全研究会

平成22年11月6日、高知県医師会の担当により、高知新阪急ホテルにおいて、ブロック

会議の研究会として開催された。日医から高杉常任理事、畔柳参与、伊澤医事法・医療安全課長、高島医賠責対策課長をコメンテーターに迎えて、各県からの提出議題8題及び日医への要望・提言6題について討論が行なわれた。鳥取県からは、「医療安全調査委員会設置法案大綱（案）」は廃案にしてよいのかについて議題を提出した。詳細は、会報第666号へ掲載した。

3 都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会

平成22年12月16日、日医会館において開催され、井庭理事が出席した。日医医賠責保険の運営に関する経過と山形・和歌山両県医師会から医療事故紛争対策と活動状況について報告があった後、「医療事故の紛争処理とADR」をテーマに弁護士の畔柳日医参与から説明があった。

医療事故に基づく紛争の複雑性は「感情の紛争」と「勘定の紛争」の識別にあり、「勘定」の紛争であることが明確な時には、医療関係者は法律的な紛争と認識して対処すべきである。この場合、事故を起こした医師以外の者が本人に代わって交渉し、解決に当たることが重要である。なお、弁護士以外の者が、業として法律事務を行なうことは罰則付きで禁止されている。また、「医療メディエーター業務」はADRでなく、病院のクレーム係そのものである。仲介者が第三者であることが重要である。

その後、事前に寄せられていた都道府県医師会からの質問及び要望に対する日医の見解や回答が示された。詳細は、会報第667号へ掲載した。

4 日本医師会医療事故防止研修会

平成22年12月12日、日医会館において、「医療事故削減戦略システムのセカンドステージに向けて」をテーマに開催され、明穂常任理事、地区医師会代表者が出席した。当日は、講演5題(1)医療安全対策委員会の成果とこれからの方向、(2)医療安全全国共同行動の輪を広げよう、(3)地域で取り組む医療安全対策、(4)産婦人科における医療事故報告制度、(5)法律家の視点から見た医療安全対策、の後、「医療事故削減戦略システムのセカンドステージに向けて」をテーマに総合討論が行わ

れた。後日、冊子「医療事故削減戦略システム」が日医雑誌とともに日医会員等に配布される。詳細は、会報第667号へ掲載した。

5. 日医医師賠償責任保険

日医医師賠償責任保険（100万～1億円補償）は、昭和48年7月から発足し、現在141名の勤務会員も加入しているが、現行の日医医賠責保険でカバーできない部分について、日医A会員が任意で加入できる「日医医賠責特約保険（1億超～2億円補償）」が平成13年度より創設された。平成22年7月1日～平成23年7月1日までの期間の加入者は、182名である。

6. 損保ジャパン医師賠償責任保険加入会員

平成23年3月末日現在、医師賠償責任保険加入会員数は538名で、地区別に示すと次のとおりである。総数は、昨年より3名の増である。

東部223名 中部91名 西部208名 大学16名 計538名

7. 日本医師会医師年金の加入

平成22年12月末現在、本県会員の医師年金加入者は133名で、加入者数を地区別に示すと次のとおりである。

東部50名 中部21名 西部61名 鳥大1名 計133名

この他に年金受給者は

東部66名 中部27名 西部64名 計157名

8. 日本医師従業員国民年金基金

日医が設立母体となり、平成3年4月創設、同年5月14日設立認可を得て発足し、本県加入総数64名である。（平成23年3月31日現在）

9. 生命保険加入代理店の業務

第一、日本、明治安田、住友、T&Dフィナ

ンシャル、損保ジャパン、三井の7社と契約を締結存続し、会員福祉向上に努めている。平成23年3月末日現在、各社の契約件数は次のとおりである。

第一	125件	日本	165件
明治安田	34件	住友	41件
グループ	683件	T&Dフィナンシャル	14件
退職共済	30件	損保ジャパン	176件
三井	48件		

10. 鳥取県医療機関厚生年金基金への対応

1) 加入者数

平成5年4月1日に発足した「鳥取県医療機関厚生年金基金」について、加入者数は4,512名、加入事業所は122である。（平成23年3月31日現在）

2) 理事会・代議員会について

平成22年9月18日、鳥取ワシントンホテルにおいて開催され、魚谷常任理事より出席報告があった。代議員会に提出する議案である報告事項と審議事項、年金の記録突合結果の中間報告などについて説明が行われた。今後、本会常任理事会等で機会を作り、医療機関厚生年金基金の具体的な運用状況などについて説明をしていただくよう要望することとなった。

11. 図書斡旋

2011年医師日記を希望会員に斡旋した。

第1号議案 平成22年度鳥取県医師会一般会計収支決算承認について

平成22年度鳥取県医師会一般会計収支決算書〔総括〕

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部			差 異
科 目	現計予算額	決 算 額	科 目	現計予算額	決 算 額	差 異
1. 事業活動収入			1. 事業活動支出			
1. 会 費 (44.15%)	80,442,000	80,099,000	1. 事業費 (33.82%)	61,542,010	46,087,362	-15,454,648
2. 入 会 金 (2.48%)	5,000,000	4,500,000	1. 医学向上費	9,640,000	9,019,038	-620,962
3. 負 担 金 (1.02%)	1,860,000	1,860,000	2. 地域社会活動費	11,979,000	8,433,890	-3,545,110
4. 補 助 金 (8.24%)	13,406,000	14,952,870	3. 社会保障対策費	4,040,000	1,490,032	-2,549,968
5. 寄 付 金 (0%)	10,000	0	4. 医政対策費	4,450,000	1,600,977	-2,849,023
6. 雑 収 入 (13.66%)	9,076,000	24,780,334	5. 医療経済対策費	2,540,010	2,540,010	0
7. 繰 入 金 (7.28%)	12,960,000	13,200,000	6. 広報活動費	10,900,000	9,564,089	-1,335,911
			7. 部会費	7,873,000	5,852,437	-2,020,563
			8. 福祉対策費	3,150,000	2,593,789	-556,211
			9. 地区医師会連絡費	5,970,000	4,695,161	-1,274,839
			10. 諸支出金	1,000,000	297,939	-702,061
			2. 管理費 (62.86%)	89,870,911	85,662,857	-4,208,054
			1. 事務費	74,539,000	71,638,745	-2,900,255
			2. 会議費	9,420,000	8,301,201	-1,118,799
			3. 負担金	1,185,000	996,000	-189,000
			4. 会館管理運営費	4,726,911	4,726,911	0
2. 投資活動収入			2. 投資活動支出			
1. 特定預金取崩収入 (0.28%)	30,000	500,000	1. 特定資産支出 (3.32%)	4,540,000	4,530,000	-10,000
3. 財務活動収入			3. 財務活動支出			
			4. 予備費支出 (0%)	1,831,079	0	-1,831,079
当期収入合計 (A)	122,784,000	139,892,204	当期支出合計 (C)	157,784,000	136,280,219	-21,503,781
前期繰越収支差額 (22.89%)	35,000,000	41,521,307	当期収支差額 (A-C)	-35,000,000	3,611,985	38,611,985
収 入 合 計 (B)	157,784,000	181,413,511	次期繰越収支差額 (B-C)	0	45,133,292	45,133,292

平成22年度鳥取県医師会一般会計収支決算書

(単位：円)

科 目	当初予算額	決算額	差異	摘 要
(1) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 会 費	80,442,000	80,099,000	-343,000	
1. 会 費 収 入 (44.15%)	80,442,000	80,099,000	-343,000	
1. 会 費 収 入	78,068,000	77,749,000	-319,000	
(1) 均等割会費収入	78,068,000	77,749,000	-319,000	
2. 特別会費収入	2,374,000	2,350,000	-24,000	
(1) 医事紛争処理委員会会費	784,000	792,000	8,000	東部 297,000円、中部 136,800円、西部 358,200円
(2) 学校医部会会費	660,000	660,000	0	東部 270,000円、中部 111,000円、西部 273,000円、大学 6,000円
(3) 産業医部会会費	930,000	898,000	-32,000	東部 328,000円、中部 156,000円、西部 380,000円、大学 34,000円
2. 入 会 金 収 入	5,000,000	4,500,000	-500,000	
1. 入 会 金 収 入 (2.48%)	5,000,000	4,500,000	-500,000	9 名
1. 入 会 金 収 入	5,000,000	4,500,000	-500,000	
3. 負 担 金	1,860,000	1,860,000	0	
1. 負 担 金 収 入 (1.02%)	1,860,000	1,860,000	0	
1. 会館維持負担金	1,860,000	1,860,000	0	医師国保組合 損保ジャパン 代理店北陽サービス 1,260,000円 600,000円
4. 補 助 金	13,406,000	14,952,870	1,546,870	
1. 補助金等収入 (8.24%)	13,406,000	14,952,870	1,546,870	

科	目	当初予算額	決算額	差	異	摘	要
1. 日 医 補 助 金	都道府県医師会助成費						2,586,000円
	生涯教育助成費						1,179,500円
	勤務医活動助成費						500,000円
	年金普及推進運動助成費						100,000円
	医師会立准看護師養成所助成金						450,000円
	医師会立准看護師養成所助成金						570,000円
	医賠責特約保険制度運営経費						450,000円
	糖尿病対策地域支援費						250,000円
	予防接種対策地域支援費						300,000円
	指導医のための教育ワークショップ補助金						113,400円
2. 県委託金・補助金	日医生涯教育制度改正に伴うシステム変更補助金						300,000円
	女子医学生・研修医等をサポートするための会開催助成金						300,000円
	日本の医療を守る国民運動展開に係る活動経費補助金						500,000円
	特別医療費助成事業協力費						2,500,000円
	臨床検査精度管理推進事業補助金						477,559円
	高度救命処置研修開催事業補助金						525,914円
	小児救急地域医師研修事業委託金						413,573円
	臨床研修指導医講習会開催事業委託金						1,165,000円
	かかりつけ医と精神科医との連携会議委託金						445,063円
	かかりつけ医の健康対応力向上研修事業委託金						136,000円
3. 産業医研修委託金	産業医研修委託金						1,790,861円
	産業医研修連絡協議会委託金						200,000円
5. 寄 付 金							
1. 寄 付 金	(0%)						
1. 寄 付 金							
6. 雑 収 入							
1. 雑 収 入	(13.66%)						
1. 受 取 利 息							
		100,000	61,725	-38,275		普通預金利息 18,178円 積立金利息 43,547円	

科	目	当初予算額	決算額	差異	摘要
					医師賠償保険人件費負担金 1,920,000円 健対協人件費負担金 2,316,000円 健対協会報印刷代負担金 875,304円 健対協電話・コピー代負担金 592,698円 労災保険情報センター協力費 690,000円 会員名簿、会報代 69,000円 医学雑誌別刷他個人負担分 208,800円 産業医研修会県外受講者受講料 102,000円 自賠責保険研修会助成金 119,624円 世界糖尿デーライトアップイベントに対する助成金 327,720円 有床診療所協議会会費 340,000円 地域産業保健センター事務所共益費 600,000円 地域産業保健センター事務補助労務費 432,000円 共済会会計繰入金 16,650円 第一生命株式会社に伴う分配金 14,058,073円 その他 181,740円
2.	雑収入	6,876,000	22,849,609	15,973,609	
3.	広告・手数料他収入	2,100,000	1,869,000	-231,000	会場使用料 29,000円 母体保護法指定手数料 255,000円 会報・医学雑誌・会員名簿広告料 1,215,000円 日医認定産業医・スपोर्ट医申請手数料 370,000円
7.	繰入金	12,960,000	13,200,000	240,000	
1.	繰入金 (7.28%)	12,960,000	13,200,000	240,000	
1.	生命保険取扱特別会計繰入金収入	12,960,000	13,200,000	240,000	
	事業活動収入計	122,754,000	139,392,204	16,638,204	

科 目	当初予算額	流 用 額	予 備 費 の 使 用 額	現 計 予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
2. 事業活動支出							
1. 事業費 (33.82%)	61,522,000	0	20,010	61,542,010	46,087,362	-15,454,648	
1. 医学向上費 (6.62%)	9,640,000	0	0	9,640,000	9,019,038	-620,962	
1. 医学会費	3,940,000	71,038	0	4,011,038	4,011,038	0	医学会費 生涯教育講座地区委託金 890,846円 生涯教育費 1,000,000円 生涯教育費 126,388円 鳥取医学賞 62,600円 指導医のための教育ワークショップ開催費 1,304,404円 生涯教育システム変更料 226,800円 日本医学会総会事前登録費 400,000円
2. 中国四国医師会医学会費	1,900,000	-71,038	0	1,828,962	1,241,580	-587,382	各種研究会旅費 (高知) 1,071,580円 各種研究会懇親会費 170,000円
3. 鳥取医学雑誌発行費	3,800,000	0	0	3,800,000	3,766,420	-33,580	印刷費 3,078,390円 送料 86,475円 総説論文執筆等謝礼 95,000円 委員会費 506,555円
2. 地域社会活動費 (6.19%)	11,979,000	0	0	11,979,000	8,433,890	-3,545,110	
1. 地域社会費	2,400,000	0	0	2,400,000	2,360,593	-39,407	健康対策協議会補助金 1,300,000円 禁煙指導対策委員会 25,340円 禁煙指導対策地区補助金 300,000円 世界禁煙デーイベントに関する地区医師会補助金 150,000円 かかりつけ医と精神科医との連携会議 72,240円 かかりつけ医と精神科医との連携でニューラル修正版印刷費 226,275円 うつ病に関するかかりつけ医アンケート経費 77,536円 思春期精神疾患対応力向上研修 138,510円 送料 70,692円

科	目	当初予算額	流用額	予備費の 使用額	現計予算額	決算額	差	異	摘	要
2.	調査研究費	2,105,000	0	0	2,105,000	1,632,358	-472,642		資料整備費 臨床検査精度管理費 臨床検査精度管理委員会 メディアフアックス購読料	55,660円 875,739円 146,559円 554,400円
3.	糖尿病対策費	600,000	80,715	0	680,715	680,715	0		糖尿病対策推進会議 糖尿病対策地区医師会助成金 世界糖尿病デーアップデートイベント経費 送料他	68,675円 240,000円 327,720円 44,320円
4.	救急・防災 対策費	1,572,000	-80,715	0	1,491,285	1,025,489	-465,796		日本救急医学会中国四国地方会費等 高度救命処置研修開催経費 小児救急地域医師研修事業地区委託金 衛星・災害時優先携帯電話代 送料	5,000円 526,414円 413,573円 77,482円 3,020円
5.	情報システム 対策費	4,052,000	0	0	4,052,000	2,441,936	-1,610,064		情報システム運営管理費 ホームページ管理ソフトサポート料 初級パソコンセミナー経費 iPad購入費(2台)	1,927,701円 252,000円 88,315円 173,920円
6.	感染症対策費	850,000	0	0	850,000	215,900	-634,100		感染症危機管理対策委員会 予防接種対策地区助成金 送料	52,720円 150,000円 13,180円
7.	特定健診・ 保健指導 対策費	400,000	0	0	400,000	76,899	-323,101		送料	76,899円
3.	社会保障対策費 (1.09%)	4,040,000	0	0	4,040,000	1,490,032	-2,549,968			
1.	社会保障医療 対策費	240,000	0	0	240,000	70,000	-170,000		健保立会旅費	

科 目	当初予算額	流 用 額	予 備 費 の 使 用 額	現 計 予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
2. 社会保障部費	3,500,000	0	0	3,500,000	1,380,912	-2,119,088	医療保険委員会 日医社会保険指導者講習会 印刷費他 送料
3. 介護保険費	300,000	0	0	300,000	39,120	-260,880	介護保険対策委員会
4. 医政対策費 (1.17%)	4,450,000	0	0	4,450,000	1,600,977	-2,849,023	
1. 医政関係費	1,400,000	0	0	1,400,000	601,293	-798,707	医療懇話会 三師会 県教育委員会連絡協議会
診療情報提供・自浄作用 活性化・医療 安全対策費	950,000	0	0	950,000	0	-950,000	
3. 個人情報 保護対策費	100,000	0	0	100,000	0	-100,000	
4. 会長交際費	800,000	0	0	800,000	308,087	-491,913	
5. 県医交際費	1,200,000	0	0	1,200,000	691,597	-508,403	
5. 医療経済対策費 (1.87%)	2,520,000	0	20,010	2,540,010	2,540,010	0	
1. 経営対策費	1,150,000	0	9,756	1,159,756	1,159,756	0	有床診療所協議会設立総会 全国有床診療所連絡協議会総会等旅費 全国有床診療所協議会費 全国有床診療所協議会中四国ブロック会費 送料
2. 医事紛争 対策費	1,370,000	0	10,254	1,380,254	1,380,254	0	医事紛争処理委員会 弁護士顧問料 医事紛争相談料 日医医療事故防止研修会地区助成金
							496,226円 233,320円 340,000円 80,000円 10,210円 183,588円 666,666円 350,000円 180,000円

科 目	当初予算額	流 用 額	予 備 費 の 使 用 額	現 計 予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
6. 広報活動費 (7.02%)	10,900,000	0	0	10,900,000	9,564,089	-1,335,911	
1. 会 報 費	9,900,000	0	0	9,900,000	8,967,491	-932,509	印刷費 7,529,445円 送料 1,345,866円 編集費 60,000円 会報編集委員会 32,180円
2. 広報宣伝費	1,000,000	0	0	1,000,000	596,598	-403,402	健康フォーラム経費 290,239円 広報・会報編集委員会合同委員会 157,212円 報道記者との懇談会 130,327円 送料 18,820円
7. 部会費(4.29%)	7,873,000	0	0	7,873,000	5,852,437	-2,020,563	
1. 母体保護法 指定医部会	300,000	0	0	300,000	166,320	-133,680	母体保護法指定助成金 100,000円 母体保護法指定医師審査委員会他 56,900円 送料 9,420円
2. 学校医部会	2,423,000	0	0	2,423,000	2,013,296	-409,704	全国・中国学校保健学校医大会 508,130円 日医学校医講習会 141,640円 中四国学校保健担当理事打合せ 112,728円 日本学校保健会会報 224,000円 学校保健会負担金 80,000円 学校医部会運営委員会 28,120円 学校医・学校保健研修会 299,095円 地区医師会補助金 559,000円 送料他 60,583円
3. 健康スポーツ 医 部 会	300,000	0	0	300,000	38,870	-261,130	送料 38,870円
4. 労災・自賠責 部 会	800,000	0	0	800,000	219,321	-580,679	自賠責保険研修会 103,174円 自動車保険医療連絡協議会 71,680円 送料 44,467円

科 目	当初予算額	流 用 額	予 備 費 の 使 用 額	現 計 予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
5. 産 業 医 部 会	3,150,000	0	0	3,150,000	2,709,016	-440,984	産業医研修会 1,706,856円 産業医部会運営委員会 234,514円 産業保健協議会 345,965円 産業安全衛生大会 106,000円 産業保健活動全国会議 34,760円 送料他 280,921円
6. 病院連絡会議	200,000	0	0	200,000	100,000	-100,000	病院協会補助金 100,000円
7. 勤 務 医 部 会	700,000	0	0	700,000	605,614	-94,386	全国医師会勤務医部会連絡協議会 107,530円 女子医学生、研修医等サポート研修会 498,084円
8. 福 祉 対 策 費 (1.90%)	3,150,000	0	0	3,150,000	2,593,789	-556,211	
1. 福 祉 事 業 費	1,900,000	-64,699	0	1,835,301	1,416,590	-418,711	会員名簿印刷代 1,374,450円 送料 42,140円
2. 表 彰 弔 慰 費	1,050,000	64,699	0	1,114,699	1,114,699	0	表彰費 854,199円 弔慰費 260,500円
3. 協 力 貯 蓄 費 運 営 費	200,000	0	0	200,000	62,500	-137,500	送料 62,500円
9. 地 区 医 師 会 連 絡 費(3.45%)	5,970,000	0	0	5,970,000	4,695,161	-1,274,839	
1. 連 絡 協 議 会 費	1,600,000	0	0	1,600,000	325,161	-1,274,839	看護高等専修学校連絡協議会 130,627円 看護高等専修学校表彰者記念品代他 44,534円 地区連絡費 150,000円
2. 地 区 医 師 会 補 助 金	1,850,000	0	0	1,850,000	1,850,000	0	東部 550,000円、中部 550,000円 西部 550,000円、大学 200,000円
3. 地 区 医 師 会 交 付 金	1,280,000	0	0	1,280,000	1,280,000	0	東部 450,000円、中部 250,000円 西部 450,000円、大学 130,000円
4. 事 務 費 交 付 金	1,240,000	0	0	1,240,000	1,240,000	0	東部 480,000円、中部 200,000円 西部 500,000円、大学 60,000円
10. 諸 支 出 金 (0.22%)	1,000,000	0	0	1,000,000	297,939	-702,061	

科 目	当初予算額	流 用 額	予 備 費 の 使 用 額	現 計 予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
1. 特別事業費	500,000	0	0	500,000	297,939	-202,061	公益法人改革に関する研修会 297,939円
2. その他支出金	500,000	0	0	500,000	0	-500,000	
2. 管理費 (62.86%)	89,726,000	0	144,911	89,870,911	85,662,857	-4,208,054	
1. 事務費 (52.57%)	74,539,000	0	0	74,539,000	71,638,745	-2,900,255	
1. 報酬	8,236,000	789,500	0	9,025,500	9,025,500	0	
(1) 役員報酬	8,226,000	299,500	0	8,525,500	8,525,500	0	役員報酬 7,990,000円 顧問税理士報酬 378,000円 収益事業申告書作成報酬 157,500円
(2) 退任役員 慰勞金	10,000	490,000	0	500,000	500,000	0	1名
2. 給与	37,579,000	0	0	37,579,000	37,555,730	-23,270	
(1) 給料	24,707,000	-312,930	0	24,394,070	24,380,800	-13,270	
(2) 職員手当	12,862,000	312,930	0	13,174,930	13,174,930	0	
(3) 退職金	10,000	0	0	10,000	0	-10,000	
3. 旅費	6,000,000	-789,500	0	5,210,500	3,670,680	-1,539,820	役員旅費 1,757,500円 職員旅費 1,913,180円
4. 一般事務費	4,888,000	-22,050	0	4,865,950	4,846,933	-19,017	需要費 2,671,095円 法人会計システムリース料 387,884円 コピー機・パソコンリース料 439,572円 電報電話料 539,477円 送料、口座振込・振替手数料 808,905円
5. 交通費	1,300,000	22,050	0	1,322,050	1,322,050	0	

科 目	当初予算額	流 用 額	予 備 費 の 使 用 額	現 計 予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
6. 共 済 費	7,086,000	0	0	7,086,000	7,036,346	-49,654	健保厚生年金保険料 5,336,664円 労働保険料 481,152円 中小企業退職金共済掛金 576,000円 役員傷害保険料 642,530円
7. 福 利 厚 生 費	550,000	-44,040	0	505,960	52,827	-453,133	職員健康診断費用 52,827円
8. 光 熱 水 費	3,100,000	44,040	0	3,144,040	3,144,040	0	電気代 2,106,550円 水道代 334,062円 ガス代 33,057円 灯油代 670,371円
9. 公 課 費	5,800,000	0	0	5,800,000	4,984,639	-815,361	固定資産税 4,412,200円 収益事業に係る税金 572,439円
2. 会 議 費 (6.09%)	9,420,000	0	0	9,420,000	8,301,201	-1,118,799	
1. 総 会 費	800,000	0	0	800,000	614,700	-185,300	
2. 代 議 員 会 費	2,500,000	0	0	2,500,000	2,147,152	-352,848	旅費 (3回) 1,328,520円 諸費 (3回) 509,022円 印刷費・送料 309,610円
3. 理 事 会 費	5,470,000	69,349	0	5,539,349	5,539,349	0	常任理事会 (11回) 1,428,274円 理事会 (12回) 4,111,075円
4. 監 事 会 費	200,000	-69,349	0	130,651	0	-130,651	
5. 委 員 会 費	450,000	0	0	450,000	0	-450,000	
3. 負 担 金 (0.73%)	1,185,000	0	0	1,185,000	996,000	-189,000	
1. 中国四国医師会連合負担金	985,000	0	0	985,000	847,800	-137,200	中国四国医師会連合総会負担金(高知) 830,800円 中国四国医師会事務局長会議負担金 17,000円
2. 関 係 団 体 負 担 金	200,000	0	0	200,000	148,200	-51,800	

科 目	当初予算額	流 用 額	予 備 費 の 使 用 額	現計予算額	決 算 額	差 異	摘 要
4. 会館管理運営費 (3.47%)	4,582,000	0	144,911	4,726,911	4,726,911	0	会館清掃料 エレベーター保守料 警備保障料 空調設備保守点検料 電気関係保安監理手数料 自動火災報知設備保守点検料 火災保険料 オイルタンク管理料 その他の管理料等
1. 維持管理費	4,282,000	-203,989	0	4,078,011	4,078,011	0	1,205,400円 756,000円 504,000円 903,000円 180,936円 157,500円 201,600円 63,000円 106,575円
2. 管理運営費	300,000	203,989	144,911	648,900	648,900	0	会館玄関前等植木補植作業代 会館手動式防火スチール部品交換代等 会館男子トイレ便器感知センサー取替代 会館駐車場区画線設置代 会館駐車場除雪代
事業活動支出計	151,248,000	0	164,921	151,412,921	131,750,219	-19,662,702	
事業活動収支差額	-28,494,000	0	-164,921	-28,658,921	7,641,985	36,300,906	

科	目	当初予算額	決算額	差	異	摘	要
(Ⅱ)	投資活動収支の部						
1.	投資活動収入						
1.	特定預金取崩収入	30,000	500,000	470,000			
1.	特定預金取崩収入 (0.28%)	30,000	500,000	470,000			
1.	役員退職慰労金積立金取崩収入	10,000	500,000	490,000			
2.	職員退職積立金取崩収入	10,000	0	-10,000			
3.	医事紛争処理積立金取崩収入	10,000	0	-10,000			
	投資活動収入計	30,000	500,000	470,000			

科	目	当初予算額	流用額	予備費の 使用額	現計予算額	決算額	差	異	摘	要
2.	投資活動支出									
1.	特定資産支出 (3.32%)	4,480,000	0	60,000	4,540,000	4,530,000	-10,000			
1.	特定預金支出	4,480,000	0	60,000	4,540,000	4,530,000	-10,000			
1.	役員退職 慰労金積立金	710,000	0	60,000	770,000	770,000	0		(別途積立金 4,220,000円)	
2.	職員退職 給与積立金	3,760,000	0	0	3,760,000	3,760,000	0		(別途積立金 64,919,179円)	
3.	医事紛争処理 積立金	10,000	0	0	10,000	0	-10,000		(別途積立金 4,800,000円)	
	投資活動支出計	4,480,000	0	60,000	4,540,000	4,530,000	-10,000			
	投資活動収支差額	-4,450,000	0	-60,000	-4,510,000	-4,030,000	480,000			

科	目	当初予算額	決算額	差異	摘要
(Ⅲ) 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計		0	0	0	

科	目	当初予算額	流用額	予備費の使用額	現計予算額	決算額	差異	摘要
2. 財務活動支出								
財務活動支出計		0	0	0	0	0	0	
財務活動収支差額		0	0	0	0	0	0	
(Ⅳ) 予備費支出								
1. 予備費(0%)		2,056,000	0	-224,921	1,831,079	0	-1,831,079	
1. 予備費		2,056,000	0	-224,921	1,831,079	0	-1,831,079	
1. 予備費		2,056,000	0	-224,921	1,831,079	0	-1,831,079	
当期収支差額		-35,000,000	0	0	-35,000,000	3,611,985	38,611,985	
前期繰越収支差額(22.89%)		35,000,000	0	0	35,000,000	41,521,307	6,521,307	
次期繰越収支差額		0			0	45,133,292	45,133,292	

平成22年度鳥取県医師会会費納入明細書

(1) 均等割会費

(単位：円)

地区医師会名	平成22年2月1日現在 会費額(予算額)	調 定 額	収 入 済 額	未 収 額	当初予算額に対する 増 減
東 部 医 師 会	29,114,000	29,008,000	29,008,000	0	-106,000
中 部 医 師 会	12,950,000	12,950,000	12,950,000	0	0
西 部 医 師 会	34,596,000	34,597,000	34,597,000	0	1,000
鳥大医学部医師会	1,408,000	1,194,000	1,194,000	0	-214,000
計	78,068,000	77,749,000	77,749,000	0	-319,000

平成22年度鳥取県医師会会館修繕積立金会計収支決算書

(単位：円)

科 目	当初予算額	決 算 額	差 異	摘 要
(I) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 会 費 収 入				
1. 積 立 金	9,984,000	10,046,000	62,000	東部 3,720,000円 中部 1,728,000円 西部 4,598,000円
2. 雑 収 入				
1. 雑 収 入	1,000	14,045	13,045	普通預金利息
事業活動収入計	9,985,000	10,060,045	75,045	
2. 事業活動支出				
1. 管理費支出				
1. 諸 経 費	10,000	420	-9,580	口座振込手数料
2. 修 繕 費	66,050,000	640,500	-65,409,500	会館トイレ便座取替改修工事代
事業活動支出計	66,060,000	640,920	-65,419,080	
事業活動収支差額	-56,075,000	9,419,125	65,494,125	
(II) 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
(III) 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
(IV) 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	-56,075,000	9,419,125	65,494,125	
前期繰越収支差額	56,075,000	56,085,907	10,907	
次期繰越収支差額	0	65,505,032	65,505,032	

平成22年度鳥取県医師会生命保険取扱特別会計収支決算書

(単位：円)

科 目	当初予算額	決 算 額	差 異	摘 要
(I) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 事業収入				
1. 団体事務費	13,200,000	13,703,500	503,500	第一生命他9社
2. 雑収入				
1. 雑収入	10,000	1,962	-8,038	普通預金利息
事業活動収入計	13,210,000	13,705,462	495,462	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出				
1. 一般事務費	400,000	363,164	-36,836	口座振込・振替手数料、送料
2. 他会計への繰入金支出				
1. 繰出金	12,960,000	13,200,000	240,000	一般会計へ
事業活動支出計	13,360,000	13,563,164	203,164	
事業活動収支差額	-150,000	142,298	292,298	
(II) 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
(III) 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
(IV) 予備費支出				
1. 予備費				
1. 予備費	200,000	0	-200,000	
当期収支差額	-350,000	142,298	492,298	
前期繰越収支差額	350,000	344,844	-5,156	
次期繰越収支差額	0	487,142	487,142	

※配当金については、毎年かなりの変動があるが、全額会員への配当金となるため計上していない。

平成22年度鳥取県地域産業保健センター会計収支決算書

(単位：円)

科 目	当初予算額	決 算 額	差 異	摘 要
(I) 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 事業収入				
1. 委託金	17,313,030	15,834,594	1,478,436	鳥取労働局
2. 雑収入				
1. 雑収入	0	0	0	
事業活動収入計	17,313,030	15,834,594	1,478,436	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出				
1. 諸謝金	11,313,600	9,559,103	1,754,497	医師、コーディネーター等
2. 旅費	550,000	353,270	196,730	
3. 庁費	4,625,000	5,542,860	-917,860	
4. 消費税相当額	824,430	379,361	445,069	
事業活動支出計	17,313,030	15,834,594	1,478,436	
事業活動収支差額	0	0	0	
(II) 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
(III) 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
(IV) 予備費支出				
1. 予備費				
1. 予備費	0	0	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

平成22年度鳥取県医師会（一般・特別会計）収支決算書総括表



（単位：円）

科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計			内部取引消去
			会館修繕積立金	生命保険	地産保センター	
(I) 事業活動収支の部						
1. 事業活動収入						
1. 会費収入	90,145,000	80,099,000	10,046,000			
2. 入会金収入	4,500,000	4,500,000				
3. 負担金収入	1,860,000	1,860,000				
4. 補助金等収入	14,952,870	14,952,870				
5. 寄付金	0					
6. 雑収入	24,796,341	24,780,334	14,045	1,962		
7. 繰入金	0	13,200,000				-13,200,000
8. 財産収入	0					
9. 団体事務費	13,703,500			13,703,500		
10. 委託金	15,834,594				15,834,594	
事業活動収入計	165,792,305	139,392,204	10,060,045	13,705,462	15,834,594	-13,200,000
2. 事業活動支出						
1. 事業費	62,285,120	46,087,362		363,164	15,834,594	
2. 管理費	86,303,777	85,662,857	640,920			
3. 繰出金	0			13,200,000		-13,200,000
事業活動支出計	148,588,897	131,750,219	640,920	13,563,164	15,834,594	-13,200,000
事業活動収支差額	17,203,408	7,641,985	9,419,125	142,298	0	
(II) 投資活動収支の部						
1. 投資活動収入						
1. 特定預金取崩収入	500,000	500,000				
投資活動収入計	500,000	500,000	0	0	0	
2. 投資活動支出						
1. 特定資産支出	4,530,000	4,530,000				
投資活動支出計	4,530,000	4,530,000	0	0	0	
投資活動収支差額	-4,030,000	-4,030,000	0	0	0	
(III) 財務活動収支の部						
1. 財務活動収入						
財務活動収入計	0	0	0	0	0	
2. 財務活動支出						
財務活動支出計	0	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	
(IV) 予備費支出						
1. 予備費	0	0	0			0
当期収支差額	13,173,408	3,611,985	9,419,125	142,298	0	
前期繰越収支差額	97,952,058	41,521,307	56,085,907	344,844	0	
次期繰越収支差額	111,125,466	45,133,292	65,505,032	487,142	0	

会計監査報告書

平成22年度一般会計、特別会計収支決算書並びに財産目録について、関係諸帳簿等を照合し慎重に監査した結果、適正であることを認めます。

平成23年 6月23日

監 事 石井 敏雄 
監 事 新田 辰雄 

鳥取県医師会長 岡 本 公 男 殿

平成23年度鳥取県医師会会費減免申請一覧（追加分）

申請理由 地区	高 齢	傷 病	研 修 医	不慮の災害	そ の 他 特別の事由	計	減 免 総 額
東 部	0	1	16	0	0	17	202,000
中 部	0	0	3	0	0	3	33,000
西 部	0	0	0	0	0	0	0
大 学	0	0	1	0	0	1	11,000
計	0	1	20	0	0	21	246,000

会費減免申請の詳細

【傷病】

所 属 医師会	会員 種別	氏 名	所 属 病 院	申 請 理 由
東 部	B	岸 憲 太 郎	尾 崎 病 院	病気療養中

【研修医】

所 属 医師会	会員 種別	氏 名	所 属 病 院	所 属 医師会	会員 種別	氏 名	所 属 病 院
東 部	B	長 野 祥 子	鳥取県立中央病院	東 部	B	武 本 祐	鳥取県立中央病院
〃	B	村 上 裕 樹	〃	〃	B	山 田 真悠子	鳥取赤十字病院
〃	B	森 崎 剛 史	〃	〃	B	加 藤 亜 結 美	〃
〃	B	近 藤 奈保子	〃	〃	B	井 山 拓 治	〃
〃	B	神 谷 裕 子	〃	〃	B	阪 田 良 一	〃
〃	B	倉 敷 妙 子	〃	〃	B	田 渕 真 基	鳥取市立病院
〃	B	椋 田 権 吾	〃	中 部	B	小 椋 貴 文	鳥取県立厚生病院
〃	B	坂 口 琢 紀	〃	〃	B	大 田 里香子	〃
〃	B	成 富 徳 仁	〃	〃	B	本 田 聡 子	〃
〃	B	戸 杉 夏 樹	〃	鳥取大学	B	田 中 那津美	鳥取大学医学部附属病院

正味財産増減計算書 (総括表)

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	一 般 会 計	共 済 会 会 計	会 館 修 繕 積 立 金 会 計	生 命 保 険 会 計	地 産 保 セ ン タ ー 会 計	内 部 取 引 消 去	合 計
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部		21,225					21,225
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益 財産収入	0	21,225	0	0	0	0	21,225
② 特定資産運用益 特定資産運用益計	0	0	0	0	0	0	0
③ 受取入会金 受取入会金 受取入会金計	4,500,000	0	0	0	0	0	4,500,000
④ 受取会費 受取会費 特別受取会費 積立金収入 受取会費計	77,749,000 2,350,000 80,099,000	0	10,046,000	0	0	0	77,749,000 2,350,000 10,046,000 90,145,000
⑤ 事業収益 団件事務費収益 委託金 事業収益計				13,703,500	15,834,594		13,703,500 15,834,594 29,538,094
⑥ 受取補助金等 日医補助金 県委託金・補助金 産業医研修委託金	7,298,900 5,663,109 1,990,861	0	0	13,703,500	15,834,594	0	7,298,900 5,663,109 1,990,861

科 目	一 般 会 計	共 済 会 会 計	会 館 修 繕 積 立 金 会 計	生 命 保 険 会 計	地 産 保 セ ン タ ー 会 計	内 部 取 引 消 去	合 計
受取補助金等計	14,952,870	0	0	0	0	0	14,952,870
⑦ 受取負担金 会館維持負担金	1,860,000						1,860,000
受取負担金計	1,860,000	0	0	0	0	0	1,860,000
⑧ 受取寄付金							
受取寄付金計	0	0	0	0	0	0	0
⑨ 雑収益 受取利息 広告・手数料他収益 雑収益	61,725 1,869,000 22,849,609	△819,703	14,045	1,962			63,687 1,869,000 22,043,951
雑収益計	24,780,334	△819,703	14,045	1,962	0	0	23,976,638
⑩ 他会計からの繰入額 他会計からの繰入額	13,200,000					13,200,000	0
他会計からの繰入額計	13,200,000	0	0	0	0	13,200,000	0
経常収益計	139,392,204	△798,478	10,060,045	13,705,462	15,834,594	13,200,000	164,993,827
(2) 経常費用							
① 事業費							
医学向上費	9,019,038						9,019,038
地域社会活動費	8,433,890						8,433,890
社会保障対策費	1,490,032						1,490,032
医政対策費	1,600,977						1,600,977
医療経済対策費	2,540,010						2,540,010
広報活動費	9,564,089						9,564,089
部会費	5,852,437						5,852,437
福祉対策費	2,593,789						2,593,789
地区医師会連絡費	4,695,161						4,695,161
諸支出金	297,939						297,939
病気療養見舞金 還付金		2,775,000 123,162,300					2,775,000 123,162,300

科 目	一 般 会 計	共 済 会 会 計	会 館 修 繕 積 立 金 会 計	生 命 保 険 会 計	地 産 保 セ ン タ ー 会 計	内 部 取 引 消 去	合 計
修繕費			640,500				640,500
通信費				363,164			363,164
諸謝金					9,559,103		9,559,103
旅費					353,270		353,270
庁費					5,542,860		5,542,860
租税公課					379,361		379,361
事業費計	46,087,362	125,937,300	640,500	363,164	15,834,594	0	188,862,920
② 管理費							
報酬	8,525,500						8,525,500
給与	24,380,800						24,380,800
職員手当	13,174,930						13,174,930
退職金	500,000						500,000
共済費	7,036,346						7,036,346
旅費	3,670,680						3,670,680
一般事務費	4,846,933	256,784					5,103,717
交通費	1,322,050						1,322,050
福利厚生費	52,827						52,827
光熱水費	3,144,040						3,144,040
建物減価償却費	23,628		11,043,303				11,066,931
構築物減価償却費	24,984		201,673				226,657
什器備品減価償却費	283,470		259,805				543,275
ソフトウェア減価償却費	279,625						279,625
公課金	4,984,639						4,984,639
総会費	614,700						614,700
代議員会費	2,147,152						2,147,152
理事会費	5,539,349						5,539,349
監事会費	0						0
委員会費	0	68,660					68,660
中国四国医師会連合負担金	847,800						847,800
関係団体負担金	148,200						148,200
会館維持管理費	4,078,011						4,078,011

科 目	一 般 会 計	共 済 会 会 計	会 館 修 繕 積 立 金 会 計	生 命 保 険 会 計	地 産 保 セ ン タ ー 会 計	内 部 取 引 消 去	合 計
会館管理運営費	648,900						648,900
諸経費			420				420
管理費計	86,274,564	325,444	11,505,201	0	0	0	98,105,209
③ 他会計への繰出額		16,650		13,200,000		13,200,000	16,650
他会計への繰出額				13,200,000		13,200,000	16,650
他会計への繰出額計	0	16,650	0	13,200,000	0	13,200,000	16,650
経常費用計	132,361,926	126,279,394	12,145,701	13,563,164	15,834,594	13,200,000	286,984,779
当期経常増減額	7,030,278	△127,077,872	△2,085,656	142,298	0	0	△121,990,952
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
① その他の経常外費用							
退職給付引当金繰入額	11,270,000						11,270,000
その他の経常外費用計	11,270,000	0	0	0	0	0	11,270,000
経常外費用計	11,270,000	0	0	0	0	0	11,270,000
当期経常外増減額	△11,270,000	0	0	0	0	0	△11,270,000
税引前当期一般正味財産増減額	△4,239,722	△127,077,872	△2,085,656	142,298	0	0	△133,260,952
当期一般正味財産増減額	△4,239,722	△127,077,872	△2,085,656	142,298	0	0	△133,260,952
一般正味財産期首残高	333,491,418	127,077,872	279,448,899	344,844	0	0	740,363,033
一般正味財産期末残高	329,251,696	0	277,363,243	487,142	0	0	607,102,081
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0

科 目	一 般 会 計	共 済 会 会 計	会 館 修 繕 積 立 金 会 計	生 命 保 険 会 計	地 産 保 セ ン タ ー 会 計	内 部 取 引 消 去	合 計
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	329,251,696	0	277,363,243	487,142	0	0	607,102,081

正味財産増減計算書（一般会計）

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取入会金			
受取入会金	4,500,000	4,500,000	0
受取入会金計	4,500,000	4,500,000	0
② 受取会費			
受取会費	77,749,000	77,039,000	710,000
特別受取会費	2,350,000	2,387,400	△37,400
受取会費計	80,099,000	79,426,400	672,600
③ 受取補助金等			
日医補助金	7,298,900	6,453,250	845,650
県委託金	5,663,109	5,656,752	6,357
産業医研修委託金	1,990,861	2,191,150	△200,289
受取補助金等計	14,952,870	14,301,152	651,718
④ 受取負担金			
社会保険通信負担金	0	453,600	△453,600
会館維持負担金	1,860,000	1,860,000	0
受取負担金計	1,860,000	2,313,600	△453,600
⑤ 雑収益			
受取利息	61,725	153,777	△92,052
広告・手数料他収益	1,869,000	2,097,940	△228,940
雑収益	22,849,609	7,657,821	15,191,788
雑収益計	24,780,334	9,909,538	14,870,796
⑥ 他会計からの繰入額			
他会計からの繰入額	13,200,000	13,800,000	△600,000
他会計からの繰入額計	13,200,000	13,800,000	△600,000
経常収益計	139,392,204	124,250,690	15,141,514
(2) 経常費用			
① 事業費			
医学向上費	9,019,038	7,101,977	1,917,061
地域社会活動費	8,433,890	10,259,797	△1,825,907
社会保障対策費	1,490,032	2,574,846	△1,084,814
医政対策費	1,600,977	1,954,682	△353,705
医療経済対策費	2,540,010	1,536,785	1,003,225
広報活動費	9,564,089	9,661,750	△97,661
部会費	5,852,437	5,218,056	634,381
福祉対策費	2,593,789	2,817,992	△224,203
地区医師会連絡費	4,695,161	4,906,785	△211,624
諸支出金	297,939	0	297,939
事業費計	46,087,362	46,032,670	54,692
② 管理費			

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
報酬	8,525,500	8,225,500	300,000
給与	24,380,800	24,356,400	24,400
職員手当	13,174,930	12,768,400	406,530
退職金	500,000	1,820,000	△1,320,000
共済費	7,036,346	6,504,579	531,767
旅費	3,670,680	4,941,910	△1,271,230
一般事務費	4,846,933	4,330,029	516,904
交通費	1,322,050	1,227,590	94,460
福利厚生費	52,827	59,545	△6,718
光熱水費	3,144,040	2,836,170	307,870
建物減価償却費	23,628	29,418	△5,790
構築物減価償却費	24,984	22,382	2,602
什器備品減価償却費	283,470	484,106	△200,636
ソフトウェア減価償却費	279,625	279,625	0
公課金	4,984,639	5,071,800	△87,161
総会費	614,700	534,176	80,524
代議員会費	2,147,152	3,105,280	△958,128
理事会費	5,539,349	5,322,304	217,045
監事会費	0	111,584	△111,584
中国四国医師会連合負担金	847,800	1,034,900	△187,100
関係団体負担金	148,200	178,200	△30,000
会館維持管理費	4,078,011	4,172,555	△94,544
会館管理運営費	648,900	3,150	645,750
管理費計	86,274,564	87,419,603	△1,145,039
経常費用計	132,361,926	133,452,273	△1,090,347
当期経常増減額	7,030,278	△9,201,583	16,231,861
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
① その他の経常外費用			0
退職給付引当金繰入額	11,270,000	0	11,270,000
その他の経常外費用計	11,270,000	0	11,270,000
経常外費用計	11,270,000	0	11,270,000
当期経常外増減額	△11,270,000	0	△11,270,000
税引前当期一般正味財産増減額	△4,239,722	△9,201,583	4,961,861
当期一般正味財産増減額	△4,239,722	△9,201,583	4,961,861
一般正味財産期首残高	333,491,418	342,693,001	△9,201,583
一般正味財産期末残高	329,251,696	333,491,418	△4,239,722
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	329,251,696	333,491,418	△4,239,722

正味財産増減計算書（共済会会計）

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
財産収入	21,225	51,239	△30,014
② 受取会費			
受取会費	0	13,891,500	△13,891,500
③ 雑収益			
雑収益	△819,703	821,307	△1,641,010
経常収益計	△798,478	14,764,046	△15,562,524
(2) 経常費用			
① 事業費			
病気療養見舞金	2,775,000	9,543,000	△6,768,000
弔慰金	0	6,000,000	△6,000,000
配偶者弔慰金	0	50,000	△50,000
還付金	123,162,300	0	123,162,300
事業費計	125,937,300	15,593,000	110,344,300
② 管理費			
委員会費	68,660	23,793	44,867
一般事務費	256,784	52,074	204,710
管理費計	325,444	75,867	249,577
③ 他会計への繰出額			
他会計への繰出額	16,650	0	16,650
経常費用計	126,279,394	15,668,867	110,610,527
当期経常増減額	△127,077,872	△904,821	△126,173,051
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△127,077,872	△904,821	△126,173,051
当期一般正味財産増減額	△127,077,872	△904,821	△126,173,051
一般正味財産期首残高	127,077,872	127,982,693	△904,821
一般正味財産期末残高	0	127,077,872	△127,077,872
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	127,077,872	△127,077,872

正味財産増減計算書（会館修繕積立金会計）

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費 積立金収入	10,046,000	9,998,000	48,000
② 雑収益 雑収益	14,045	19,946	△5,901
経常収益計	10,060,045	10,017,946	42,099
(2) 経常費用			
① 事業費 修繕費	640,500	618,660	21,840
事業費計	640,500	618,660	21,840
② 管理費 建物減価償却費	11,043,303	12,004,779	△961,476
構築物減価償却費	201,673	232,981	△31,308
什器備品減価償却費	259,805	445,041	△185,236
諸経費	420	840	△420
管理費計	11,505,201	12,683,641	△1,178,440
経常費用計	12,145,701	13,302,301	△1,156,600
当期経常増減額	△2,085,656	△3,284,355	1,198,699
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△2,085,656	△3,284,355	1,198,699
当期一般正味財産増減額	△2,085,656	△3,284,355	1,198,699
一般正味財産期首残高	279,448,899	282,733,254	△3,284,355
一般正味財産期末残高	277,363,243	279,448,899	△2,085,656
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	277,363,243	279,448,899	△2,085,656

正味財産増減計算書（生命保険会計）

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 事業収益			
団体事務費収益	13,703,500	14,217,439	△513,939
② 雑収益			
受取利息	1,962	4,926	△2,964
経常収益計	13,705,462	14,222,365	△516,903
(2) 経常費用			
① 事業費			
通信費	363,164	381,055	△17,891
② 他会計への繰出額			
他会計への繰出額	13,200,000	13,800,000	△600,000
経常費用計	13,563,164	14,181,055	△617,891
当期経常増減額	142,298	41,310	100,988
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	142,298	41,310	100,988
当期一般正味財産増減額	142,298	41,310	100,988
一般正味財産期首残高	344,844	303,534	41,310
一般正味財産期末残高	487,142	344,844	142,298
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	487,142	344,844	142,298

正味財産増減計算書（地産保センター会計）

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 事業収益			
委託金	15,834,594	0	15,834,594
経常収益計	15,834,594	0	15,834,594
(2) 経常費用			
① 事業費			
諸謝金	9,559,103	0	9,559,103
旅費	353,270	0	353,270
庁費	5,542,860	0	5,542,860
租税公課	379,361	0	379,361
事業費計	15,834,594	0	15,834,594
経常費用計	15,834,594	0	15,834,594
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0

貸借対照表 (総括表)

平成23年3月31日現在

(単位：円)

科 目	一 般 会 計	共 済 会 計	会館修繕積立金会計	生 命 保 険 会 計	地産保センター会計	合 計
I 資産の部						
1. 流動資産						
現金預金	39,846,073	0	65,505,032	487,142	1,857,868	107,696,115
未収金	9,047,909	0	0	0	0	9,047,909
流動資産合計	48,893,982	0	65,505,032	487,142	1,857,868	116,744,024
2. 固定資産						
(1) 基本財産						
基本財産合計	0	0	0	0	0	0
(2) 特定資産						
退職給付引当資産	69,139,179	0	0	0	0	69,139,179
医事紛争積立資産	4,800,000	0	0	0	0	4,800,000
共済会積立資産	0	0	0	0	0	0
特定資産合計	73,939,179	0	0	0	0	73,939,179
(3) その他固定資産						
建物	1,085,808	0	609,250,780	0	0	610,336,588
構築物	1,000,000	0	18,687,331	0	0	19,687,331
什器備品	6,470,415	0	48,511,552	0	0	54,981,967
土地	273,522,350	0	0	0	0	273,522,350
減価償却累計額	△ 7,285,794	0	△ 464,591,452	0	0	△ 471,877,246
無形固定資産償却累計額	△ 2,956,250	0	0	0	0	△ 2,956,250
投資有価証券	0	0	0	0	0	0
コンピュータソフトウェア	3,261,875	0	0	0	0	3,261,875
その他固定資産合計	275,098,404	0	211,858,211	0	0	486,956,615
固定資産合計	349,037,583	0	211,858,211	0	0	560,895,794
資産合計	397,931,565	0	277,363,243	487,142	1,857,868	677,639,818
II 負債の部						
1. 流動負債						
未払金	3,760,690	0	0	0	379,361	4,140,051
仮受金	0	0	0	0	1,478,507	1,478,507
流動負債合計	3,760,690	0	0	0	1,857,868	5,618,558
2. 固定負債						
退職給付引当金	64,919,179	0	0	0	0	64,919,179
固定負債合計	64,919,179	0	0	0	0	64,919,179
負債合計	68,679,869	0	0	0	1,857,868	70,537,737
III 正味財産の部						
1. 指定正味財産						
正味財産合計	329,251,696	0	277,363,243	487,142	0	607,102,081
2. 一般正味財産	329,251,696	0	277,363,243	487,142	0	607,102,081
負債及び正味財産合計	397,931,565	0	277,363,243	487,142	1,857,868	677,639,818

貸借対照表（一般会計）

平成23年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	39,846,073	26,972,590	12,873,483
未 収 金	9,047,909	9,423,527	△ 375,618
流動資産合計	48,893,982	36,396,117	12,497,865
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	69,139,179	65,109,179	4,030,000
医事紛争積立資産	4,800,000	4,800,000	0
特定資産合計	73,939,179	69,909,179	4,030,000
(3) その他固定資産			
建 物	1,085,808	1,085,808	0
構 築 物	1,000,000	1,000,000	0
什器備品	6,470,415	6,470,415	0
土 地	273,522,350	273,522,350	0
減価償却累計額	△ 7,285,794	△ 6,953,712	△ 332,082
無形固定資産償却累計額	△ 2,956,250	△ 2,676,625	△ 279,625
投資有価証券	0	10,000,000	△ 10,000,000
コンピュータソフトウェア	3,261,875	3,261,875	0
その他固定資産合計	275,098,404	285,710,111	△ 10,611,707
固定資産合計	349,037,583	355,619,290	△ 6,581,707
資産合計	397,931,565	392,015,407	5,916,158
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	3,760,690	4,874,810	△ 1,114,120
流動負債合計	3,760,690	4,874,810	△ 1,114,120
2. 固定負債			
退職給付引当金	64,919,179	53,649,179	11,270,000
固定負債合計	64,919,179	53,649,179	11,270,000
負債合計	68,679,869	58,523,989	10,155,880
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	329,251,696	333,491,418	△ 4,239,722
正味財産合計	329,251,696	333,491,418	△ 4,239,722
負債及び正味財産合計	397,931,565	392,015,407	5,916,158

貸借対照表（共済会会計）

平成23年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	0	269,712	△ 269,712
未 収 金	0	820,000	△ 820,000
流動資産合計	0	1,089,712	△ 1,089,712
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
共済会積立資産	0	127,070,000	△ 127,070,000
特定資産合計	0	127,070,000	△ 127,070,000
(3) その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	0	127,070,000	△ 127,070,000
資産合計	0	128,159,712	△ 128,159,712
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	0	1,081,840	△ 1,081,840
流動負債合計	0	1,081,840	△ 1,081,840
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	0	1,081,840	△ 1,081,840
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	0	127,077,872	△ 127,077,872
正味財産合計	0	127,077,872	△ 127,077,872
負債及び正味財産合計	0	128,159,712	△ 128,159,712

貸借対照表（会館修繕積立金会計）

平成23年 3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	65,505,032	56,085,907	9,419,125
流動資産合計	65,505,032	56,085,907	9,419,125
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
建 物	609,250,780	609,250,780	0
構 築 物	18,687,331	18,687,331	0
什器備品	48,511,552	48,511,552	0
減価償却累計額	△ 464,591,452	△ 453,086,671	△ 11,504,781
その他固定資産合計	211,858,211	223,362,992	△ 11,504,781
固定資産合計	211,858,211	223,362,992	△ 11,504,781
資産合計	277,363,243	279,448,899	△ 2,085,656
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	277,363,243	279,448,899	△ 2,085,656
正味財産合計	277,363,243	279,448,899	△ 2,085,656
負債及び正味財産合計	277,363,243	279,448,899	△ 2,085,656

貸借対照表（生命保険会計）

平成23年 3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	487,142	344,844	142,298
流動資産合計	487,142	344,844	142,298
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資産合計	487,142	344,844	142,298
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	487,142	344,844	142,298
正味財産合計	487,142	344,844	142,298
負債及び正味財産合計	487,142	344,844	142,298

貸借対照表（地産保センター会計）

平成23年 3月31日現在

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,857,868	0	1,857,868
流動資産合計	1,857,868	0	1,857,868
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	0	0	0
資産合計	1,857,868	0	1,857,868
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	379,361	0	379,361
仮受金	1,478,507	0	1,478,507
流動負債合計	1,857,868	0	1,857,868
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	1,857,868	0	1,857,868
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	0	0	0
正味財産合計	0	0	0
負債及び正味財産合計	1,857,868	0	1,857,868

財 産 目 録

平成23年 3月31日

資産の部

(単位 ; 円)

科 目	内 訳	金 額	額
I. 流動資産			116,744,024
1. 預 金			107,696,115
	鳥取銀行・本店 普通預金 (一般会計)	26,504,232	
	山陰合同銀行・鳥取営業部 普通預金(一般会計)	13,341,841	
	鳥取銀行・本店 普通預金(会館修繕積立金会計)	29,001,734	
	山陰合同銀行・鳥取営業部 普通預金(会館修繕積立金会計)	36,503,298	
	鳥取銀行・本店 普通預金 (生命保険会計)	487,142	
	山陰合同銀行・鳥取営業部 普通預金(地産保センター会計)	1,857,868	
2. 未収入金			9,047,909
	〔一般会計〕		9,047,909
	均等割会費収入	2,510,000	
	学校医部会費	72,000	
	産業医部会会費	360,000	
	日医補助金	138,000	
	県委託金・補助金	5,663,109	
	雑 収 入	208,800	
	広告・手数料他収入	96,000	
II. 固定資産			560,895,794
1. 有形固定資産			486,650,990
(1) 建 物	鳥取市戎町317番地		610,336,588
	鉄筋コンクリート 4 階建一部 5 階建		
	健康会館		
	建築面積866.94㎡ 延床面積2,091.84㎡		
	建 物	463,119,780	
	付属設備	147,216,808	
(2) 構 築 物			19,687,331
	舗装工事	6,362,671	
	花 壇	8,029,355	
	ブロック塀	3,760,149	
	擁 壁 他	1,535,156	
(3) 器具備品			54,981,967
	1 階研修センター連結イス	9,225,000	
	1 階研修センター舞台吊物装置	5,500,000	
	2 階理事会室会議テーブル・イス	5,827,200	
	2 階常任理事会室会議テーブル・イス	4,030,400	
	3 階資料室平行移動書庫	1,216,000	
	3 階研修室テーブル・チェアー	1,160,000	
	4 階図書室移動棚コンパクトルーム	3,635,160	
	4 階集会室テーブル	1,314,000	
	4 階集会室チェアー	1,296,000	
	4 階集会室ウォール	1,266,900	
	ハートシムACLSトレーニングシステム	2,486,925	
	研修室備品他	18,024,382	

科 目	内 訳	金 額	額
(4) 土 地	鳥取市戎町317番地 宅地 1,957.37㎡	273,522,350	273,522,350
(5) 減価償却累計額	建 物 付属設備 構 築 物 器具備品	-264,827,980 -136,645,317 -17,942,694 -52,461,255	-471,877,246
2. 無形固定資産			305,625
(1) コンピュータソフトウェア	控除システム等 法人会計システム指導料・会員情報管理システム設計料 ホームページ管理ソフト	1,517,250 749,750 994,875	3,261,875
(2) 減価償却累計額			-2,956,250
3. 特定資産			73,939,179
(1) 医事紛争積立金	鳥取銀行・本店 普通預金	4,800,000	
(2) 役員退職積立金	鳥取銀行・本店 普通預金	4,220,000	
(3) 職員退職積立金	鳥取銀行・本店 普通預金	44,145,150	
	山陰合同銀行・鳥取営業部 普通預金	10,386,179	
	中央三井信託銀行・鳥取支店 普通預金	10,387,850	
資 産 合 計			677,639,818

負債の部

(単位；円)

科 目	内 訳	金 額	額
I. 流動負債			5,618,558
1. 未払金			4,140,051
	〔一般会計〕		3,760,690
	鳥取医学雑誌発行費	824,840	
	救急・防災対策費	413,573	
	情報システム対策費	107,100	
	会報費	5,180	
	母体保護法指定医部会	840	
	地区医師会交付金	1,280,000	
	給与職員手当	121,200	
	共済費	368,436	
	光熱水費	67,082	
	公課費	572,439	
	〔地産保センター会計〕		379,361
	消費税相当額	379,361	
2. 仮受金			1,478,507
	〔地産保センター会計〕		1,478,507
	委託金	1,478,507	
II. 固定負債			64,919,179
1. 退職給与引当金		64,919,179	
	負債合計		70,537,737
	差引正味財産		607,102,081

鳥取県医師会報の全文は、鳥取県医師会ホームページでもご覧頂けます。

<http://www.tottori/med.or.jp/>

鳥取県医師会報 臨時号・平成23年 8月15日発行（毎月1回15日発行）

会報編集委員会：渡辺 憲・米川正夫・清水正人・山口由美・秋藤洋一・中安弘幸・松浦順子

● 発行者 社団法人 鳥取県医師会 ● 編集発行人 岡本公男 ● 印刷 勝美印刷(株)

〒680-8585 鳥取市戎町317番地 TEL 0857-27-5566 FAX 0857-29-1578

E-mail : kenishikai@tottori.med.or.jp URL : <http://www.tottori.med.or.jp/>

〒682-0722

東伯郡湯梨浜町はわい長瀬818-1

定価 1部500円（但し、本会会員の購読料は会費に含まれています）



URL : <http://www.tottori.med.or.jp/>